早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点
主催事業報告集

# 新型コロナウイルスと演劇・ミュージアム・社会

主催:早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
演劇映像学連携研究拠点
共催:立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点
主催事業報告集

# 新型コロナウイルスと演劇・ミュージアム・社会

主催:早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
演劇映像学連携研究拠点
共催:立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

# 『新型コロナウイルスと演劇・ミュージアム・社会』刊行にあたって

『新型コロナウイルスと演劇・ミュージアム・社会』と題して、コロナ禍の三年間を振り返るシンポジウムの記録と、年表「新型コロナウイルスと演劇」をお届けする。

二〇二〇年二月に始まるコロナ蔓延期は、演劇史上でも未曾有の期間として振り返られることになるだろう。世界中の劇場が、時を同じくして一斉に活動を止めたというような事態は、有史以来といっても過言ではない。おそらく、その影響力の全貌を、当事者として経験したばかりの我々は、まだ知らないと思う。この先、社会のあらゆるところで、「実は」という形で、コロナ禍の影響が噴出してくるに違いない。

その時に、このコロナ禍の期間を振り返るために、この年表が活用されることを願いたい。たとえば、百年前のスペイン風邪の流行期については、こうした日録単位の経過をたどる記録がない。それではいけない、というのが、歴史を振り返って、後世のために今できることであろう。参照文献として児玉の名前が挙がっているが、これは、雑誌「演劇界」で二〇二〇年四月から始めた「劇界の記録」が、コロナ禍を日録単位で辿る試みの嚆矢であったところから、これを乗り越える形で叙述と取材の型を形成していったことによる。

ただ、年表は、ありとあらゆる事項の羅列なので、その「ありとあらゆる」ところに価値があるが、そこから空気を読みとることは、同じ時間を共有した経験者には可能であっても、後世コロナ禍の期間に関心を抱いた向きには、必ずしも自明ではないかもしれない。そこで、その時には、シンポジウムの記録を参照してもらいたい。コロナ禍を脱しながら、振り返りつつ、さりとて終わりを宣言できない揺れが、リアルに刻まれている。その時々でしか語れない状況の中で、慎重に重ねられた言葉は、様々な面から、後世の参考になるものと思いたい。

シンポジウムにご参加いただいた皆様、年表をまとめるにあたって協力してくださったスタッフ、記録をまとめ上げるのに尽力してくださったスタッフをはじめ、関係各位にあらためて御礼を申し上げたい。

早稲田大学演劇博物館　演劇映像学連携研究拠点
代表　児玉 竜一

# 目　次

『新型コロナウイルスと演劇・ミュージアム・社会』刊行にあたって……児玉　竜一　3

［シンポジウム］

## コロナ禍の三年間――演劇・ミュージアム・社会

開会挨拶……児玉　竜一　8

趣旨説明……鳩飼　未緒　9

コロナ禍と早稲田大学演劇博物館
――二〇二〇年以来の取り組みをふり返る……後藤　隆基　11

四都市のコロナとの三年間をＷＥＢサイト
「世界ステージ・カレンダー with コロナ」で振り返る……伊達　なつめ　16

コロナ禍と美術館・博物館……板倉　聖哲　20

ディスカッション……後藤　隆基／伊達　なつめ／板倉　聖哲／児玉　竜一（司会）　24

［年表］

## 新型コロナウイルスと演劇……34

［シンポジウム］

# コロナ禍の三年間
## ――演劇・ミュージアム・社会

主催：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館　演劇映像学連携研究拠点
共催：立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

# 開会挨拶

児玉 竜一

皆様ご来場ありがとうございます。このシンポジウムは「コロナ禍の三年間」と題しまして、もはや懐かしい三年間かもしれませんが、この間、演劇界だけではなくて、様々な文化の局面が色々な影響を受けました。そこで本日は「演劇・ミュージアム・社会」と副題をつけていますが、様々な局面からこの三年間を振り返り、そして演劇博物館がその中でどのように振る舞っていたかといったようなことをお話ししたいと思っています。詳しくは後で申し上げますが、一連のコロナについての取り組みをずっと続けるわけにもいかず、さりとて完全に閉じるわけにもいかず、最近では第九波という話も出ていますが、今日は一応の中締めぐらいにしたいなと思いつつ、今後どのようにこれを継続していけるかの展望が見えればと考えております。

本日ご登壇の先生方の中で、板倉先生は中国絵画がご専門ですが、わざわざお越しいただきました。伊達さんは大学院の先輩でして、コロナの間ずっとウェブ上で様々にご活躍をしてこられたのでお招きした次第ですし、後藤さんはコロナの真っ只中で演博の助教をお務めでいらっしゃいました。ということで、本日は約二時間、どうぞよろしくお付き合いくださいませ。

# 趣旨説明

鳩飼　未緒

当拠点は演劇博物館を母体とし、二〇〇九年に文部科学省から共同利用・共同研究拠点としての認定を受けて以来、多角的に演劇・映像研究の発展に寄与してまいりました。ちょうど新型コロナウイルスのパンデミックが起こった二〇二〇年に三度目の認定を受けておりまして、過去三年間はコロナ禍の中で試行錯誤しながら、現在に至るまで第三期の共同研究事業を推進しております。そして演劇博物館と演劇映像学連携研究拠点では、感染拡大が始まった二〇二〇年度から、新型コロナウイルスによってもたらされた未曽有の事態を記録に残し、次世代に伝えるという目的のもと、国内外の舞台芸術に関する情報や資料の収集を行ってまいりました。その成果の一部は二〇二一年度の春季企画展「Lost in Pandemic――失われた演劇と新たな表現の地平」、そして図録を兼ねた同名の書籍として公開されまして、研究者のみならず、各種メディアや一般の来館者の皆様からも大きな注目を集めました。その後もこの世界的な災厄が続く中で、当拠点が演劇博物館内のハブとなり、コロナ禍と舞台芸術に関する調査研究を継続してきました。昨年度には「劇場・博物館における舞台芸術資料アーカイブの課題と展望」と題しまして、劇場や博物館が舞台芸術に関する記録や資料をアーカイブすることの意義を問い直すシンポジウムを開催いたしました。また日韓・日英二つの国際オンラインシンポジウムも開催し、日本と韓国両国の「演劇の場」としての劇場という空間を改めて捉えなおす試みや、日本とイギリスにおける演劇の配信事業の現状と課題を議論する試みを行ってきました。また当拠点では、新型コロナウイルスが舞台芸術に具体的にどのような影響を与えてきたのかを記録する「コロナと演劇年表」の作成を二〇二〇年以来続けておりますが、こちらは早稲田大学の文化資源データベースで公開されております。皆様ご自宅からもアクセス可能ですので、どうぞご活用くださいませ。

さてそんな中、今年の五月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが五類に引き下げられ、感染者数の全数把握の中止、マスク着用の緩和など、私たちの生活は着々とポストコロナの時代に移行しつつあります。こうした実情を踏まえ、約三年に及んだパンデミックと国内外の演劇を中心とする芸術、そして社会について、演劇のミュージアムという立場から総括しようというのが今回のイベントです。

まず立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター助教の後藤隆基氏には、演劇博物館の前助教として二〇二一年度の春季企画展「Lost in Pandemic――失われた演劇と新たな表現の地平」を企画した、演劇博物館のコロナ禍における取り組みについて主にご説明いただきます。また演劇ジャーナリストとして活躍される伊達なつめ氏には、日々劇場に通い、その状況について情報を収集し続けたお立場から、コロナ禍の三年間を振り返っていただきたいと考えています。そして東京大学東洋文化研究所教授でいらっしゃる板倉聖哲氏には、美術館、博物館といったミュージアムの動向について、演劇に隣接する美術史家としての立場から、コロナ禍によって及ぼされた影響について広く語っていただきます。

演劇博物館は演劇資料の収集・展示・保存・研究にあたるミュージアムとして長らく活動してまいりました。演劇の実践の場における状況に

も目配せをしつつ、コロナ禍を通じて浮かび上がってきた、ミュージアムたる演劇博物館の事業における課題や展望を共有し、演劇、ひいては文化全体がコロナ禍を超えてポストコロナの時代に末永く発展していくためにいったい何ができるのか、いったい何が必要なのかを議論する場としたいと思いますので、どうぞ最後までお付き合いください。よろしくお願いいたします。

# 第一部

# コロナ禍と早稲田大学演劇博物館
## ——二〇二〇年以来の取り組みをふり返る

後藤 隆基

立教大学の後藤でございます。私は二〇一九年から二一年まで演劇博物館に助教として在職しておりましたが、ご承知のとおり、その間に世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大が起こったため、特に舞台芸術への影響等に関する調査・研究、展示などを担当していました。ですので、本日の私の役割としては、二〇二〇年以降、コロナ禍によって舞台芸術界に何があって、その中で演博が何をしてきたかを思い出してみようということだと思っています。

二〇二〇年以来の演博の取り組みを考える。特にコロナ禍の三年という時間を振り返るとき、第一に、二〇二〇年二月から二〇二二年三月まで、演博の構成員として何をしてきたかということと、第二に、個人として何を考えてきたかというところになると思います。やはり、演劇博物館というミュージアムにいるからこそできた取り組みが非常に大きかった。二〇二二年四月から現在に関しては、任期が終わり、演劇博物館の人間ではなくなったあとに、元構成員として、あるいは個人として、何ができたか、何ができるのか、ということになってくるかと思います。

### ■コロナ禍の三年間

これまでの三年の流れを大雑把にまとめてみました。①二〇二〇年二月下旬から最初の緊急事態宣言が解除されるまで、②そこから劇場が再開を模索していく動き、③二〇二〇年末に感染者数が激増して公演中止のフェーズが次第に変化していった時期、④そこから正常化に向けての動き、⑤二〇二三年五月以降の五類引き下げによる対応の変化……。もちろん、その間にはもっと細かな変化がありますが、大まかにはそんな流れだったかなと思っています。

演劇界全体に関しては、公演の中止・延期いう、映像配信の拡張、緊急事態舞台芸術ネットワークというかつてない横断的な連帯の構築などが大きなトピックではないでしょうか。あるいは、コロナが直接的な引き金にはなったとしても、それまで看過されていた諸課題が顕在化し、それに伴う新たな試みの模索なども挙げられるかと思います。

その中で演劇博物館が何をしてきたか。先ほど児玉館長もおっしゃっていたように、二〇二〇年は遠い昔のようにも思いますし、つい昨日のようにも思えますが、二〇二〇年三月から、演劇博物館ではコロナ禍による中止・延期公演の調査、情報収集、資料整理等を開始しました。私は演博の中でも、近現代日本演劇分野を担当する「演劇情報係」でしたが、当時の公演の中止や延期が激増していく様子を見て、演劇情報係としてはコロナ関連の資料の収集や情報整理を最優先で行いたいと、当時の岡室美奈子館長と児玉竜一副館長に相談し、ご承認いただいて業務を始めました。

演劇情報係は、派遣社員の方二名と私で構成されていましたが、その後、在宅勤務の期間などを経ながら、演博のホームページやSNSを通

じて中止・延期公演に関する資料の提供を呼びかけ、オンライン展示「失われた公演――コロナ禍と演劇の記録／記憶」を公開し、二〇二一年の春季企画展として「Lost in Pandemic――失われた演劇と新たな表現の地平」を実施しました。

## ■演劇博物館の取り組み

ここからは、演博での具体的な動きについて振り返ってみたいと思います。

重言ながら、二〇二〇年二月二六日に当時の安倍晋三首相から、全国的な大型イベントの開催自粛要請の方針が発表されました。俗に「令和の二・二六事件」とも呼ばれますが、これによって、大劇場演劇を中心に、足並みを揃えるように公演の中止あるいは延期が発表されるようになりました。当初は二週間という期限がついていたはずですが、小出しに期限は延引され、そうした事態は三月になってより相次いでいきます。

四月七日の緊急事態宣言の発出によって、ほぼすべての劇場が閉鎖され、早稲田大学では四月八日から構内の立ち入り禁止と教職員の在宅勤務が始まりました。

そういった中で演劇博物館ができること、なすべきことは何かを考え、コロナのために中止・延期せざるをえなかった公演の調査や資料収集を始めました。演劇の上演史に空白ができたこと事実ですが、空白をそのままにしておくと、後世に編まれるであろう年表等では、すべての公演の中止・延期という事態を一括りにした大文字の記述だけが残ってしまう。けれども、その一つ一つが、異なる相貌を持っているわけで、二〇二〇年代が始まったばかりの演劇史の記録として、それらを可能なかぎり後世に残すべきだろうと考えたわけです。

それから、演劇専門の総合博物館を謳っているミュージアムである演劇博物館が、リアルタイムで進行しているこのような有事に対して、何もしないのはありえないだろうという思いもありましたし、坪内逍遙が古今東西あらゆる演劇資料を集めようという理想を掲げて作られた博物館ですので、ある意味で、演劇博物館としての恒常的な活動の延長として、こういった状況下においても資料・情報の収集は続けるべきだろうとも考えました。

ただ、ある種の大きな社会状況に即応したコレクションというのはおそらく初めてだったと思いますので、手探りで動きながら考え、考えながら動いていたというのが正直なところでした。他館で――とくに地域博物館で行われていた、生活資料を通してコロナ禍の時代を記録しようという取り組みも参照しながら、ではそれを演劇という視座から見るとどうなるのか、演劇博物館に何ができるのかを考えつづけていた記憶があります。

もちろん、コロナ禍の中で演劇博物館も色々と影響を受けまして、各種展示の中止や延期がありました。大学としても、キャンパスの封鎖や在宅勤務など、他の職種と同様、あるいは近いかたちで影響を受けています。在宅勤務中は、とにかく自宅でインターネットや新聞雑誌等を駆使して、中止・延期公演の情報や関連する言説の収集・整理をしていました。

こうした作業は当初、基本的に演劇情報係の三名――私と派遣社員の方二名、図書室の司書の方が中心になって動きはじめました。そのうち、やはり演劇博物館という機関がやることに意義があるという大前提があ

りましたので、他の館員の協力を仰ぎながら、全館的な活動として実施するようになったという経緯があります。

## ■オンライン展示「失われた公演」

中止・延期公演に関する調査や資料収集を進めるなかで、演博の独力では数多の公演に到底手が届かないということもあり、最初の緊急事態宣言解除後の情勢を見ながら慎重に時期を検討しまして、六月一八日に、演劇博物館のホームページとＳＮＳで資料提供の呼びかけを開始しました。中止・延期となった公演の資料収集・記録という点で、メディアをはじめ各所で注目していただきました。呼びかけに応じてくださった現場の方々が非常に多くいらっしゃったことに、今も感謝の思いでいっぱいです。現場の方々が一番大変な時期でしたので、できるだけ負担の少ないかたちで資料を確保するにはどうしたらよいかの模索に努めていました。例えば、ウェブ版『美術手帳』などにご紹介いただいたことで、多くの資料が届きはじめ、それを順々に整理していった覚えがあります。

そうやって集まってきたもの、館員も含めて自分たちで収集したもの、種々の形で集積された資料群から、チラシ画像を中心にしたオンライン展示「失われた公演――コロナ禍と演劇の記録／記憶」を公開開始したのが二〇二〇年一〇月七日、最初の緊急事態宣言からちょうど半年の日でした。中止・延期になった公演のチラシの画像と公演情報、関係者のコメントや言葉を紹介しました。

この時点でオンライン展示に踏み切ったのは、時代に対する即応性、事態の渦中で実施することの意義もありましたし、通常であれば消費されていくチラシ等の広報宣伝物の資料的価値を改めて見直すという点もありました。また、チラシの印刷前の段階で中止・延期が決まったため、仮チラシのデータだけが残っているという団体もありましたので、そういったボーンデジタルの資料収集も始めました。演劇博物館という機関として、ただ集めるだけでなくそれをいかに公開していくかを考え、当時の状況下でミュージアムがとりうる手段のひとつだったかと思います。さまざまな反響があり、各種メディアで取り上げていただき、ありがたい言葉もいただきました。

## ■企画展「Lost in Pandemic」

さらに、舞台公演映像の情報検索サイトであるＪＤＴＡ（Japan Digital Theatre Archives）の運営や、今日のシンポジウムを主催している演劇映像学連携研究拠点の「特別テーマ研究」として国内外のコロナ関係の調査なども実施していました。

演博の取り組みの中で、主に「失われた公演」を記録・収集するという点に注目していただいたのですが、逆に「失われなかった公演」にも目を向ける必要があるだろうということも考えていました。ただ、当時そこまでは私たちの手が届かなかったという思いもあります。

中止・延期公演の調査は継続していまして、翌年二〇二一年二月時点で一七〇〇公演以上を数えました。手作業でカウントしていたので、すべては拾いきれなかったと思います。私たちは、中止・延期公演を、一回一回の「ステージ数」ではなく、「タイトル数」で数えていたので、一七〇〇という数字になっています。

そういった中で、春季企画展「Lost in Pandemic――失われた演劇と新たな表現の地平」（二〇二一年六月三日～八月六日）という現物展示

を行うわけです。

本来であれば、そんな展示は行われないほうが望ましいのですが、こういう事態になった以上、何ができるかを考えた。それは事態の当初から変わらない姿勢だったと思います。

とはいえ、何を展示すればよいのかと途方に暮れたのも事実です。そこで軸に据えたのが、二〇二〇年からの動きを示した年表を作り、時系列に沿って細かい情報を集積していくことでした。年表というよりも日録のような形でしたが、記録を視覚化することで見えるもの、喚起される記憶や感情があるのではないかと思いました。そして、個人的に大きなテーマとして考えていたのは、我々の日常生活の中に入ってくる様々な新しい言葉や状況――例えば「マスク」「ソーシャルディスタンス」「オンライン」――でした。我々の日常生活や社会が制限を受けていたことが、そのまま劇場空間にも流れ込んでいた。劇場では客席を空ける、観客や劇場スタッフがマスクをする、オンライン演劇や配信が活発化する……。ある意味では、日常と演劇がここまで地続きにつながったことは、あまりなかったのではないかと思ったのです。そういった状況を反映した具体的な舞台装置模型や衣裳などを通して検証したかった。幸い多くの方々のご協力を得て、多少はそれをお見せできたのではないかと思います。

また、過去の感染症あるいは疫病と演劇について、演博の館蔵資料を通して紹介しました。過去の検証をすることは、我々が今生きている現在を未来に伝えていく、いずれは過去になるであろう現在を未来につないでいくことと同義です。この仕事自体おそらく一〇〇年後、二〇〇年後にようやく意味が見いだされるような類のものだろうとも思っていましたし、そういったかたちでいつか活用されればという気持ちでやっておりました。例えば、一〇〇年前のスペイン風邪のパンデミックについての資料がまとまって残されていないということも、こうしたことを考えるきっかけにもなりました。

この取り組みを通して、他の分野の方からもお声がけいただく機会が増えましたが、印象的だったのは、ポピュラー音楽学会のワークショップに呼んでいただいたことです。議論をした際、ポピュラー音楽の業界では、演劇で行われていたような動きができなかったとおっしゃるんですね。緊急事態舞台芸術ネットワークのような業界内での横断的連帯もそうですし、演劇博物館のような資料収集や記録集的な書籍の発行も含めて、できなかった。それはなぜだろうと。

ポピュラー音楽学会は、学会として個々の研究者が早い段階で調査や研究を進めていました。やはり演劇博物館の場合は、ミュージアムとしての母体が非常に強固だった。歴史もありますし、その中で培ってきた安心感や信頼、期待も当然あったと思う。ですので、全館的な取り組みとして展開できたことの重要性は大きかったと思います。

ただ、実際の作業に事態の当初から携わってきた館員の任期が次々に終わっていき、今日この場では過去の取り組みを説明することしかできない状況になっている。二〇二二年四月以降の演劇博物館の取り組みという点では、それが属人性の中でどう縛られていくのか、いかに継続しうるか、またリアルタイムの中で進行する有事に対してどう対応し続けられるかも含めて多くの課題があるだろうと思います。

## ■今後の課題

そうした諸々をふまえて、私自身にこれから何ができるのかを考えたときに、まず一つは、演劇博物館を離れている外の立場からできることを考える。その後の演劇博物館の取り組みに対して、助言というとおこがましいですが、当初からの動き方や資料の収集・整理の仕方などを伝えることはできます。しかし、自分が館を去るとき、これは後に残る人たちが、その時々の状況に応じたやり方で実践していくほかないと考えていました。私たちがやってきたことは、あくまでもあの時期だったからできた。いろいろなものが見えないからこそ、その中で工夫して、当時の自分たちなりにやってきたことですので、状況が変わった時点では、当然変化していく必要があると思います。

また、私個人として何ができるかを考えることも必要。演劇研究に携わる一人として、後から振り返ることができる立場にいる側の人間だと思うんです。現場の方々はとにかく前に進んでいく、公演を行なっていくことが第一義だと思いますので。やはり研究者や研究機関が、それを整理し、相対化し、検証していく役割を担うだろうと思う。

例えば、新派というジャンルでは、二〇二〇年二月に新橋演舞場で横溝正史原作の『八つ墓村』を上演していましたが、二月二七日、千穐楽まで数日を残して打ち切られました。予定されていた大阪松竹座での公演も中止になった。それ以来、新派では劇団の本公演がほとんど打たれなくなっていく。二〇二二年には本公演がゼロでした。もちろん新派はコロナ禍以前から存続が危ぶまれていた部分もありますが、そうした状況を整理し、記録していくことも、研究者の仕事だと思います。また、演劇博物館としては、他の機関――緊急事態舞台芸術ネットワークや、このあと登壇される伊達なつめさんの取り組みなどと連携していくことで、新しいものが見えてくるのではないかとも思っているところです。

# 四都市のコロナとの三年間をWEBサイト「世界ステージ・カレンダーwithコロナ」で振り返る

伊達 なつめ

伊達と申します。私は舞台芸術全般の取材を仕事にしていまして、常に国内と海外両方の舞台を追いかけるのが日常になっています。そうした状況の中でパンデミックというものが起きたことで、大変混乱してしまいました。まず日本国内だけでもその混乱ぶりは空前絶後だったわけですが、そこから数週間くらいずれるタイミングで今度はヨーロッパやアメリカで同じような状況が起こり、そのうちに今度はその欧米の感染状況の方が日本を追い越す感じで悪化していって、もうバタバタと公演中止や劇場封鎖が増えていくような状況でした。要は世界中の劇場が同時多発的に、でも少しずつ時期がずれたり、内容を変えたりしながら異常事態に対応していたという状況だったと思います。でも入ってくる情報というのが非常に断片的だったものですから、整理がつかず、混乱してしまいまして、ほぼ思考停止状態になった時期がありました。そんな中で、何とか情報の交通整理をしなければということで同業の仲間と始めたのが、「世界ステージカレンダーwithコロナ」というウェブサイトです。それをさっそく見ていただきたいと思います。

## ■「世界ステージカレンダーwithコロナ」とは

今出ているのがホームページ（https://stagecalendarcv19.com/）なのですが、世界と大きいことを言っておきつつ、実のところは東京・ソウル・ニューヨーク・ロンドンという四都市に限りまして、それぞれの都市の舞台情報に詳しい方たちにお願いして、時系列でコロナ関係の情報をアップデートしていくということを、現在に至るまでやっております。内容がどういうものかちょっと東京を例に説明したいと思います。まず基本は、「主な出来事と舞台芸術界」といって、要するにカレンダーなんですけれども、年表形式で日付順にどんなことが起きたかということを記しています。この白地にあるのが世の中のコロナ関連の出来事で、グレーの背景があるものが舞台芸術業界の出来事という風に分けています。インターネットの利点ということを考えまして、だいたいどういうことが起きたかという項目の他に、この項目の一次資料や二次資料になるべきリソースのリンクを貼って飛べるようにしました。例えばこれは、水際措置に関する政府の発表ですが、これに関しては政府が発表した資料に飛べるというようなことをやっています。舞台関係に関しては今もずっと公演の中止情報というのが一番多いんですが、この中止情報の場合には、やはり主催者のホームページが一次資料になると思って、そこに飛ぶようにしています。ただ、この主催者のホームページは、これもインターネットの功罪ですが、上書きされてしまうことが多々ありまして、今日は今日の発表になっているんですが、明日も公演中止になると、明日はまた上書きされて別の情報になってしまうということもあります。これを避けるために、そういうことをしそうなホームページに関しては、スクショを撮って、「四月一一日は少なくともこういう状態

でした」というのを魚拓のように残すということもしています。今はだいぶ落ち着いてきたのでホームページもちゃんと上書きせずに蓄積していらっしゃる主催者が多いですが、一応そういう事態にも備えています。これがカレンダーですね。

それからもう一つ主要なのが「OUTLINE/REPORT」というタブです。これは要するにカレンダーで紹介した情報の補足であるとか、解説であるとか、そういったものをオリジナルのレポートで寄稿しています。例えば先ほど後藤さんのお話にもありましたが、東京では緊急事態宣言が全部で四回出ているわけですね。そのそれぞれの緊急事態宣言がどういう背景で出されて、どういうふうに収束していったかということを、舞台芸術関係の出来事に寄せたかたちで、記録に残しています。こういうオリジナルの寄稿の他に、紙の媒体が多いんですが、貴重な資料になりうるものに関しては、許可をいただいたうえで転載するということもしています。例えばこれは劇団協議会というところが出している機関誌『join』に寄稿されたもの（https://stagecalendarcv19.com/tokyo/outline-report-tokyo/3005/）ですが、当時のパルコ劇場のプロデューサーが、コロナの最前線で毎日どんなことと戦っていたかを日記状にしたもので、そのＰＤＦをお借りして、読めるようにしたりもしています。

それから三つ目が、各劇場の稼働状況です。これが今月のもの（https://stagecalendarcv19.com/wp-content/uploads/2023/08/tokyocal23july0814.pdf）ですが、首都圏の主な劇場を四〇くらい選び、その各劇場が、今月開いているのかいないのか、いつ公演中止になったのかならなかったのかを可視化するものとして一覧表を作っています。今やっているのは東京だけですが、このクリーム色のところは普通に上演されている状態です。ちょっと暗い色のグレーは公演中止になったものです。例えば『ハリーポッター』の、今月三日間公演中止になったものがここに反映されています。今は長期休館の劇場も多くなっていまして、ちょっと色が近くて紛らわしいのですが、例えばシアターコクーンは長期休館なのでこの色で表していて、どういう理由で公演中止になったかということまで記しています。

## ■世界四都市と新型コロナウイルス

こういう基本的なことを伝えていくサイトなんですが、せっかく四都市やっているので、ここで四都市の比較をちょっとしてみたいと思います。最初に新型コロナウイルスと出会ったときの各都市の対応の仕方を、順を追って見てみます。まずは東京です。東京は最初に感染者が出たのが二〇二〇年一月でした。そのあと、ダイヤモンドプリンセス号が横浜に入港してそこでクラスターが起きたということで二月ぐらいからだんだん騒がれ始めて、天皇誕生日の一般参賀が中止になったり、東京マラソンの枠が縮小されたり、公のイベントの中止のようなことが増えてきたんですが、この時点では舞台芸術業界としては全く公演中止などをすることなく、普通に公演を打っていました。その潮目が完全に変わったのが、先ほど後藤さんの発表にもありましたが、二月二六日ですね。当時の安倍首相がスポーツ・文化イベントの二週間自粛を要請しました。これで演劇業界は総パニックになりまして、この日の公演から中止したり翌日の公演から中止したりという大変な騒ぎになりました。本当に業界では二・二六事件と呼ばれているくらい、この日は運命の日で、忘れたくても忘れられない日になっています。このとき劇場がどん

な感じになっていたかというのをさっきの一覧表で見てみますと、これが二〇二〇年三月の状況ですね（https://stagecalendarcv19.com/wp-content/uploads/2021/04/tokyocal2020_3n.pdf）。薄いグレーが一部公演中止で、濃いグレーは全公演中止で、モスグリーンは公演の振り替えや延期が決まったものを表しています。こう見てみると、当時の印象では全部の劇場が公演中止したような記憶ですが、上演している劇場もけっこうたくさんあるということが逆にわかります。なぜこんなに足並みがそろっていないのかというと、それはまさしく政府から発令されたものがあくまでも「なるべくやらないでください」という中止の〝要請〟であったからです。何の補償もない中で、最終的な判断は主催者に任される状態であったから、各主催者は公演中止を決めたり、でもやっぱりやろうと決めたり、やってみたけどやはり危ないのでまた中止にしたり、また始めたり、というようなことでかなり混乱していたことがこの表でもわかっていただけるかと思います。東京はこういう感じでした。

次にソウルです。韓国は日本に近いこともあって、割と状況は似たような感じでした。やはり一月に初めて感染者がでて、二月の下旬からだんだん舞台公演の中止が増えてきて、二三、二四、二五日ぐらいになると相当混乱している様子がうかがえます。ただ、この記録を見たところでは、日本のように二月二六日という決定的な日があったという感じではないようです。このあとの状況も韓国と日本は比較的似たような経路をたどっていると思います。

次はニューヨークです。ニューヨークの場合は二〇二〇年の三月から状況が悪化しました。ニューヨーク市内ではじめて新型コロナウイルスの感染者が出たのが三月一日で、その後ニューヨーク市とかニューヨーク州はかなり色々な策を講じまして、緊急事態宣言も出していますが、ブロードウェイは全くそれに感化されることなく普通に上演を続けていました。潮目が変わったのが、三月一一日です。ブロードウェイの二つの劇場でついに案内係の人からコロナ感染者が出たということがニュースになりまして、これでもう、すわ公演中止かと思いきや、この二つの劇場とも、「消毒をちゃんとして続行します」とあえて強く出て、公演を中止しないことがニュースになりました。これが当時の東京にいた人間としては二重の驚きだった記憶があるんですけれども、こうやってブロードウェイは公演を続行しようとしました。ところがその翌日、ニューヨーク州の当時のクオモ知事が五〇〇人を超える集会の中止命令を発令します。五〇〇人ということは要するに、ブロードウェイの劇場は客席五〇〇以上が基本ですので、もうブロードウェイでは公演をするなという閉鎖命令になったわけです。これで、ブロードウェイの四三劇場全てが、この日から突然公演中止になりました。この時には四月一二日までと言っていますが、この後ずるずると六月まで、九月までと延びていきまして、結局ブロードウェイ全体は二〇二一年の九月まで、一八か月にわたって完全に全劇場が閉鎖状態という未曽有の出来事を経験しました。

ロンドンを見てみますと、ロンドンもやはり二〇年の三月から色々感染の状況が出ているのですが、最初のうちは「アンドリュー・ロイド・ウェバーの新作ミュージカルが八月から一〇月に延期になった」といったニュースだったものが、だんだんと公演中止のニュースが入ってきまして、三月一六日に当時のボリス・ジョンソン首相が「不要不急の移動を控えて劇場などを避けるように」という要請を発しました。これで、

ニューヨークだとブロードウェイにあたるロンドンのウエストエンドなどの商業地域の劇場、ほとんどのロンドンの劇場が閉鎖することになりました。ですから、ロンドンにとっては三月一六日が運命の日であったわけです。ただロンドンの場合には、その後どこまで閉鎖したかというとそんなに長くはなく、七月八月くらいからは野外公演が増えたり、ソーシャルディスタンスを保ってキャパシティ五〇％で公演したりというようなことをするようになっています。その意味ではニューヨークよりは東京に近い状況下で、公演を割と早めに再開しました。

四都市ともにこうして現在に至ります。リンクが消えてしまうというインターネット特有の問題もあり、ニュース記事等についてはなるべく有効期限を規定していない媒体を選んで掲載していますが、消失は起こり得るのが現状です。それでも、「世界ステージカレンダー with コロナ」のデータを使って色々な分析ができると思います。ぜひ皆さんこれを活用して色々な側面からこのコロナの三年間を振り返っていただけたらいいなと思います。

# コロナ禍と美術館・博物館

板倉 聖哲

東京大学東洋文化研究所の板倉と申します。よろしくお願いいたします。後藤さんからこのお話をいただいた時に、もともと中国絵画を研究している者ですので、私の任ではないと思ったのですが、思い直し、二つの理由で引き受けさせていただきました。一つは、後ほど述べますが、私は美術史学会の常任委員で、美術館・博物館委員を担当した際に「コロナ禍における美術館・博物館」というシンポジウムを企画しました。ただそれはまさに渦中で、現状を把握し報告するにとどまったと言わざるを得ません。そのため、私自身にとってもこの機会に中締めということを意識しました。もう一つですが、私は国立劇場の調査事業評価委員も務めておりまして、来年度から建て替えということもありますが、調査事業に対して、五九％という聞いたこともないような大幅カットが行われるということを聞きました。演劇関係の研究者の方々にこのことをお伝えしなければ、と思いました。今ここで発言しただけで既に後者は叶っているわけですが、これらのことからお話を受けたわけです。

## ■美術館・博物館をめぐる状況

コロナ禍における美術館・博物館の話をする前に、二つのことを確認したいと思います。まず、博物館の定義を巡って非常に重要な変更、もしくは改訂がなされたということです。最近、ＩＣＯＭ（国際博物館会議）が博物館の新定義を提示しました。コロナ禍前の二〇一九年、京都の会議で議論をしたのですが、そのときには採択に至りませんでした。二〇二二年、コロナ禍が落ち着きつつあるプラハの会議で採択されたわけです。定義は以下の通りです。「博物館は、有形及び無形の遺産を研究、収集、保存、解釈、展示する、社会のための非営利の常設機関である。博物館は一般に公開され、誰もが利用でき、包摂的であって、多様性と持続可能性を育む。倫理的かつ専門性をもってコミュニケーションを図り、コミュニティの参加とともに博物館は活動し、教育、愉しみ、省察と知識共有のための様々な経験を提供する」。ここで注目されるのは「解釈」という言葉を明示した点です。

もう一つは、改正博物館法が成立したということです。七〇年ぶりに博物館法改正となったわけですが、改正した側の言い分としては、現行法では、美術館、動物園、水族館――これを並べること自体違和感がありますが、それら施設は多くあるが、登録可能なのは二割程度である。制度を変えることでより多くの施設の登録を進めたいと述べています。また、デジタルアーカイブ等々の問題を提起し、施設が収入減で苦しむ中、新たな活路を見出すための補助をしたいというようなことが語られています。これはコロナ禍前から議論されてきたことでしたが、成立に当たって、博物館登録制度、デジタルアーカイブ、博物館の連携というのは、直面したコロナ禍という問題に対処するかたちで、明確な利点を強調したような格好になったと見ることができます。

ただし、これを別の視点から見た場合には、違うように解釈することが可能です。博物館法の改正の前段階として、文化芸術基本法の成立、文化財保護法の改正がありました。これらは明らかに観光資源化への方向性でした。もちろん、利点としては地域の活性化が謳われているのも

確かです。さらに並行して進んでいるのが、国立大学の改革等々。こういったコンテクストの中で考えた場合、これらのことは歴史・文化・芸術・知の一種の「資源」化という言い方で括られると思います。旧来の博物館法で強調していたのは、社会教育において非常に重要な役割を果たす博物館のイメージだったわけですけれども、それが、文化・観光面を強調するような格好で改正法を成立させた。これは重大な方向転換になるわけですが、まさにそれがコロナ禍で行われたのは事実で、コロナ禍が問題を顕在化させることによって、こうした変更が促進された側面があるということも理解する必要があると思います。

## ■コロナ禍における美術館・博物館

美術館・博物館のコロナ禍の報告として、文化庁が公表している資料を引用すれば、一回目の緊急事態宣言のときには、全国の博物館の約九割が一定期間の休館を余儀なくされました。第二回に至っては、一〇〇〇館以上がやはり休館措置をとった。これは緊急事態宣言、まん延防止等重点措置を受けての動きです。二〇一九年と二〇二〇年を比較した場合には、開館日数が約二〇％、入館者数は六〇％、入館料収入は五五％減少した。ただし、他の報告ではかなり数字が異なります。が、共通して言えることは、この程度の減少が実感できるような状況であったということです。そういった中で、例えば全博協や旧美連協などから、どういった対策があるのか、また、助成金をどう受ければいいのかなどの指針が示され、ホームページ等が開設されたり関連ページが充実したりという動きが見えました。

美術史学会は、例年、全国美術館会議、及び日本アートマネージメント学会の後援を受けてシンポジウムを開催していますが、私自身が関わった催しとして、「コロナ禍と美術館・博物館」というシンポジウムがありました。国立博物館、そして私立美術館、さらにもう一つの重要な展覧会の担い手である新聞社の文化事業部からの見方を並列させたものでした。ただ、やはり先が見えない状況で、結局、緊急事態である現状を確認したという程度だったかと思います。

その後ですが、演劇とは異なって、美術館・博物館では足並みが揃わず、声明があげられませんでした。美術館・博物館は色々なかたちがありまして、背景も一定しておりません。そうしたことが足並みの揃わなかった理由としてあったのかと思います。作品が声を上げることができなかったということでもありますか。そして多くの展覧会が中止になり、公開しないまま作品を返却した展覧会もありました。デジタル公開や配信が始まったのもこの時期です。一番典型的なのは、「法隆寺金堂壁画と百済観音」展（於東京国立博物館）です。この展覧会は一日も公開されませんでした。ＮＨＫの「日曜美術館」で放映がありましたが、実際に見た方はほんの数人で、結局リベンジ展もなされなかった。一方、リベンジ展が行われたものもあります。神奈川県立歴史博物館の「十王図」展、龍谷ミュージアムの「ブッダのお弟子さん」展は、ともに感染状況が安定したときに展覧会が開かれましたが、寺院の所蔵品など一部同じ作品を出すわけにはいきませんでした。一度お借りしたものをもう一度お借りすることができないこともあります。そのため、作品を入れ替えざるを得なかったのですが、これは一つの効果をもたらしました。学芸員が努力して近場で新たに展示可能な作品を発掘することで、リベンジ展が同等の規模で可能になったのです。その意味では、新たなメッセー

ジを私たちにもたらしてくれたということになります。また、クラウドファンディングを率先してやったところもあります。二つの私立美術館、大原美術館と山種美術館です。国の補助については、当初は演劇を念頭に置いている部分があって、イベント中心の形で補助が行われました。恒常的な展示の方にお金が回らないという問題点が指摘され、その後、様々なかたちでの助成へと展開していったわけです。

## ■コロナ禍を経た変化

展覧会、美術鑑賞も変化していきます。一番顕著だったのは年齢層の変化です。美術館・博物館をずっと支えてくれた高年齢層の一部が実際に現在も戻ってきていない、という言い方ができるかもしれません。鑑賞時間の短縮、推奨九〇分、無茶なこと言うな、と思うのですが、当然、内容にも影響がありました。また、演劇とのコラボ等が行われたところもありました。もちろん前から行われていますが、かなり練れたものが行われたことも確かだと思います。森アートセンターの「アリス・イン・ワンダーランド」展は世界巡回、イギリスで仕込んで、世界中を回っていますが、映画やロイヤル・バレエ団の「アリス・イン・ワンダーランド」などもうまく取り込んで、非常に立体的な展示を行っていたと思います。また、アーティゾン美術館の「パリ・オペラ座」展は完全に単独展です。映像等々を組み込みながら、やはり多元的な展示をやったことは記憶に新しいところではないでしょうか。

さらに、ずっと課題として掲げていたデジタル化が一気に進みました。作品のコンテンツ化、コンテンツ自体のデータベース化が進んだだけではなく、デジタル動画やＡＩを使って、展示それ自体を配信するという試みもなされました。これも近年から続く新たな試みかと思います。こうやって対面ではない鑑賞が行われた場合、それには当然のことながら長所と短所があります。やはり美術館・博物館においては実物があるということに一つの大きなメッセージがあるわけですから、そこに長短出てくるのは当然でしょう。ここで見えた短所はどのようにしてよりよい形にしていくかという課題ともいえます。展覧会のやり方は多様ですから、当然のことながら対応策も一概に言えない状況と言えるかも知れませんが、コロナの間に、美術館・博物館をめぐっては「不要不急か?」議論があって、美術館・博物館は何なのか?ということを自問自答する機会が増えたことも確かです。

また、テクニカルな面では時間制が導入されました。ただ、このシステムを外注すると、例えば入場収入から一割負担せよ、みたいなことがあったりして、なかなか小さい美術館ではやりにくかった。その上、戦争という問題があります。光熱費、輸送費、保険料などが爆上がりして、現在も継続しています。そのために海外展覧会を従来のように継続することができない状態になっています。戦争とコロナ、両方が原因なのですが、リスク回避のために作品を海外から借りることが非常に難しい。何かあったときでも問題ないようにというかたちが求められ、これが企画自体にも影響を及ぼすようになってきたわけです。それはある意味日本所在のコレクションを見直すきっかけでもあるので、その点は良いことですけれども。そうした経過を踏まえて催された展覧会をいくつか紹介します。「トライアローグ」という横浜市美術館を含めた三館による巡回展ですが、非常に良質の近代西洋美術のコレクションを所蔵する三館が、ちょうど建て替えの時期も絡んで、うまいこと貸し借りをして展

覧会をしました。この展覧会はまるで海外展のような規模で、それだけ高いクオリティのものが集まったと言えるでしょう。また「ベルギーと日本」展も、目黒区立美術館を含めた三館が同じテーマで、それぞれのコレクションのプライオリティーを寄り集めて開催したものでした。残り二つは国立西洋美術館の展覧会ですが、この二つには共通している点があります。それは、何があったとしても海外の所蔵品に頼らずにできる展覧会を考え出したということです。一つが「憧憬の地　ブルターニュ」展です。実際には海外からお借りすることはできたのですが、学芸員に聞けば予算自体かなり厳しいところもあって、それでもできる展覧会ということを色々考えていた。ブルターニュは近代の日本と直接関係があり、日本の国内の作品でもできうるということを踏んだ上で企画された展覧会でした。現在行われている「スペインのイメージ」展も版画コレクションを非常にうまく使って、そして日本の所蔵品を中心にして、しかし決して単調なものではなく、実に豊かなコンテクストを紡ぎ出すことに成功しています。

## ■最後に

今後の課題ですが、実はコロナ禍というものは、ある意味これまで抱えてきた問題を顕在化させた現象でもあったと考えることができます。まず参観者層などはやはりコロナ前にはもう戻らないんだということを前提にしながら今後のことを考えていかなければならないと言わざるを得ないと思います。デジタル化に関しては、これを常態化させることがもちろん望ましいですし、参観者層の変化に伴い、内容を変えるべきではない部分もありますが、新たなニーズに応えることも必要になってくると思います。現実問題として、実は補助金が今年度までというようなことが多いのですね。つまり、今後コロナの問題はかなり深刻なかたちで顕在化していくということです。海外展などは新たに立ち上げることが困難になっています。収入減に対して対抗するためにいろいろな措置が行われていますが、こういった努力も不断に行われて然るべきだと考えています。調査事業とか研究的な側面は本来基礎となるべきものですが、そうした中でより軽視される傾向が出てきました。こうしたことに対して、学会等でまた声を上げていただきたいと思います。

# 第二部
# ディスカッション

後藤 隆基／伊達 なつめ／板倉 聖哲
児玉 竜一（司会）

**児玉**：お三方のお話を伺いまして、後藤君の話は、私はずっと演劇博物館で一緒にいたわけですし、伊達さんのご活動ももちろんこのサイトは立ち上がったほぼ当初から拝見していました。板倉先生のお話は、なんと言っても、一部の高齢者層は戻らないとか、美術・博物館の話をしているのに全てが演劇界にグサグサと刺さるという感じがして、歌舞伎界なんてまさにそれだよな、など、思うところが多々あります。どうでしょうか、ご発表いただきましたお三方、それぞれ他のお二方に対してのご質問等があればいただきたいと思います。伊達さんからもし何かありましたら。

**伊達**：はい、板倉先生にちょっと伺いたいと思ったのは、美術館の時間制の導入についてです。これはコロナ禍でできた恩恵のように私などは思っていて、非常に鑑賞しやすくなったということで良いことだらけのような気がしていたんですが、一割負担ということですとか、弊害もあるという点について伺いたいと思いました。

**板倉**：九〇分というのを推奨したことで、ゆっくり見ようと思っている人が追い出されるとか色んなことが……。

**伊達**：追い出しもあるわけですか。

**板倉**：一部で追い出しをしていましたね。

**伊達**：そうでしたか。

**板倉**：初めに声がけをして、それだけでもう後はまあまあ、という感じの美術館も多いと思います。ただ作品展示数などにも影響を及ぼして、内容的にも制限が生じるようなことも、表には出てこなくてもかなりあったと考えています。演劇でも、国立能楽堂で『弱法師』がかかったときに、詞章をバサッと切っていたんですね。出口のところで「金返せ」みたいなことを言って食ってかかる人もいて……もっともですが。歌舞伎の場合には長短どうとでもなるという感じはしますけれども。

**児玉**：良くも悪くもそうですよね。ですから猿之助が、様々な先代の遺産を再構成した上演をコロナの間ずっとやっていますよね。コロナ禍に対応したバージョンなのかなと思うと、「いや、そうではなくて、もう少し今の観客に向けた短縮版を前々から考えていました」という言い方をしてました。実際にはどうかわかりませんが、歌舞伎はおっしゃるとおり、とりわけ復活物などは伸縮自在なところがありますが、能や文楽はなかなかそうはいかないですね。

**板倉**：それをやってしまったということかと。コロナ禍をきっかけに、能・狂言にもかなりの変化がもたらされた、内容的にも諸々緩和したというようなことがあるのかなと思います。唯一、生きている間に見ることはできないと思っていた仁左衛門・玉三郎の『櫻姫』が見られたのは、すごくラッキーだったとは思いますが。私は総じて好きに鑑賞させてくれというタイプなので、今回のコロナの間、やはりちょっと残念だなと思うことが多かったと思っています。

**児玉**：それでは板倉先生のほうから他のお二方に対して何か。

**板倉**：お二方がいらっしゃる演博は博物館でもあります。私は博物館・美術館の話をしましたが、先ほど演劇とある意味でシンクロする部分もあるとおっしゃっていました。しかし、一方でかなり違う部分もあるように思いますが、それはどの辺りでしょうか。

**後藤**：演劇というライブの表現が対象であり、それじたいが形にならないものを、いかに「博物館」として収集、保存し、展示するのかという問題が根本にあると思います。とくに「Lost in Pandemic」に関しては特殊な事情がありますが、扱う対象の違いは大きい。中止・延期になり、失われていく公演のチラシやポスターなどを収集しなくてはならないと考えたのも、普通に考えればその時どきに消費されていく広報宣伝物が、きわめて重要な資料になる。それ以外に関しても、博物館や美術館的な「作品」や「資料」とは異なる類いの物が、演劇博物館では大切です。また「演劇博物館」というと、どうしても基本的に「演劇」の部分に目が行くのですが、コロナ禍によって、板倉先生がおっしゃったように「博物館」であることの意味や強みを意識する大きな機会になった気がします。どんなに些細な、小さな物であっても、その「物」を集めてこそ、時代の状況などがわかる。当然のことではありますが、そんなことを考えました。あとは、その「物」が失われていくとき、個別の情報や記憶などのドキュメントの重要度がさらに増すことにも改めて気づかされました。

**児玉**：物の陳列のみではないと言いつつも、やはり博物館は物を持っていないと話が始まらないってところがありますよね。演劇博物館は坪内逍遙を発案者として、逍遙、松井須磨子、島村抱月、その辺りから歴史を刻んでいる。すると、島村抱月は前回の世界的なパンデミックであるスペイン風邪によって亡くなっているわけですが、じゃあスペイン風邪に関するものを演博は何か持っているのかと思ったら、雑誌記述等々はもちろんありますが、スペイン風邪そのものに関するものって実はあんまり持っていないことにあらためて気付かされるんですね。そこで、次にもし一〇〇年後があったとしたら、「こいつらよくこんなもんとっておいたな」と言ってもらえそうなものは残したいというところは少々ありました。実はこのままだとチラシが捨てられるなと感じたのが二〇二〇年の三月の下旬ぐらいの段階で、それは押さえておこうという辺りから色々なことが始まりました。私は実は二〇二〇年二月の頭までニューヨークに行っているというぎりぎりな綱渡りをしまして、そのときに向こうではマスクをしたドナルド・トランプが吠えている表紙の *The New Yorker* を売っているので、これは買っておこうと思ったりしました。それから日本に帰ってきてみれば、歌舞伎で横並びの演奏家に飛沫が飛ばないように、演奏家がマスクをつけているんです。歌舞伎が再開場した初日に楽屋行った人から聞いてきたんですが、その様子には大谷刑部っていう大変不謹慎なあだ名がついていたんだそうで、このマスクなんかはもらって収蔵しようと思いました。それから、もう使ってないからそろそろもらわなくてはいけないんですが、開幕前に係員がラウンドガールみたいに掲げていたボード。あれちょうだいねって歌舞伎座にはかなり早くから申し入れていまして。ですから後に、「いや、本当にそんなもの使ってたの？」って言ってもらえそうなものは集めたいというつもりでいます。情報に関しても、後藤さんはそのレベルで様々に集めてくださったと私は解釈しています。

**板倉**：伊達さんは四つの都市をずっと比較していらっしゃる。アジアと

欧米は結構動きが違ったような感じがしますが、それは例えば東京・ソウルと、ニューヨーク・ロンドンというかたちで分かれるのか、それとも実は全然違った動きをしたのかというのを、俯瞰して見るとどうなのか、伺いたいです。

**伊達**：そうですね、韓国と日本は地理的に近いということで状況が似ていました。私は実際に韓国にいたわけではないので実感はないんですが、似たような事態になっていたと思います。で、ロンドンとニューヨークに関しては、ニューヨークは特にブロードウェイというのが非常に特殊なところですので、これの存在が大きく影響していると思います。なぜ一八ヶ月も完全に閉鎖されたかといったら、それはやはりブロードウェイは全てがお金で成り立っている世界なので、例えば客席を五〇％にして開けるということはそもそも商売として成り立たないのでありえないとの考え方がまずあるっていうことですよね。商業演劇の究極だと思いますが、損得勘定を考えてそういう道を選んだということがあると思います。ロンドンの場合には、ロンドンも商業演劇界があるわけですが、規模がやはりブロードウェイよりは小さいんですね。ブロードウェイ関係者に聞いてみたところ、ロンドンはだいぶ規模が違うから、小出しに上演を再開して、また中止になって、というようなことがあっても、ブロードウェイほどには損害は大きくならないと判断したのではないかと言っていました。あとは助成金ですよね、国や自治体などからの助成で成り立っている劇場も多いので、そういうところはまた事情が変わってくるということもあります。

**児玉**：おそらく日本と比べた場合、やはりロンドンやニューヨーク、あとはドイツ、フランス辺りも、補償金のまわり方がすごく早かったですよね。

**伊達**：そうですね。なんでも早いんですよね。

**児玉**：最終的には日本にもそこそこ施策はなされたし、最終的には色々補償金が出たんだけれども、とにかく始まりが遅いというか、できませんできませんって言って、怨嗟の声がたまった挙句に最終的にはなんとか、という印象です。ですから言ってみれば、非常に、印象の悪い出し方をしたという感じですね。

**伊達**：そうですね。

**児玉**：政府としては正直なところ下手なやり方で、同じ補償金を出すんだったらもうちょっと印象良くした方がいいんじゃない、という出し方になってしまったのは残念に思います。もちろん政府には政府の事情があるでしょうが。でもやはりその時に言われたのが、結局のところ、日常生活の中にどれほど文化・芸術ないし演劇が根付いているかの差が非常に大きいんだ、ということだったようにも思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

**伊達**：ただ、補償に関しては、政府関係の人に取材などをしていますと、不要不急ということを言った覚えはない、ちゃんと大事だと思ってる、ということが前提なんですね。むしろ、舞台芸術側の人たちの問題を指摘されることがありました。というのは、日本の舞台芸術関係は、さきほど板倉先生のお話にもあったように、横のつながりはほとんどないし、みな個人が屹立しているので団体で何かやるということも好まない。だから、補償や国税を使った助成をするにあたって、じゃあ日本の演劇団体はいくつあるんですか、とか、プロとして演劇をやってる人は何人いるんですかと政府に聞かれた場合に全く答えられなかったという

のが日本の演劇界の現状なんですね。だから問題は助成を求める側にもすごく大きくありまして、そこは今回、舞台芸術界の人々が非常に反省したところです。それで大同団結のような形で、演博も賛助会員になっていらっしゃる緊急事態舞台芸術ネットワークというのを作って、色々な面でちゃんと政府に要請ができるような体制を整えたのが、今回のパンデミックでは大きかったと思います。ですから助成が遅くなったのは、別に政府を擁護するわけではないんですが、助成を求める側の問題もかなり大きかったというのがあったと思います。それから、助成が遅かったっていう点では、イギリスも一緒です。本当に誇り高きイギリスの演劇人たちのプライドをズタズタに傷つけるほどで、遅さ速さということでいえば日本とそんなに変わらなかったと思います。

**児玉**：ただ日本は最初の頃にとにかく、いや、それは出せません、という類の答弁が割と目立ってしまって。

**伊達**：そうです、そうです。「損失補填はしない」が財務省の確固たるポリシーだったんですよね。

**児玉**：イギリスは確か、強制的休業だったなら補償は出せるけれども、自主的な休業の要請というかたちだったので補償金が出なかったというように記憶しています。それにしても、この横並びの団体ができたっていうのは非常に画期的なことですよね。こんなことでタラレバを言っても仕方ないかもしれませんが、例えば、この世界的なパンデミックが一九六〇年代か、あるいは七〇年代に起きてたら、こうはならなかったというか……。

**伊達**：そうですね。

**児玉**：国から金を受けるなんてとんでもないっていう人たちがわんさか沸いて、たぶん話にもならなかったんじゃないかなという気は正直するんですよね。ですからそのあたりも非常になんて言いましょうか……。

**伊達**：でもわかりませんよね、背に腹は代えられないってことで。

**児玉**：だったかもしれませんね。

**伊達**：その当時の人たちもころっと態度を変えたかもしれないですよね。逆に理論武装して、補償金を出せと強く主張したかもしれないと想像したりして。

**後藤**：板倉先生は「Lost in Pandemic」展をご覧いただいたと伺いました。いわゆる演劇界の「外」から、あの展示をどのようにご覧になったのかを伺えますでしょうか。また、演劇と異なり、美術館・博物館は足並みが揃わず声明を上げられなかったというお話がありましたが、全博協や旧美連協、美術史学会のようなところでの連携がどうだったのか。演劇の場合、緊急事態舞台芸術ネットワークに名を列ねた学術機関は、演劇博物館だけでした。つまり、アカデミズムに対して、現場から声がかからなかったということも考えなければいけない問題ではないかと。そこも美術館・博物館と演劇との違いかなと。

**板倉**：「Lost in Pandemic」、大変面白く拝見しました。その前の展覧会も今の「推し活」展も、どうやって可視化するのか期待しながら拝見しています。演博自体、演劇そのものを記録するというのは、そのまま丸ごとは難しいですから、それをどういうかたちで、例えば観客の立場から、また、作り手の立場から、色んな視点を取り上げながら組み立てていくというのが、我々にとっても大変面白く見させていただいています。私も自分が見たものはチラシを取っておくのですが、普通は見た演劇の記憶です。観ていない演劇のチラシを見て「あ、このチケットは買った

けど行けなかった」と思い出す機会はなかなかなく、初めて経験しました。記憶は観ていない演劇にも喚起されるというのはちょっとびっくりする経験でした。また、アカデミズムに声がかからないという話ですが、美術史学会のコロナをめぐるシンポジウムの企画に関しては、ある意味で勝手にやらせていただいたというか。もともと美術館・博物館委員というのがあって、毎年博物館に関連するシンポジウムを開くことに決まっているんです。パンデミック最初の年は人を集めることができないから中止で、二年目はリモートで開催することになりました。題材としては、もとから決まっていた「地域からの美術史」という、こちらも非常に重要なテーマなんですが、これをいったん飛ばして、コロナ禍の美術館・博物館というのをやらせていただきました。このテーマに対する意識は他の委員の方々と容易に共有できたと思いますし、シンポジウムはリモートでの開催でしたが、抽選制になったほど、非常に多くの方に関心を持っていただいきました。

**児玉**：恐らく演劇の場合は普段、研究と批評とそれから現場とっていうのが必ずしも三位一体か、両輪か、よくわからないですが、噛み合っている人たちはいるかもしれないけれど、全体として噛み合っている関係では必ずしもない。そういうところが非常に顕在化して、ことお金の問題になったら学者は関係なかろうという話になってしまうのが現実だったという気もします。美術の方では例えばパンデミックの間に、人を集めることができない画廊やオークションが困ったとか、あるいは、そこはオンデマンドでうまく切り抜けたとかっていうようなことはあるんでしょうか。

**板倉**：やはり切り抜けることができたところとできないところがありましたね。ものすごく人数が少なく、密な関係の中で運営されているので、なんとか切り抜けたというところもありました。一番印象的だったのは、コロナ禍においてクリスティーズが、今までオークションの冊子を出していたと思うんですが、日本と韓国の部分は冊子で出さなくなりました。オンラインセールスの方が通常の対面で行うオークションの売り上げを抜いたというで、それならば冊子はなくてもまあいいか、みたいな感じになったのかもしれない。我々にとっては記録媒体として紙の冊子は非常に大きな情報源なので、出していてほしいですが、日本と韓国の部分だけが消えるということになりました。実際中国は出し続けています。これはやはり中国の書籍に対する独特の一つの信仰というか文化があって、日本と韓国は冊子を出さない決断をし、中国はそのまま出し続ける決断をしたというのは非常に印象的だったと記憶しています。

**児玉**：演劇の世界でもコロナの間に『演劇界』が倒れたりもしましたので、記録していく媒体が、実はだんだんと、気がついたらなくなっているということがありますね。ただ、その辺りも実は、コロナ禍において顕在化した様々な問題点というのは、以前から廃退していたものがこのコロナを機に一気に可視化されたのかもしれないという気がしますね。

**後藤**：伊達さんたちがつくられている「世界ステージ・カレンダー with コロナ」は、非常に網羅的に、時系列を追ってアクセスできる貴重な記録の集積地になっていますが、これを運営されるのは本当に大変だろうと思うんです。公益性や継続性の確保という大きな問題がある。演劇博物館も、先ほど館長から中締めというお話もありましたが、単体でやっていくことの困難は様々な面で生じてくる。そういう状況下で、他団体との協働も検討中というお話もありましたが、今後の、このサイ

トも含めた伊達さんたちの取り組みを先へつないでいくための展開について伺えますでしょうか。

**伊達**：はい、ありがとうございます。これは本当に手弁当でやっていることでして、こんなものが長く成り立つわけはないと最初から思っていたことではあるんですが、今もそう思っています。私としては非常に公益性の高いデータであると思っていまして、私人である私たちなどがやるよりは、ちゃんと公共の機関が引き継いでやっていくべきものではないかということは、最初から今に至るまで強く思っています。じゃあどこがやったらいいのかということで、後藤さんと「Lost in Pandemic」展に関わった演劇博物館のみなさまや知り合いの劇場の方たちなどと何度か集まってブレスト的なことをしたりしていたんですが、考えられるのは、やはりコロナ禍を機に結成された緊急事態舞台芸術ネットワーク（以下ネットワーク）という日本のあらゆる舞台関係者が所属している団体があるわけですね。最初は政府への補償要請ということで一致団結してできたわけですけども、そこから今はコロナを機に噴出した、根本的に日本舞台芸業界にある問題を解決していこうということで、色々な部会ができているそうなんです。そこで出来事のアーカイブ化とか、日本の舞台芸術に関わる人たちのデータベースという言い方がいいのかどうかわかりませんが、そういう基本資料になるようなものの整備が必要であろうということを働きかけました。ネットワークにもそうした情報の整備の動きはすでにあるということでしたので、共動についての話し合いを始めたところです。将来的に目指すのは、日本の舞台芸術に関する情報が全部詰まったポータルサイトみたいなものです。今日はどこが公演中止になったのかということもそこを見ればわかるし、日本にどんな劇場や劇団があるのかも、海外の舞台芸術情報も、どういう研究がなされているかというあらゆる資料も、そこで見ることができる。そんな舞台芸術に関する全てが詰まったようなポータルサイトを作ることを目指しています。ネットワークでは、まずはリサーチから始めようということで、日本全国にある劇団や劇場などへの対面を含めた調査をして、データの積み上げを始めているところです。こうした具体的な動きが今あるということは、お伝えしておきたいと思います。

**児玉**：今のお話が完成していけば素晴らしいですね。例えばブロードウェイのトニー賞に「今年一年で亡くなった人々」と題して、ありとあらゆる役者はもちろん、演出家から脚本家から、あるいは裏方スタッフに至るまでの写真がばーっと出て、一年間この方が亡くなりましたと回顧されるコーナーがありますが、ああいった、どんな人たちがこの一年で亡くなりましたっていう把握も日本の演劇界では現状不可能ですよね。だからまず、どういう人たちが日本の演劇という環境の中に属しているかという、そこから始まらなければいけない。たぶんそれは、個別で行われていたわけですよね。例えば劇場の把握にしても、『全国ホール名鑑』みたいな冊子は昔出ていますし、大衆演劇の劇場がどれだけあるかも個別に調べられていたりもする。そういうものはあるけれども、全部が統合されたデータベースがなかったんですよね。だから今回の緊急舞台芸術ネットワークはコロナ禍というアクシデントをきっかけとして、呉越同舟って言ったら怒られるけれども、色々なお立場の方たちが一堂に会している。それがどのように、皆に必要性を共有しつつ、持続可能なものとして続いていくかが大事ってことですよね。

**伊達**：私、そこで出番になるのがアカデミズムではないかと思うわけ

です。

**児玉**：おっしゃるとおりだと思いますね。

**伊達**：演劇博物館は利害関係のない立場で振る舞えるわけですから、そういうところで中心になるべき役割を非常に大きく担っていると思います。

**児玉**：ただ、そこでまさに後藤さんが言ったように、結成の時には別に声をかけなくてもいいよね、となっていたアカデミズムを、その段になって、果たして本当に必要だと思ってもらえるかどうかっていうのは、半分はアカデミズムの側の責任でもあるけれども、お商売の側も、そうは言ってもあいつら一応必要なんだよな、と思ってくれるかどうかですよね。そこが難しいというか。

**伊達**：思ってくれると……思ってくれるという言い方もなんですが、必要なわけですから。

**児玉**：いや、思ってほしいんだけれども、ただそれは我々がアカデミズムの側だからで。つまり、全般としては先ほどおっしゃったように、調査研究的な側面が軽視される世の中が来ているのは間違いなくて、「そんなのネットで調べればわかるでしょ」と言う人たちは確実に増えているわけですよね。だから、アカデミズムが自分たちの必要性をちゃんと認めさせることができるかっていうのは我々の責任でしょうね、難しいですけれども。

**伊達**：そうですね。ただ、前提になるデータが揃っていないということがあまりにも大きいので、次元の低いところから始めなければならないっていうのが本当のところです。ですからアカデミズムの側からも、たくさん発言していただきたいんですよね。自分たちにはこういうことができる、こういう蓄積と技術を持ってる、というのをどんどん提示していただくと、興行業界の方達も学びの姿勢がありますので反応されると思います。ですから、アカデミズムからの発信は絶対に続けていくべきだと思います。

**児玉**：ありがとうございます。せっかくですので、もし会場お越しの皆さまから、これだけは聞いておきたい、もしくは何かお声がありましたならいただきたいと思います。

**質問者1**：先ほど伊達さんが質問されていて、ちょっと話が違う方に広がったので明確に板倉先生から教えてもらえなかったのですが、時間制の導入と、美術館側が一割負担しなきゃいけないっていうのがちょっとわからなくって、どういう状況なのか教えていただきたいです。

**板倉**：時間制の導入にあたって、何時からは入れるというシステムを外注すると、そのシステムの使用料として入場料の一割要求してくるというかたちなんです。ですから導入した段階で収入が一割減るわけです。

**質問者1**：わかりました。システムに一割取られるということですね。

**板倉**：そうです。システムを自前で作っているところは少なかったです。かなり早い段階でフォーマットを作って、それを売り出した会社があって、定額ではなくて、入場料に対しての一割でやったので相当儲けたんじゃないかと。

**質問者1**：ありがとうございました。

**質問者2**：今までのお話とちょっと違う流れかもしれないんですが、コロナ禍を経て、新しく収蔵する美術館・博物館の傾向はどのように変わったのかというのを伺えればと思います。というのは、インドでサタジット・レイのご遺族が、コロナ禍で家にいる間に掃除をしたら、新た

にレイの遺品が出てきて、それが収蔵されたってことがあって。ロックダウンが新たな収蔵品を発掘することの契機になっているのか、いないのか、伺いたいです。

**児玉**：コロナの間に確かに、私が一番嫌いな言葉で「断捨離」ってやつですね、物を捨てることを言い換えるなって思うんですが、それをしたという話は演劇人の中でも聞きます。台本を八割捨てました、なんてことを公言している方たちはいらっしゃる。ただそれは、捨てるだけのものをちゃんと溜めていたということでもあり、つまり物をずっと溜め込んでいる世代がそろそろご退場になる季節を迎えているわけですが、これはコロナと実は関わりがない。それ以下の世代は、実はそんなに溜めていないんじゃないかという。すると、演博では近頃割と、お名前を申し上げれば皆さんご存じのような方のご遺族あるいはご関係の方たちからの大口のご寄贈はやや増えています。ですので、これはコロナによってかどうかはわかりませんが、そういう巡り合わせの時期を迎えているかもしれないという気はします。

**質問者2**：ありがとうございました。

**質問者3**：板倉先生がリスク回避のために海外展を避けるようになったとおっしゃっていたと思うんですけれども、演劇では海外の巡行や現地の方々とのコラボレーションのような演劇作りは、コロナ以降どのようになったのか、現状をお伺いしたいです。

**伊達**：海外との行き来はほぼ完全に復活していると言っていいと思います。それに支障はなくなっていますが、でもその一方でロシアのウクライナ侵攻がまた別の問題として出てきていまして、経費も非常に高騰していて、航空運賃も爆上がりしていますし、資材の調達にも事欠いている。同じことをやるのにも今までよりも数倍のお金がかかるようになっているというのが現在の状態なので、感染症ではなく経済的に難しくなって減っていくという傾向は今あると思います。それと、航空機での移動が環境破壊につながるということで、飛行機は使わない、つまり遠いところには行かないと決めているアーティストもそこそこいたりします。そういう意味でも、コロナ前のように、世界中を自由に飛行機で行き来するということがこれからどれだけ普通に行われるのかというのは、意識の問題も含めて、ちょっと違う局面に来ている気はします。

**児玉**：たしかに航空代はものすごく今上がっていますよね。かつて往復できた料金で片道分という勢いで上がっていますので。ただ、これもコロナの前から、例えば歌舞伎に関して申しますと、かつて昭和五〇年代くらいまで行われていたような、大一座での海外公演はもう当の昔になくなっているんです。本当に若手二人か三人くらいが行って、『鳴神』をやるぐらいのことしかできないところにまで、残念ながら日本の経済は落ち込んでいます。バックアップする企業が現れないということは、日本から海外に行くことに関しては、もうすでにコロナと関係なく起きています。それともう一つ、展覧会の中でリベンジ展という話がありましたが、演劇もコロナで潰れてしまったもののリベンジは国内でいくつかありました。ただ、演劇はやはり人がスケジュールを合わせないといけないので、まさに「Lost in Pandemic」の図録の中で東宝の池田篤郎常務が言ってくれたのですが、リベンジしようと思ったら三年かかると。つまり売れっ子たちのスケジュールをたったひと月合わせるのに、三年先にならないと合わせられないんです。でもそういうかたちでいくつかのリベンジも行われています。それから、例えばこの秋には東京芸術劇

場にフランスの太陽劇団が二〇年ぶりに来ます。ですから、かつてのように行き来できるところを目指そうとはしているけれども、戦争など色々な条件が増えてきてしまっているというところですよね。

**質問者3**：ありがとうございました。

**児玉**：では最後にお一言ずついかがでしょうか。伊達さんどうぞ。

**伊達**：先ほど児玉さんからこれで幕引きというようなお話がありましたが、やはりそれは今もっとも避けなければいけないことなのではないかと思っています。コロナが五類になって、要するにコロナというものが潜在化するようになってしまったことで色々とわかりにくくなっていますが、影響はどんどん深く、グサグサと来ることになるので、そこでやはりアカデミズムも頑張っていただきたいと思いますし、私たちもなるべくこれでなかったことにしないで、せっかく噴き出してきた膿を出してなんとかいい方向にもっていくように踏ん張らないと。これからが一番頑張りどきだなと思っています。

**板倉**：私もまったく同感で、補助金等々がこれで消えてきて、今年、来年、様々な点で問題がお金の点でもさらに顕在化していくということがあって、再び過去と同じようなことができるのかっていうことに直面しながら進まなきゃいけないわけですが、そこで声を上げることが非常に重要なのかなとは思っています。

**後藤**：私も同じ思いです。アカデミズムの出番が来るというお話もありましたし、これからが再検証の時期になっていくのではないかと思います。二〇二〇年以降、とくに初期段階では、リアルタイムで進行していく事態に置いていかれないように動き続けていて、とにかく記録を残していくし、その場で走りながら考えていくことが求められましたが、三年が経って、初期段階の事態や対応などがすでに忘れられかけている部分もあるかもしれません。そうしたときに、過去の事例も含めた再検証の作業において、アカデミズムは重要ですし、ジャーナリズムとの連携も必要だと思います。それから、この三年を振り返り続けている立場としては、演劇博物館はこれからどうなさっていくんでしょうか……という質問を、最後に館長に投げかけてみたいと思いますが（笑）。

**児玉**：それは一言でなかなか申し上げきれませんが、ただやはり、コロナに特化して調べるとか、あるいはコロナに特化して記録することに関しては、そろそろ引いていっていると思うんですね。ですから、コロナにかかわらず現状を、ありとあらゆる演劇史の現状を記録していく中に、当然コロナ、あるいは上演中止その他に関わる事例は当然含まれるという立場で、我々が刻々生きていく現状を後世に向かってちゃんと記録していくという姿勢がやはり必要だと思いますね。演劇博物館はもうすぐ一〇〇周年ですが、その間ずっと営々として様々なものを集め続けています。その間には色々な事象があるわけですが、スペイン風邪のときには演劇博物館はまだありませんでしたので、戦争を除けばこのコロナの三年間は非常に特殊な、しかも世界同時という点から言うと非常に未曽有の事態でした。その未曽有の事態をだんだんと脱しかけていることも一方で認識しなければいけない。そしてコロナによって様々なことが顕在化し、可視化されたけれども、後から振り返って、「ああ、それが始まったのはコロナの時だったのね」と言われるような、良い意味でのきっかけにもなりうるように、この先も様々なことを記録し続けなくてはいけないと思っております。

［年表］

# 新型コロナウイルスと演劇

# 新型コロナウイルスと演劇 年表

本年表は、各テレビ・新聞・雑誌（電子媒体含む）およびニュースサイト、各劇場・劇団・期間・団体等の公式サイトおよびSNS、公演情報サイト等ののインターネット、雑誌『演劇界』『劇評』に連載中の児玉竜一氏による「劇界の動向」を参照した。演劇・劇場当に関わる出来事は○、社会・医療等に係る出来事は●を付した。

## 2019年

- 12月31日 ● 中国はWHOに対し、湖北省武漢市で原因不明の肺炎のクラスター（集団感染）が確認されたと報告

## 2020年

- 1月1日 ● WHOは原因不明の肺炎の流行への有事対応として、危機対応グループを立ち上げた
- 1月6日 厚生労働省、武漢市からの帰国者でせきや熱などの症状がある場合は速やかに医療機関を受診し、渡航歴を申告するよう注意喚起
- 1月8日 WHO、武漢市で相次ぐ原因不明の肺炎患者について、病原体を検査した結果、新型ウイルスの可能性が否定できないと発表
- 1月9日 ● 中国の専門家グループが新型コロナウイルスを検出
- 1月11日 武漢市の保健当局、病原体が特定されていない肺炎の患者が死亡、7人が重症と発表。死者は初めてとみられる
- 1月14日 WHO、中国の原因不明の肺炎について新型のコロナウイルスが検出されたことを確認
- 1月16日 新型コロナウイルスを日本で初確認。武漢市に渡航した神奈川県在住の中国籍の30代男性
- 1月18日 都内の個人タクシーの組合支部の新年会が屋形船で開かれ、約100人が参加。熱などの症状を訴える人が出始め、のちに集団感染を確認
- 1月21日 マスクが品薄に、価格高騰
- 1月21日 WHO、「ヒトからヒトへの感染が見られる」と発表
- 1月23日 武漢市、感染拡大防止のため、全域で市民の移動を制限する都市封鎖に
- 1月23日 WHO、現時点では「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」にあたらないと発表
- 1月26日 中国から海外への団体旅行を全面的に中止へ
- 1月28日 政府、中国湖北省武漢市に残された日本人退避のため、民間チャーター機の派遣を開始
- 1月29日 中国本土の感染者は5974人に達し、SARSを上回る。世界への拡大が本格化
- 1月30日 WHO、新型コロナウイルス感染症が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」と宣言
- 1月31日 政府、新型コロナウイルス感染症を「指定感染症」に
- 2月3日 ● クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が横浜に帰港。1月25日に香港で下船した乗客が30日に発熱し、2月1日に陽性確認。政府は乗員乗客の下船を許可せず、約3700人を対象とした検疫を開始
- 2月11日 ● WHO、新型コロナウイルスが引き起こす病状について「COVID-19」と名づけたと発表
- 2月13日 ● 新型コロナウイルスによる国内初の死者を確認。神奈川県に住む中国への渡航歴がない80代女性、死亡後に陽性反応確認
- 2月19日 ● ダイヤモンド・プリンセス号の検査で陰性結果が出た乗客が下船を開始
- 2月21日 ○ この頃、店頭からトイレットペーパー、ティッシュペーパー、キッチンペーパーなどが消えはじめる
- 2月25日 ● 政府、新型コロナウイルス対策の基本方針を公表
- 2月26日 ● 安倍首相、新型コロナウイルス感染症対策本部を開き「多数の観客が集まる全国的なスポーツ・文化イベント等」について2週間の中止・延期・規模縮小の要請
- 2月26日 ○ 国立劇場・国立博物館等は初日の延期、休館等を発表。国立劇場は3月15日まで主催公演を中止
- 2月26日 ○ 劇団☆新感線、『偽義経冥界歌』東京公演の一部休演を発表
- 2月26日 ○ 博多座「市川海老蔵特別公演」が初日を迎えたが、翌日の16時開演の公演から中止に（～3月1日）
- 2月27日 ○ 歌舞伎座「三月大歌舞伎」、明治座「花形歌舞伎」、南座スーパー歌舞伎Ⅱ『新版オグリ』を3月10日まで休演
- 2月27日 ○ 劇団新派、新派特別公演『八つ墓村』の公演中止を発表
- 2月27日 ○ 東宝、帝国劇場『Endless SHOCK 20th Anniversary』（2月28日～3月10日）の公演中止を発表（その後、3月19日まで延長）
- 2月27日 ○ 東京芸術劇場、主催公演『カノン』（3月2日～15日）の公演中止を発表
- 2月27日 ○ 世田谷パブリックシアター、主催公演『お勢、断行』（2月28日～3月11日）のツアー公演含め全日程の公演中止を発表
- 2月27日 ○ 東京文化会館でパリ・オペラ座バレエ公演が初日。全10回の公演を予定どおり開催
- 2月27日 ● 国立文化財機構、東京国立博物館・京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館・奈良文化財研究所の公開施設の臨時休館を発表（当初は3月15日まで、のちに当面の間の臨時休館延長）
- 2月27日 ○ 「シアターコモンズ20」、東京都港区エリア各所で開幕（～3月8日）。感染拡大防止対策のため一部実施形態や内容を変更し、予定どおり実施
- 2月27日 ● 安倍首相、全国すべての小中高校と特別支援学校に3月2日から春休みまでの一斉休校を要請
- 2月28日 ● 北海道の鈴木直道知事、独自に「緊急事態宣言」を発出（2月28～3月19日）、週末の外出自粛を要請
- 2月28日 ○ ローム シアター京都、29日上演予定だった文楽公演『木下蔭狭間合戦』などの中止を発表
- 2月29日 ○ 椎名林檎がボーカルを務める東京事変が東京国際フォーラムでコンサートを開催。批判が相次ぎ、3月4日に大阪、仙台、札幌の公演中止を発表（3月25日に福岡公演、3月31日に名古屋NHKホール公演の中止を追加発表）
- 3月1日 ○ 野田秀樹が「意見書　公演中止で本当に良いのか」をNODA・MAP公式サイトに公開。ネット上で賛否両論
- 3月1日 ○ 大阪の此花千鳥亭、YouTubeに「此花千鳥亭テレワーク寄席チャンネル」を開設
- 3月2日 ○ 大阪市内のライブハウスでクラスター発生の可能性
- 3月3日 ○ 日本演出者協会主催の「若手演出家コンクール2019最終審査」が、全日程公開審査会の予定を無観客での非公開審査会に変更（～8日）
- 3月5日 ● 政府、中国人と韓国人に発給したビザの効力を停止し、香港・マカオ・韓国に対するビザ免除措置を停止すると発表
- 3月5日 ○ 日本俳優連合、西田敏行理事長名で政府へ緊急要望書を提出
- 3月6日 ○ 宝塚歌劇、9日からの公演再開を発表
- 3月7日 ○ 日生劇場で三浦春馬主演のミュージカル『ホイッスル・ダウン・ザ・ウィンド　～汚れなき瞳～』

3月7日○が18日まで公演中止（19日休演、20日から再開したが、28日～29日の千穐楽まで再び中止）
3月8日○びわ湖ホールプロデュースオペラ『神々の黄昏』が映像配信を実施
3月9日○松竹・明治座・東宝、15日までの公演中止を発表
3月9日○専門家会議、密閉・密集・密接の「3条件」（＝三密）の重なりを避けるよう呼びかけ
3月9日○宝塚大劇場、東急シアターオーブが公演再開
3月9日○プロ野球のシーズン開幕延期、Jリーグの公式戦再開延期を決定
3月10日●安倍首相、大型イベント自粛の再要請
3月10日●政府、感染拡大が続く今回の事態を国や社会として記録を共有すべき「歴史的緊急事態」に初指定
3月10日○「日本博オープニング・セレモニー記念公演」（14日）の中止を発表
3月10日○東京宝塚劇場、公演再開
3月11日●WHO、新型コロナウイルスの感染拡大をパンデミック（世界的流行）と認定
3月11日○宝塚歌劇、12日からの休演を発表
3月11日○国立劇場、19日まで再度の主催公演初日延期を発表
3月11日●センバツ高校野球大会、初の中止が決定
3月13日○新型コロナウイルス特措法成立、14日施行。２０１３年施行の新型インフルエンザ等対策特別措置法の適用対象に、新型コロナウイルス感染症を追加
3月13日●アメリカのトランプ大統領、新型コロナウイルスの感染拡大への取り組みを強化するため、国家非常事態を宣言
3月13日○歌舞伎座・明治座・南座、3月19日まで休演延長を発表
3月13日○東急シアターオーブ、休演を発表
3月16日○日本芸能実演家団体協議会（芸団協）、安倍首相らに支援を求める要望書を提出
3月17日●日本劇団協議会、安倍首相に「新型コロナウイルス感染防止措置に伴う　公演中止等に係る演劇界の要望書」を提出
3月17日○「新型コロナウイルスからライブ・エンタテイメントを守る超党派議員の会」開催。音楽関連5団体が出席し、要望書を提出
3月17日○国立劇場、三月公演中止を発表
3月18日○歌舞伎座・明治座・南座、三月公演中止を発表
3月19日●専門家会議、感染拡大のリスクは懸念しつつ、感染状況の確認されていない地域についてはリスクの低いものから文化施設の利用を求めた
3月20日○東宝・東急系の劇場、ＰＡＲＣＯ劇場、東京国際フォーラムが公演再開
3月20日○松竹、歌舞伎座「十三代目市川團十郎白猿襲名披露興行」の詳細配役を発表
3月20日○東宝、帝国劇場『Endless SHOCK 20th Anniversary』3月21日～31日の全公演中止を発表
3月20日○政府、全国の一斉休校の要請を延長しない方針を発表
3月20日○オリンピックの聖火がギリシャから宮城県の航空自衛隊松島基地に到着
3月20日○任天堂、Nintendo Switchのゲームソフト「あつまれ　どうぶつの森」を発売。コロナ禍の巣ごもり需要も相まって世界中で大ヒット
3月21日●味覚や嗅覚の異常を訴える感染者が国内外で増加。感染を疑う目安として周知される
3月22日●帝国劇場『Endless SHOCK』のインスタグラム無料配信を実施。スマートフォンを使用し、堂本光一がフライングしながら撮影するなどの試み
3月22日○東京宝塚劇場の千穐楽の様子をCSタカラヅカ・スカイ・ステージで生中継
3月23日●小池都知事、記者会見で「都市封鎖（ロックダウン）」に言及
3月23日○東京都の感染症対策本部会議、4月12日までの大規模イベントの自粛継続を要請
3月23日●プロ野球、4月10日開幕を24日に再延期
3月23日●イギリス国内で新型コロナウイルスの感染拡大。ジョンソン首相は3週間の全国的なロックダウンを発表（4月13日にさらに3週間の期間延長）
3月24日●２０２０年東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期を正式発表。「東京２０２０大会」の名称は維持
3月25日○国立劇場、4月12日までの主催公演中止を発表
3月25日●御園座、四月公演『ＮＡＲＵＴＯ』の全公演中止を発表
3月25日●ドイツで総額７５００億ユーロの経済施策が議会承認。特に文化・芸術分野への支援に注目が集まる。グリュッタース文化相「アーティストは今、生命維持に必要不可欠な存在」
3月26日●政府、特措法に基づく対策本部を設置
3月26日○東京都の要請を受け、都内各劇場が週末の休館を発表
3月26日○市川海老蔵出演による「ＫＡＢＵＫＩ×ＯＰＥＲＡ『光の王』」（4月18日、東京体育館）の中止を発表
3月27日●国内の感染者、1日の人数としては最多の１００人超
3月27日●アーツカウンシル東京主催「東京芸術祭２０２０特別公演ファンタスティック・サイト」で5月29日～31日に予定していた『Crazy Camel Garden』『Undercurrents』『Tune To A Dead Channel: Departure/Arrival』の公演中止を決定
3月27日●コミックマーケット98（5月2日～5日）、初の開催中止を決定
3月28日●国内の感染者、1日の人数としては最多の２００人超
3月29日○コメディアンの志村けん、新型コロナウイルスによる肺炎のため発熱からわずか10日で死去。70歳
3月30日○シライケイタ、ケラリーノ・サンドロヴィッチ、中津留章仁、瀬戸山美咲ら舞台関係者、内閣府と文化庁に対し適切な損失補填を求める要請書を提出
3月30日○新橋演舞場、四月大歌舞伎を4月15日まで休演
3月30日○三笠宮彬子女王、ウェブ版「和樂」に「舞台からの祈り」と題した文章を寄稿
3月30日○２０２０年東京オリンピック・パラリンピックの延期日程を２０２１年7月23日開幕と発表
3月31日○東宝、4月15日までの休演を発表
3月31日○大人計画、宮藤官九郎の新型コロナウイルス感染を発表（ウーマンリブ vol. 14『もうがまんできない』4月7日に東京公演の中止、14日に大阪公演中止を発表）
4月1日○安部首相、全国すべての世帯を対象に、2枚ずつ布製マスクを配布する方針を表明。マスクの確保と郵送等に必要な経費は総額４６６億円（のちに約２６０億円と修正）
4月1日●政府、全世界からの入国者に2週間の待機要請を決定
4月1日●日本医師会、一部の地域において病床が不足しつつあるとして「医療危機的状況宣言」を発表
4月1日●テニスのウィンブルドン選手権が中止を決定。戦争以外の理由で中止になるのは史上初。１９４５年以来75年ぶり
4月2日○明治座、創業以来初のオーケストラ生演奏によるミュージカル『チェーザレ』は4月13日～15日の公演中止を決定（4月8日に全公演の中止を発表）
4月3日●国内の感染者、1日の人数としては最多の３００人超
4月3日●国立文楽劇場、四月公演『義経千本桜』通し上演の全公演中止を決定
4月3日○ＳＰＡＣ（静岡県舞台芸術センター）、4月25日～5月6日開催予定の「ふじのくに⇄せかい演劇祭２０２０」と、ふじのくに野外芸術フェスタ２０２０静岡『アンティゴネ』の公演中止を発表
4月3日●プロ野球の開幕が無期限延期に
4月5日○打ち合わせ・稽古・本番のすべてＺｏｏｍを活用するフルリモート劇団「劇団ノーミーツ」発足。5月23日・24日には旗揚げ公演『門外不出モラトリアム』の生配信を予定
4月6日○松竹、歌舞伎座「三月大歌舞伎」、南座　スーパー歌舞伎Ⅱ『新版　オグリ』の舞台収録映像および明治座「三月花形歌舞伎」の出演者座談会の収録映像をYouTube松竹チャンネルで、期間限定で無料配信すると発表
4月6日○国立劇場、『義経千本桜』の記録映像を期間限定で無料配信すると発表
4月6日○シス・カンパニー、KERA meets CHEKHOV『桜の園』の全公演中止を発表。4月10日に『ケンジトシ』の東京・大阪全公演の延期を発表
4月7日●政府、7都府県（東京・神奈川・千葉・埼玉・大阪・兵庫・福岡）を対象に緊急事態宣言を発出（～5月7日）。不要不急の外出自粛、「三密」の回避、人と人との接触8割削減を呼びかけ
4月7日○松竹、歌舞伎座「十三代目市川團十郎白猿襲名披露興行」の延期、新橋演舞場の四月公演中止を発表
4月7日○劇団四季、「新型コロナウイルス感染症対応について」と「全公演の中止期間と今後の再開見通し」

4月7日○ 本多劇場グループ、8劇場すべての休館を決定
4月7日○ 平田オリザ、J-WAVEの電話インタビューに出演。「演劇界は『貧乏だから支援してほしい』のではない。芸術を失うことが社会的な損失になる」
4月8日● 中国湖北省政府、武漢市の封鎖を解除
4月8日● 国内の感染者、1日の人数としては最多の500人超。死者は100人をこえる
4月8日● 文化庁、都道府県・指定都市に向けて「文化財に係る国庫補助事業における新型コロナウイルス感染症に伴う今後の対応等について」を発表
4月8日○ 東宝、帝国劇場・シアタークリエ・日生劇場の各公演および全国ツアー公演の中止を発表
4月9日○ 宝塚歌劇、公演の中止期間延長および今後のスケジュールの見直しを発表
4月10日● 小池都知事、娯楽施設や大学、劇場などに11日から5月6日までの休業を要請。要請に応じた中小の事業者に1店舗50万円の「協力金」を給付する方針
4月10日● 国内の感染者、1日の人数としては最多の600人超
4月10日○ 新国立劇場、期間限定で過去の公演記録映像を無料でストリーミング配信する「巣ごもりシアター」を開始
4月10日○ 国立劇場、文楽『義経千本桜』通し上演を含む5月末までの主催公演と6月・7月の歌舞伎鑑賞教室の中止を発表
4月10日● 中国の木木美術館（M WOODS）が、Nintendo Switchのゲームソフト「あつまれ　どうぶつの森」の中に世界初のバーチャル美術館をオープン
4月11日● 世界全体の死者が10万人をこえる
4月11日● 国内の感染者、1日の人数としては最多の700人超
4月12日● 安倍首相、星野源の楽曲「うちで踊ろう」に合わせて自邸でくつろぐ映像をツイッターに投稿
4月12日● ホリプロの堀義貴社長のインタビューが「しんぶん赤旗」に掲載
4月13日○ 上田慎一郎監督、完全リモートで創る短編映画「カメラを止めるな!リモート大作戦!」の制作を発表。5月1日よりYouTubeで本編を公開
4月14日● アメリカのトランプ大統領、WHOへの資金拠出停止を指示
4月14日● 松竹、IHIステージアラウンド東京で初の歌舞伎上演となる『スーパー歌舞伎Ⅱヤマトタケル』（7月28日～9月25日）の公演中止を発表
4月14日○ 宮本亞門率いる「上を向いてプロジェクト」、第一弾として「上を向いて～SING FOR HOPE」の動画を配信
4月14日○ OSK日本歌劇団、所属劇団員による「手作りマスク」の無料配布を開始。外出の困難な高齢者や要請があった個人や施設などに配布対象
4月15日● IMF（国際通貨基金）、2020年の世界全体の経済成長率がマイナス3%まで大幅に落ち込むという見通しを発表
4月15日○ ホリプロ、マシュー・ボーンの『赤い靴』来日公演の中止を発表（5月7日に彩の国シェイクスピア・シリーズ『ジョン王』公演中止、5月15日に『ピリー・エリオット～リトル・ダンサー～』開幕延期及び7・8月公演中止、5月27日に『ピーターパン』公演中止、6月18日に『スクールオブロック』公演中止を発表）
4月16日● 緊急事態宣言の対象区域を全都道府県に拡大。13都道府県は「特定警戒都道府県」に
4月16日● 安倍首相、すべての国民対象に一律1人あたり10万円を給付する考えを表明
4月16日○ 劇団四季、『劇団四季　The Bridge～歌の架け橋～』の全国公演を開幕
4月16日○ 日本舞踊岩井流の岩井友見、十一代目岩井半四郎襲名披露（国立劇場、5月2日予定）の延期を発表
4月16日○ 人形劇団ひとみ座、ひとみ座YouTubeチャンネル「Hitomiza Theater」で「みんな元気でつながる動画！」を配信
4月17日○ 歌舞伎座、三月公演映像の無料配信開始（～4月26日）
4月17日● 医師・医療福祉・まちづくり関係者による若手芸術家支援のクラウドファンディング「コロナ禍から芸術を守りたい“#SaveArts”プロジェクト」始動

4月17日○ 落語家の春風亭一之輔、YouTubeチャンネルを開設。4月21日から30日まで毎日落語を生配信すると発表
4月18日● 国内の感染者が1万人をこえる
4月19日○ 三浦直之主宰のロロ、連作通話劇『窓辺』をYouTube Liveで配信開始
4月20日○ 歌舞伎座前の「木挽町繻松」が閉店
4月21日○ この頃、店頭からハンドソープが消え始める
4月21日● 大型連休の前後から、感染者・他県への移動者・営業中の店舗等に対し、SNSや貼紙等で自粛要請や攻撃的な言葉を投げかける「自粛警察」問題が浮上
4月21日○ シャープ、個人客向けのマスクの販売を開始。申し込みが殺到してサーバーがダウン。27日から抽選販売が再開
4月21日○ クリーク・アンド・リバー社の舞台芸術事業部、「STAGE@HOME ～おうちで楽しむ演劇～」プロジェクト開始を発表
4月22日● 大阪府の吉村知事、休止している劇場やライブハウスなどに対して、無観客ライブなどの配信事業の立ち上げを支援する補正予算案を発表
4月22日○ 消費者庁などは世界的にマスクの需要が増え、値段が上がっていることを受け、一般消費者向けのマスクを適正な価格で売るよう業界団体に要請
4月23日● 小池都知事、4月25日～5月6日を「STAY HOME週間」と位置づけ、都民に外出自粛を強く求めた
4月23日● 国内の死者が300人をこえる
4月23日● 俳優の岡江久美子、新型コロナウイルスによる肺炎のため死去。63歳
4月23日● 俳優・劇作家・演出家の和田周、新型コロナウイルスによる肺炎のため死去。81歳
4月23日● 新国立劇場、「巣ごもりシアター」の演劇部門『おうちで戯曲』を公開
4月23日● conSept合同会社と杉本事務所、「新型コロナウイルス感染症被害対策・舞台芸術を未来に繋ぐ基金＝Mirai Performing Arts Fund」を設立。28日よりクラウドファンディングを開始
4月23日● 国立科学博物館、当面の臨時休館継続を発表
4月24日● 演劇プロデューサーの松田誠が発起人となり、舞台専門プラットフォーム「シアターコンプレックス」を発足。5月1日よりクラウドファンディング開始
4月24日○ 日本芸術文化振興会、6月30日までの国立劇場、国立演芸場、伝統芸能情報館、国立能楽堂、国立文楽劇場での全主催公演等の中止を決定
4月24日○ 東京都、「アートにエールを！東京プロジェクト」を発表。アーティストから動画作品を募集、専用サイトで配信。出演料相当として1人当たり10万円、1作品につき上限100万円
4月25日○ SPAC（静岡県舞台芸術センター）、「ふじのくに⇄せかい演劇祭2020」をオンラインの「くものうえ⇄せかい演劇祭2020」として開幕（～5月6日）
4月26日○ 上山竜治が企画したプロジェクト「Shows at Home」の第1弾として、ミュージカル界の若手スター30人による『レ・ミゼラブル』より「民衆の歌」のリモート歌唱動画をYouTubeに投稿
4月26日● 全国高校総体の中止を決定
4月27日● 日本銀行、新型コロナウイルスの感染拡大で経済への影響が深刻になっているとして追加の金融緩和を決定
4月27日○ 日本演出者協会・日本劇作家協会・日本劇団協議会による要望書「演劇は生きる力です。演劇緊急支援プロジェクト」発足
4月27日○ 宝塚歌劇団元男役トップの杜けあきら65期生の有志の呼びかけにより、宝塚歌劇団OGによる「すみれプロジェクト」発足
4月28日○ 国際美術館会議（CIMAM）、新型コロナウイルスが蔓延する状況において、美術館が注意すべき20の項目を公開
4月29日● 安倍首相、国会で9月入学を検討する考えを表明
4月29日○ 国立文楽劇場、2019年上演した『仮名手本忠臣蔵』の第一部から第三部までの映像を公開（～6月1日）
4月30日○ 大蔵流狂言師の善竹富太郎、新型コロナウイルス感染に伴う敗血症のため死去。40歳

4月30日 ○ 劇団四季が俳優３１０名による「友だちはいいもんだ」のテレワーク歌唱動画をYouTubeに投稿
4月30日 ● 国会で第一次補正予算成立。国民に一律10万円の給付、児童手当の上乗せ、中小、個人事業者への持続化給付金など
5月1日 ○ ステージチャンネルの仲瑞枝、サンモールスタジオの佐山泰三ら、全国の小劇場支援を目的としたプロジェクト「小劇場エイド基金」を始動
5月1日 ○ 『THEATRE E9 KYOTO、既存の舞台芸術の概念にとらわれない作品のプラットフォームを目指す仮想の劇場「THEATRE E9 Air」を立ち上げ
5月2日 ● 国内の死者が１万５０００人をこえる
5月3日 ● 国内の感染者が１万５０００人をこえる
5月3日 ○ 平田オリザの「私はこう考える　他者に寛容な社会に」がＮＨＫ特設サイト「新型コロナウイルス」に掲載。賛否を呼び、８日に青年団ホームページに「ＮＨＫにおける私の発言に関して」を発信
5月3日 ● 緊急事態宣言を31日まで延期。東京など13の「特定警戒都道府県」には「徹底した感染防止対策」を前提に博物館・美術館・図書館・屋外公園など、一部公共施設の使用制限の解除・緩和を認めた政府専門家会議、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るための「新しい生活様式」を提示
5月4日 ● 劇団☆新感線、９月～10月の公演中止を発表
5月5日 ○ 三谷幸喜作『12人の優しい日本人』Ｚｏｏｍを使用してリモートで演じる『12人の優しい日本人を読む会』がYouTube Liveで公開。発起人の近藤芳正、本作初出演の吉田羊らが参加
5月6日 ● 公益社団法人日本動物園水族館協会は「動物園・水族館における新型コロナウイルス感染対策ガイドライン（暫定版）」を発表
5月7日 ● 国内の感染者が96人。１日の人数が１００人下回る
5月7日 ● 厚生労働省、国内初の新型コロナウイルス感染症の治療薬として、アメリカのギリアド・サイエンシズの抗ウイルス薬「レムデシビル」を特例承認
5月7日 ○ こまばアゴラ劇場、６月・９月・10月、一部公演の中止を発表
5月8日 ● 感染拡大が沈静化しつつあった韓国で市中感染が再発生。韓国政府は、ソウルの繁華街・梨泰院のクラブなどからクラスターが確認されたと発表
5月11日 ● 世界全体の新型コロナウイルス感染者が４１０万人、死者が28万人に到達。アメリカのジョンズ・ホプキンス大学システム科学工学センターが発表
5月11日 ● 武漢市、約１か月前のロックダウン解除から初となるクラスターの確認を発表。５月13日から１１００万人の市民全員を対象とした検査を開始
5月11日 ○ ＫＥＲＡ×古田新太企画 cube presents『欲望のみ』豊橋・東京・兵庫の全公演中止を発表
5月12日 ○ コンサートプロモーターズ協会・関西部会が発起人の大阪ライブ・エンタテイメント連絡協議会、経済的支援を求めて大阪府と大阪市に要望書を提出
5月12日 ● ブロードウェイ、劇場封鎖が９月６日まで延長（14日に『FROZEN』（アナと雪の女王）の終了を決定）
5月12日 ● ＩＣＯＭ（国際博物館会議）、美術館・博物館再開の対策として36項目のガイドラインを提示。対応できないミュージアムは臨時休業すべきと提唱
5月13日 ○ 厚生労働省、感染の有無を15分程度で簡易診断する「抗原検査」の検査キットを薬事承認（臨床検査薬メーカー富士レビオが４月に申請）
5月13日 ● 高田川部屋の三段目力士・勝武士、新型コロナウイルス性肺炎による多臓器不全のため死去。28歳
5月13日 ● 日本相撲協会、力士ら協会員の全希望者を対象に抗体検査を実施すると発表。国内のスポーツ団体では、初の大規模な検査実施
5月14日 ● 政府、東京・神奈川・千葉・埼玉・大阪・兵庫・京都・北海道を除く39県で緊急事態宣言を解除。病院でのクラスター発生が確認された愛媛でも条件付き解除の方針
5月14日 ○ 公演の中止延期が相次いだ舞台芸術界の損害額調査を実施。危機的状況をふまえ、劇場や劇団、芸能事務所、制作会社など40を超える関係企業・団体が参加・賛同して「緊急事態舞台芸術ネットワーク」を発足し、ホームページ開設
5月14日 ○ 全国公立文化施設協会（全国公文協）、劇場等における感染拡大防止のガイドラインを公表
5月14日 ● 公益財団法人日本博物館協会、「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を発表

5月15日 ● 世界全体の死者が30万人をこえる
5月15日 ○ 「全国小劇場ネットワーク」がホームページを開設。緊急事態宣言後の小劇場再開に向けたクラウドファンディングを開始
5月15日 ○ 東宝、７月の東京公演と全国ツアーの中止を発表
5月15日 ○ 世田谷パブリックシアター、芸術監督の野村萬斎のコメント動画と、過去に上演した芸術監督企画の『唐人相撲』『鏡冠者』『髭櫓カケリ入』をYouTubeで順次公開
5月16日 ● 39県の緊急事態宣言解除後、残る８都道府県でも人出が増加傾向にあるとして自粛要請を継続
5月16日 ● ダイヤモンド・プリンセス号、横浜港からマレーシアへ向け出港
5月19日 ● 東京都、新型コロナウイルスの緊急事態宣言延長に伴う休業要請の追加協力金等を含む５８３２億円の補正予算案を発表
5月19日 ● 京都・神奈川・千葉・埼玉各県の知事がテレビ会議。外出自粛や休業要請の解除について、各都県の感染状況にかかわらず一体となって実施する方針
5月19日 ● ＷＨＯ加盟国、ＷＨＯの新型コロナウイルスのパンデミック対応について、独立した検証委員会を設置することで合意
5月19日 ● 自民党文部科学部会、新型コロナウイルス対策で文化・芸能支援に５００億円以上の財源が必要との認識を示す
5月19日 ○ チームラボ、時間制来館者システム「チームラボチケッティングシステム」の提供を開始。入場者数のコントロールや感染者発覚時の円滑な連絡等に活用できるシステム
5月20日 ○ 本多劇場グループ総支配人の本多愼一郎が発起人となり、「小劇場協議会（仮称）」準備委員会を発足。劇場間の情報共有や劇場の垣根を越えた社会貢献へ
5月20日 ○ 本多劇場グループ、６月１日からの劇場再開を発表。６月１日～７日に一人芝居『DISTANCE』を無観客で日替わり上演し、ライブ配信
5月20日 ● 夏の甲子園（全国高校野球選手権大会）、戦後初の中止を決定
5月21日 ● 東京都、都内の感染者数について保健所からの報告漏れが再び見つかり、感染者数が40人程度増えると発表
5月21日 ● 京都・大阪・兵庫の２府１県で緊急事態宣言解除。東京・神奈川・千葉・埼玉・北海道の１都４県は25日の専門家会議で解除の可否を検討
5月22日 ● 小池都知事、休業要請緩和のロードマップを発表。現状はステップ０、次のステップ１では博物館・美術館の休業要請を緩和する見通し
5月22日 ○ 厚生労働省、新型コロナウイルス感染症の患者対応をする医師や看護師ら医療機関の職員に１人当たり最大20万円の慰労金の支給を検討
5月22日 ● 国内の死者が８００人をこえる
5月22日 ○ 映画監督の諏訪敦彦、日本劇作家協会会長の渡辺えり、ライブハウス経営者の加藤梅造ら映画・演劇・音楽関係者、経済的な損失の補塡などを目的とした「文化芸術復興基金」の創設などを求めて国に要望書を提出
5月22日 ○ ＷＯＷＯＷによる演劇プロジェクト「劇場の灯を消すな！」が始動
5月22日 ○ 劇団四季、公演計画が変更となった演目、各公演の再開見込みを発表
5月22日 ● 劇団四季、７月14日開場予定のＪＲ東日本四季劇場［秋］、９月10日に開場予定のＪＲ東日本四季劇場［春］について、開場の延期を発表
5月25日 ● 東京・神奈川・千葉・埼玉・北海道の５都道府県の緊急事態宣言解除を発表。全国で解除
5月25日 ● エステー株式会社、全国８都市で公演予定のＴＯＵＲＳミュージカル『赤毛のアン』の全公演中止を発表
5月25日 ○ 日本芸術文化振興会、「文化芸術復興創造基金」と「くろごちゃんファンド（国立劇場基金）」を創設、寄付募集を開始
5月25日 ○ 歌舞伎座、夜間のブルーライトアップを開始。医療従事者への感謝をこめてライトアップを青色にする全国展開の動きに連動
5月25日 ● プロ野球、６月19日開幕を決定。当面は無観客試合
5月26日 ● 国立文化財機構、緊急事態宣言解除を受け、６月２日より東京・京都・奈良・九州の各国立博物館

5月27日 ○ 及び研究所公開施設を再開館すると発表
5月27日 ● 「J-LODlive 補助金」（コンテンツグローバル需要創出促進事業費補助金）のサイトオープン
5月27日 ○ ＷＨＯ、新型コロナウイルスのパンデミックを抑制する新たな資金源を確保するための財団新設を発表
5月27日 ● 大阪府の吉村知事、「大阪コロナ追跡システム」について説明。29日より「緊急事態宣言下で休業要請をお願いした施設」から運用を開始
5月27日 ○ こまつ座、クラウドファンディング「劇作家・井上ひさしの遺した言葉を、そして演劇を次世代に繋ぐ」を始動
5月28日 ● アメリカ国内の新型コロナウイルス感染による死者数が10万人、感染者数が１７０万人に到達。死者数・感染者数ともに世界最多
5月28日 ● 日本俳優協会と伝統歌舞伎保存会、YouTube チャンネル「歌舞伎ましょう」を開設
5月28日 ○ あうるすぽっと（としま未来文化財団）、７月１日からの開館を発表
5月29日 ● 厚生労働省、感染患者の退院基準を見直し、発症から一定期間が過ぎれば、ＰＣＲ検査による陰性確認がなくても退院を認める方針
5月29日 ○ 歌舞伎座ギャラリーのトークショー「歌舞伎夜話」の特別編「歌舞伎家話」として、松本幸四郎と尾上松也の対談がStreaming+で有料配信
5月29日 ● サッカーＪ１、７月４日再開を決定。当面は無観客試合
5月30日 ● 東京都の感染者数が４日連続で前日を上回り、再拡大の兆候が表れた際に都が独自に出す警戒宣言「東京アラート」の目安をこえた
5月30日 ○ 全国興行生活衛生同業組合連合会（全興連）、「演芸場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」公開
5月31日 ● 政府、外国人の入国制限の緩和について、タイ・ベトナム・オーストラリア・ニュージーランドの４か国を第１弾とする方向で検討を開始
5月31日 ● 世界の感染者数が６００万人に到達
6月1日 ● 本多劇場、一人芝居の無観客ライブ配信『DISTANCE』で再始動。初日は約２０００人が観劇
6月1日 ○ ＰＡＲＣＯ劇場、「PARCO STAGE@ONLINE」プロジェクトを発表
6月1日 ○ 落語芸術協会・落語協会、寄席興行を一部再開
6月1日 ● 東京都、休業要請緩和を第２段階へ移行。映画館やスポーツジム、生活必需品以外を扱う商業施設など営業可能に
6月2日 ● 都内で新たに34人の感染が報告、直近１週間の平均感染者数が16・３人に。「東京アラート」発動、都庁とレインボーブリッジが赤くライトアップ
6月2日 ○ 小劇場協議会発足
6月2日 ○ 歌舞伎俳優からのメッセージを掲載した「演劇界」２０２０年６・７月号が完売、重版決定
6月3日 ○ 市川海老蔵、YouTube チャンネルを開設。７日にはツイッターを始める
6月5日 ● ＷＨＯ、新型コロナウイルスの感染防止に向けたマスクに関する指針を改定。電車やバスの車内、店舗、抗議デモの現場など対人距離を取ることが困難な場所では、各国政府は市民に布マスクを身に付けることを推奨すべきと勧告
6月5日 ○ 新国立劇場、「新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を策定
6月5日 ○ 宝塚音楽学校、延期となっていた１０８期生40人の入学式を実施
6月5日 ○ ホリプロ、「ミュージカルクリエイタープロジェクト」を発表。世界で通用するオリジナルミュージカルのクリエイターをプロ・アマ問わず募集
6月5日 ○ 浅草九劇、「オンライン型演劇場」としてリニューアル。第１弾企画として柄本明ひとり芝居『煙草の害について』を無観客オンライン生配信
6月5日 ○ 宝生会、能専門のプラットフォーム「能 LIFE Online」を開設
6月5日 ○ 日本芸術文化振興会、伝統芸能情報館・国立演芸場・国立能楽堂・国立文楽劇場の資料展示室を開室
6月6日 ○ 秋田県仙北市の劇団わらび座、芸術村わらび劇場でミュージカル『空！空!! 空!!!』を上演。同県のガイドラインなどに従い、本来７１０ある客席を１００席に制限。１００人規模の観客を入れての公演再開は全国の先駆け
6月6日 ○ 吉本興業、大阪の「よしもと漫才劇場」、東京の「ヨシモト∞ホール」で無観客公演・インターネット配信を開始
6月6日 ○ 柳亭こみち、15日の「落語坐こみち堂Ⅸ　柳亭こみち独演会」をライブ配信すると発表。国立演芸場初の有観客配信公演
6月7日 ● 小池都知事、西村経済再生相らと会談。感染が相次いでいる「夜の街」の従業員を対象に、定期的にＰＣＲ検査を受診できる態勢づくり目指す
6月8日 ● 世界の累計感染者数が７００万人に到達。死者数は７日に40万人を超え、三大感染症の一つ、マラリアに匹敵する被害
6月8日 ● 世界銀行、世界全体の経済成長率の見通しを発表。第二次大戦以降最悪の水準
6月8日 ○ 小劇場協議会、東京都内の小劇場が再開するにあたり「感染症対策ガイドライン」を作成・公開。加盟している全ての劇場でガイドラインの徹底を図る
6月9日 ○ 日本芸術文化振興会、緊急事態宣言解除にともない、国立能楽堂の主催公演を７月より再開すると発表
6月9日 ○ ＮＨＫ、４月１日から収録を休止していた大河ドラマ「麒麟がくる」の撮影を30日から再開すると発表
6月10日 ○ 東京芸術劇場、施設の再開に伴い「公益財団法人東京都歴史文化財団　東京芸術劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を発表
6月11日 ○ 東京都、「東京アラート」を解除
6月11日 ● 東京都、休業要請緩和のステップを６月12日から「３」へ移行と発表。19日には全面解除へ
6月12日 ● 第二次補正予算成立。持続化給付金の拡充、文化芸術への公的支援など
6月12日 ○ 小池百合子都知事、無所属での都知事選挙出馬を表明
6月13日 ○ イギリスの製薬会社アストラゼネカ、オックスフォード大と開発中のワクチン候補について、欧州のワクチン同盟に年末から最大４億回分を供給と発表
6月14日 ● 東京都、新たに47人の感染を発表。新宿エリアの夜の繁華街を中心に感染確認、都内で１日の感染者が40人を超えたのは５月５日以来
6月15日 ○ 東京都、感染拡大の第２波に備え、休業要請などの目安となる指標の見直しや、検査・医療提供体制の拡充などを検討するワーキングチームを発足
6月15日 ○ 宝塚歌劇、延期となっていた公演を７月17日から宝塚大劇場で再開すると発表。花組公演『はいからさんが通る』
6月15日 ○ 日本映画製作者連盟、映画配給大手12社の５月の興行収入総額が、前年同月比98・９％減の約１億９６００万円と発表。２０００年以降で最低
6月16日 ● 世界の新型コロナウイルスの累計感染者数が８００万人に到達。累計死者数は43万人超
6月17日 ● 大阪府の吉村知事、大阪大学と共同でワクチン開発に取り組む製薬ベンチャー・アンジェスが、30日から治験を開始すると発表
6月17日 ○ 劇団四季、クラウドファンディング「【劇団四季　活動継続のための支援】新型コロナウイルスを乗り越え、再び演劇の感動を全国へ―」を開始
6月18日 ● 西村経済再生相、イベント開催制限緩和を話し合う検討会を立ち上げると発表
6月18日 ○ 早稲田大学演劇博物館、劇団・劇場・関係団体に、新型コロナウイルス感染症対応にともない公演中止や延期となった演劇資料の提供の呼びかけを開始
6月19日 ○ 政府、都道府県境をまたぐ移動を全面的に緩和。ライブハウスやナイトクラブなどの休業要請も解除
6月19日 ● 感染者と濃厚接触した疑いがある場合に通知を受けられるスマートフォン向けのアプリ「ＣＯＣＯＡ（ココア）」の利用開始
6月19日 ○ 吉本興業、大阪・東京・千葉の５劇場を再開
6月19日 ○ 松竹、八月南座の『坂東玉三郎特別公演』中止発表
6月19日 ● ＳＰＡＣ（静岡県舞台芸術センター）、俳優が高齢者施設や児童福祉施設を訪れ、名作の朗読・トーク・楽器の演奏などを施設の外からＦＭ波で届ける「ＳＰＡＣ出張ラヂヲ局～電波で演劇とどけま

6月19日 ● す！〜」を立ち上げ（〜8月31日）
6月20日 ○ プロ野球、無観客試合で開幕
6月22日 ● シス・カンパニー、9月から公演を再始動すると発表
6月22日 ● 世界の新型コロナウイルスの累計感染者数が９００万人、累計死者数が47万人に到達
6月22日 ● 東宝、帝国劇場とシアタークリエの公演再開を発表。帝国劇場では7月18日〜8月5日の『ジャージー・ボーイズ　イン　コンサート』、シアタークリエでは7月11日の『TOHO MUSICAL LAB』、7月20日〜8月4日の『SHOW-ISMS』の公演を予定
6月23日 ● ドイツで大規模クラスター発生、再びロックダウンを開始
6月23日 ● 文化庁、文化芸術に関する各種支援の案内を公開。「文化芸術活動への緊急総合支援パッケージ」募集案内の骨子案など
6月23日 ○ 明治座、4月に公演中止となったミュージカル『チェーザレ』を題材としたコンサートの開催を発表
6月23日 ● 東京ディズニーリゾート、7月1日からの営業再開を発表
6月24日 ● 東京都、新たな感染者が55人と報告。緊急事態宣言解除後としては最多
6月24日 ● 西村経済再生相、専門家会議を廃止し、新たな分科会設置を発表
6月24日 ● 専門家会議、3月2日の見解公表に際し、「無症状の人が感染拡大を後押しする可能性がある」など一部の文言を政府の意向で改変したと認める
6月24日 ○ ＴＡＡＣ、上演が延期となった劇場を開放する『なにもない劇場』を開催（〜30日、下北沢・駅前劇場）
6月26日 ○ 演劇制作のトライフルエンターテインメント、クラウドファンディング「舞台を続けたい！トライフルエンターテインメント支援プロジェクト」を始動
6月26日 ● 野木亜紀子脚本のテレビドラマ「ＭＩＵ４０４」（ＴＢＳ）放送開始
6月27日 ● ビデオ会議システムＺｏｏｍに着想をえた、松本幸四郎による「図夢歌舞伎『忠臣蔵!!』」が配信上演開始。史上初のオンライン歌舞伎
6月28日 ● 世界の新型コロナウイルスの累計感染者数が１００１万人に到達。死者数は29日に50万人を超える
6月28日 ○ 三味線メーカーの最大手「東京和楽器」が８月15日に廃業と報じられ、邦楽界に衝撃。支援の動き広がる
6月29日 ○ 松竹、八月歌舞伎座の日程と演目を発表。四部制で幕間なしという構成。併せて感染拡大防止・予防対策を公表
6月29日 ● 埼玉県知事が東京都内への不要不急の外出自粛を要請。東京都知事は、感染者数の目安を超えたので指標見直しを検討
6月30日 ○ カナダのサーカス集団シルク・ドゥ・ソレイユ・エンターテイメント・グループ、カナダの破産法に基づき会社更生手続きに入ると発表
7月1日 ● ＰＡＲＣＯ劇場、三谷幸喜作・演出『大地（Social Distancing Version）』で再開
7月1日 ● 東京ディズニーリゾートが再開
7月2日 ● 東京都で１０７人の感染確認。都内で１日の感染確認が１００人以上となるのは大型連休中の5月2日以来
7月5日 ● 東京都知事選挙で小池百合子都知事が再選
7月6日 ● 東京芸術祭実行委員会、豊島区池袋エリアを中心に「東京芸術祭２０２０」（9月30日〜11月29日）開催を決定
7月8日 ● 『THE ★ JINRO―イケメン人狼アイドルは誰だ!!―』（6月30日〜7月5日、新宿シアターモリエール）の出演者1名が感染確認。10日までに14名の感染が確認
7月9日 ● 東京都で２２４人の感染確認。２００人超は約3か月ぶり。国内の1日の感染者が３００人超える
7月9日 ● 文化庁、文化芸術収益力強化事業（委託事業）の募集開始
7月10日 ● 文化庁、文化芸術活動の継続支援事業の募集開始
7月10日 ● 政府は「ＧｏＴｏトラベル」キャンペーンについて、8月上旬開始の予定を前倒しすることを発表
7月11日 ○ シアタークリエから新作オリジナルミュージカルを発信する新プロジェクト「TOHO MUSICAL LAB」が配信開始
7月12日 ● 世界の感染者が1日で最多の23万３７０人
7月12日 ● 大阪府で新たに32人の感染が確認。府独自の「大阪モデル」に基づき通天閣と万博記念公園の太陽の塔を黄色でライトアップ
7月12日 ● Bunkamura シアターコクーン、ライブ配信のための演劇『プレイタイム』公演。岸田國士の「恋愛恐怖病」を軸に、杉原邦生、梅田哲也らが手がけ、森山未來、黒木華が出演
7月12日 ○ 中村壱太郎、尾上右近らによる「ＡＲＴ歌舞伎」が有料配信
7月14日 ● 新宿ゴールデン街劇場、8月末日で閉館を発表
7月14日 ● 『THE ★ JINRO―イケメン人狼アイドルは誰だ!!―』の集団感染について、小劇場協議会が、主催者がガイドラインを徹底・遵守していなかったことを明らかに
7月15日 ● 東京都は、都内の感染状況を4段階ある警戒のレベルのうち最も深刻な表現に引き上げ
7月16日 ● 国内の1日の感染者が4月10日以来、６００人をこえる
7月16日 ● 東宝、帝国劇場『ジャージー・ボーイズ　イン　コンサート』の21日までの公演中止発表。劇場勤務者の感染が判明したため
7月17日 ● 東京で新たに２９３人の感染が確認
7月17日 ● 神奈川県、新たな感染者が40人以上確認。「神奈川警戒アラート」を発出
7月17日 ○ 宝塚大劇場で『はいからさんが通る』初日。約4か月ぶりの開場
7月18日 ● 世界全体の死者が60万人をこえる
7月18日 ○ 「中村勘九郎　中村七之助　歌舞伎生配信特別公演」を7月18日・19日に浅草公会堂でライブ配信すると発表
7月18日 ● 宝塚歌劇、宝塚大劇場での公演を7月17日、東京宝塚劇場での公演を7月31日より再開すると発表
7月19日 ● ＴＢＳドラマ「半沢直樹」の放送開始
7月22日 ● 東京都で新たに２３８人の感染確認。東京の累計感染者数が1万人を突破
7月22日 ● 政府の観光需要喚起策「ＧｏＴｏトラベル」キャンペーン始まる。東京発着の旅行は割引対象外
7月23日 ● ＮＨＫ、又吉直樹脚本のテレビドラマ「不要不急の銀河」放送
7月23日 ● 世界全体の感染者が１５００万人をこえる
7月23日 ● 東京都で３６６人、国内の1日の感染者９８１人。いずれも過去最多
7月23日 ● 4連休初日、各地の観光地では「ＧｏＴｏトラベル」を活用して楽しむ人がにぎわいを見せた
7月24日 ● 東京芸術劇場、自主公演を再開。野田秀樹が２０１８年末に立ち上げた東京演劇道場の道場生による『赤鬼』を上演
7月25日 ● 「図夢歌舞伎『忠臣蔵!!』」が最終回を迎える
7月25日 ● シアタークリエで『SHOW-ISMS』出演者の1名に38度の発熱が見られ、急遽同日12時の公演ならびに同公演のライブ映像配信を中止
7月27日 ○ 能楽界のトップスターが一堂に会する特別公演「能楽公演２０２０〜新型コロナウイルス終息祈願〜」（国立能楽堂）が開幕（8月7日までの10日間を完遂）
7月27日 ● 『THE ★ JINRO―イケメン人狼アイドルは誰だ!!―』主催のライズコミュニケーション、「事実経緯報告書」を公開。俳優・スタッフ・関係者・観覧者の計75人の陽性確認
7月28日 ● ＮＨＫ「クローズアップ現代＋」の「劇団四季　終わりなき苦闘〜密着 再開の舞台裏」放送
7月28日 ● 国内の死者が１０００人こえる
7月29日 ● 東京都で２５０人、大阪府で２２１人、愛知県で１６７人など、1日の感染者が初めて１０００人を超えた。岩手県で初めて2人の感染が確認され、全国47の都道府県すべてで感染が確認
7月30日 ● 「営業時間は午後10時まで」と再び東京都が要請
7月31日 ○ 東京宝塚劇場、初日を開ける
7月31日 ○ 松竹、8月1日から始まる歌舞伎座「八月花形歌舞伎」の舞台稽古および感染予防対策を公開
8月1日 ○ 歌舞伎座「八月花形歌舞伎」が初日。2月公演の千穐楽以来、5か月ぶりの再開
8月1日 ○ 京都・南座で「夏の舞台体験ツアー」開催
8月2日 ○ 宝塚大劇場、舞台関係者感染のため4日まで休演（のちに16日までの休止となり、最終的に31日まで中止）
8月3日 ○ 東京都、酒類の提供を行う飲食店へ営業時間を22時までとするよう要請
8月5日 ○ 「ニコニコネット超会議２０２０夏」にて、8月16日に超歌舞伎『夏祭版 今昔饗宴千本桜』が全編

8月5日○ 無料生中継で配信
歌舞伎座の「八月花形歌舞伎」第三部『義経千本桜 吉野山』の関係者に微熱の症状が認められたため、急遽第三部を公演中止（翌日陰性が確認）
8月6日● 安倍首相、広島市内で記者会見し、感染防止策の徹底を求めた
8月6日● 東京宝塚劇場、出演者感染のため7日から公演中止
8月6日● アメリカ、全世界への海外渡航の禁止制限緩和を発表
8月7日● 首都圏に「熱中症警戒アラート（試行）」が発表
8月8日● 歌舞伎座、公演関係者1人に微熱の症状が出たため、5日の「八月花形歌舞伎」第三部『義経千本桜 吉野山』が中止。PCR検査で陰性と判定
8月11日● 世界の感染者が2000万人こえる
8月12日● 日本芸術文化振興会、文楽での飛沫拡散についての実験結果報告をホームページに公開。太夫が発声した場合、前方1メートルと当人周辺には多数の飛沫が飛散するが、隣の三味線弾きまで到達する飛散は確認できない
8月12日○ 京都・南座が再始動。当初予定していた「坂東玉三郎 特別公演」は中止となったが「舞台体験ツアー」を企画
8月14日○ NHK「にっぽんの芸能」で、中村壱太郎、尾上右近、松本幸四郎による「紙芝居歌舞伎」を紹介
8月16日○ ニコニコ超会議の超歌舞伎『夏祭版 今昔饗宴千本桜』を生配信
8月19日● 安倍首相、持病の潰瘍性大腸炎が深刻化していると報じられる
8月19日○ 松竹、大阪松竹座「十月花形歌舞伎『GOEMON　石川五右衛門』」（10月3日～27日）の中止を発表
8月20日○ 松竹、大竹しのぶ主演『女の一生』京都公演（南座、10月17日～27日）の中止を発表。新橋演舞場公演は初日を延期して11月2日～26日に上演
8月20日○ 7月～8月の東京公演が中止になっていたミュージカル『ビリー・エリオット～リトル・ダンサー～』が9月11日からプレビュー初日と発表
8月24日● 政府、「8月末まで」としてきたイベントの参加人数の5000人制限を9月末まで継続することを決定
8月24日○ 国立劇場、松本幸四郎と八嶋智人による歌舞伎の入門コンテンツ「松本幸四郎の歌舞伎を知ろう」配信を告知。国立劇場初の有料動画
8月26日○ 松竹、歌舞伎公式動画配信サービス「歌舞伎オンデマンド」を開設
8月27日○ 9月17日・18日、山口祐一郎のトークショー公演『My Story―素敵な仲間たち―』が帝国劇場で開催されることが決定。帝国劇場で本格的なトークショー公演が行われるのは史上初
8月28日● 安倍首相、辞任の意向を発表
8月29日○ 中村吉右衛門が松貫四として『「谷嫩軍記」をもとに書き下ろした配信特別公演『須磨浦』がStreaming+で配信（～9月1日）
8月29日● 東京都心では最高気温が35℃以上の猛暑日に。11日目で、8月としては観測史上最多
8月30日● 劇団SCOT、演劇祭「サマーシーズン2020」を富山県利賀村で開催。例年は国際演劇祭だが国内の劇団のみ。観客数も通常の半分に（～9月6日）
8月30日● NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の放送再開。（6月7日放送の第21回以来、約3か月ぶり）
8月31日● 東京都練馬区の遊園地「としまえん」閉園
9月1日○ 歌舞伎座「九月大歌舞伎」が初日。この月からイヤホンガイドが再開
9月1日○ 博多座「市川海老蔵特別公演」（11月11日～25日）の情報掲載
9月1日○ 文化芸術推進フォーラム、「『文化芸術活動の継続支援事業』改善についての要望書」を全国会議員に配布
9月2日● 菅義偉官房長官、岸田文雄政調会長、石破茂元幹事長が自民党総裁選に出馬を表明
9月5日○ 国立劇場「九月文楽公演」の舞台関係者1名に微熱の症状が確認されたため、5日の第二部～第四部および6日の第一部～第四部の公演を中止
9月6日○ ブロードウェイやウエストエンド、34年ロングラン中の『オペラ座の怪人』、ディズニーアニメのミュージカル版『FROZEN（アナと雪の女王）』の再開断念を発表
9月7日● 国立劇場小劇場で「九月文楽公演」開幕。歌舞伎と異なり、太夫も三味線もマスクはつけず、最前列と出語りの床の下のブロック10列分を空席という措置
9月8日● 新型コロナウイルスの影響を受けた倒産（法的整理または事業停止、負債1000万円未満・個人事業者含む）が全国で500件に
9月9日○ 兵庫県豊岡市で、平田オリザがフェスティバルディレクターを務める「豊岡演劇祭2020」開幕（～22日）。公演を自粛せざるを得なかった団体に、優先的にフリンジ枠を割り当てる支援策
9月10日● 世界の感染死者数が90万人を突破。最も死者数が多いのが米国の19・1万人で、ブラジル12・7万人、インド7・4万人
9月10日○ 松竹、12月の新橋演舞場『藤山寛美歿後三十年 喜劇特別公演』の公演中止を発表
9月10日● 「NHK紅白歌合戦」史上初となる無観客開催を発表
9月11日○ 熊本県の八千代座で、市川海老蔵主演の巡業『市川海老蔵 古典への誘い』が初日
9月11日○ 政府が検討するイベント開催の緩和案として、プロ野球やJリーグなどの大規模イベントは会場定員の50％以内を維持する一方、5000人とした一律の人数制限を撤廃
9月11日○ 鳥取市、13回目を迎える「鳥の劇場祭13」が開幕。規模を縮小し、野外空間を生かしながら、上演とワークショップを二本柱にして開催（～27日）
9月12日○ 黒沢清、「スパイの妻」で第77回ベネチア国際映画祭監督賞を受賞
9月12日● 大坂なおみ、テニス全米オープンで2度目の優勝
9月12日● 自民党の菅義偉総裁、第99代首相に選出。菅内閣発足
9月16日● 松竹、19日からの収容率100％容認を前に、当面は従来の50％の座席使用を維持することを発表
9月18日● 接触確認アプリ「COCOA」の不具合について厚生労働省が検証へ
9月18日● 感染者が世界で3000万人を超えた。アメリカ、インド、ブラジルで人数が多いが、欧州で再び感染が急増
9月19日○ イベント人数の規制緩和。入場人員数50％以下の規制が解除され、演劇界の興行は100％の座席使用が可能に
9月19日● WHO、日常生活がコロナ禍以前に戻るのは早くても2022年になる可能性を示す
9月23日○ 2.5次元ミュージカル『刀剣乱舞～幕末天狼伝』で公演関係者による感染で東京公演中止が発表
9月23日○ 新国立劇場、政府によるイベント収容率の制限緩和を受け、10月以降の主催公演について、間隔を空けるために売り止めていた席を追加販売
9月23日○ ニューヨークのメトロポリタン・オペラが今シーズンの再開を断念、全休を発表
9月25日● 政府、「GoToキャンペーン」を10月以降、拡大する方針を決定
9月27日● 中村勘九郎、七之助が浅草寺五重塔前の特設舞台から『連獅子』を生配信
9月28日● 南座「吉例顔見世興行」の演目が初の三部制で発表
10月1日○ 日本文化芸術振興会、動画配信特設ページ「国立オンライン劇場 ▼▼つながる伝統芸能▲▲」を開設
10月1日● 「GoToトラベル」の対象に東京発着の旅行が加わる
10月1日● 入国制限措置をめぐり、政府は1日から全世界を対象に制限を緩和、中長期の在留資格を持つ外国人に日本への新規入国を認める
10月2日○ アメリカのトランプ米大統領、自身とメラニア夫人がウイルス検査で陽性と判定されたことをツイッターへの投稿で明らかに
10月2日○ 東京文化財研究所でフォーラム「伝統芸能と新型コロナウイルス」が開催
10月2日● 日本学術会議の新任候補6名を菅首相が任命拒否、批判相次ぐ
10月3日○ 劇団四季、新作ミュージカル『ロボット・イン・ザ・ガーデン』を自由劇場で開幕
10月4日○ 国立劇場大劇場、1月以来となる歌舞伎公演の初日。松本幸四郎主演の新作『幸希芝居遊』など
10月4日○ 新国立劇場、『夏の夜の夢』で7か月ぶりにオペラの新シーズンを開幕。日本人アーティストのみで制作
10月4日○ ジャニーズ事務所の滝沢秀明副社長の初監督映画「滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie」が新橋演舞場で特別上映の初日
10月5日● 日本の感染者数は8万5739人となり、中国の8万5470人を上回った

10月5日 ●ファッションデザイナーの高田賢三、新型コロナウイルスの合併症で死去。81歳
厚生労働省、感染拡大に関連する解雇や雇い止めが、見込みも含めて2日時点で6万3347人と発表。製造業に続いて飲食業で1万人を超える
10月6日 ○早稲田大学演劇博物館、オンライン展示「失われた公演――コロナ禍と演劇の記録／記憶」を公開開始
10月7日 ○浅草公会堂「新春浅草歌舞伎」の2021年1月公演中止を発表
10月7日 ○ナイロン100℃、第47回本公演の中止を発表。ケラリーノ・サンドロヴィッチ、今年3公演目の中止
10月9日 ○劇団四季、電通四季劇場『アラジン』出演者の発熱症状により、10日の公演中止を発表。翌日陽性確認、キャストを全て入れ替えて15日再開
10月9日 ○ミュージカル座『ひめゆり』の出演者に陽性者が数名確認。PCR検査で集団感染を確認。13日までに県外を含む72名にまで拡大
10月9日 ○ブロードウェイの劇場などでつくる業界団体は、劇場街の閉鎖を2021年5月30日まで延長すると発表
10月14日 ○演劇・ライブハウス・クラブ・映画の各団体からなる「#WeNeedCulture」による緊急国会要請記者会見が、衆議院第一議員会館の多目的ホールで開催
10月14日 ○劇団ノーミーツ、小学生から大学生を対象とした「全国学生オンライン演劇祭」の開催を発表。3月28日の決勝大会を生配信
10月15日 ○シェイクスピアの原作を野田秀樹が潤色・演出し、1992年に初演された『真夏の夜の夢』をルーマニアのシルヴィウ・プルカレーテが演出。東京芸術劇場プレイハウスで開幕。東京芸術劇場30周年記念公演
10月15日 ○松竹、大阪松竹座で『GOEMON 抄』を18日までの4日間限定で開幕
10月16日 ○「フェスティバル／トーキョー20」開催（～11月15日）
10月16日 ●アニメ「鬼滅の刃」の「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」が全国で劇場公開
10月19日 ○演劇等のイベントのチケット代を補助する「GoToイベント」の公募要領公開。キャンペーン期間は10月29日～2021年1月末
10月21日 ○約9か月ぶりに国立文楽劇場で文楽が再開
10月21日 ○悪疫退除のご利益で知られる大阪府豊中市の原田神社に能楽観世流シテ方の山本章弘が『高砂』を奉納
10月21日 ○劇団四季が、Yahoo!ネット募金で支援金募集を開始
10月22日 ●世界全体の感染者は4108.8万人。欧州各国で第2波の勢いが増しており、スペインが100万人を突破
10月24日 ○東京・竹芝にJR東日本四季劇場［秋］開場。こけら落としとなるミュージカル『オペラ座の怪人』
10月27日 ○東京公演が開幕
10月29日 ○ぴあ総研、2020年のライブ・エンタテイメント市場の推計を発表。ステージ分野は2019年の2058億円から592億円に激減
10月29日 ○市川海老蔵の自主公演『古典への誘い』が小田原市民会館で千穐楽。9月11日の熊本・八千代座から始まった全12か所27公演を完走
10月29日 ○平田オリザを学長に、演劇を実習で学べる兵庫県立の「芸術文化観光専門職大学」が設置認可を受ける。23日付
10月31日 ●ハロウィーン当日、渋谷区が中心となり来訪自粛を促す。仮装した人や、トラブルはほとんど見受けられず
11月1日 ●大阪都構想の是非を問う住民投票が行われ、約17000票の僅差で反対多数となった。前回2015年に続く否決
11月1日 ○歌舞伎座、筋書の販売を再開
11月1日 ○明治神宮、鎮座百年祭を開催
11月3日 ○「日本の劇場文化 復活祈願祭」、道頓堀で開催
11月5日 ○ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、北九州市の北九州ソレイユホールで公演。海外のフル編成のオーケストラによる来日公演は感染拡大以降初
11月5日 ○南座で展覧会「鬼滅の刃」×「京都南座 歌舞伎ノ舘」開催
11月7日 ●北海道、警戒ステージ「3」に。ススキノで営業時間短縮など要請
11月7日 ●延期されていた秋篠宮殿下の「立皇嗣の礼」が皇居・宮殿で行われた
11月8日 ○アメリカ大統領選挙でジョー・バイデン候補が勝利宣言
11月8日 ●政府分科会、「急速な感染拡大の可能性高い」と緊急提言
11月10日 ●松竹、新橋演舞場の一月公演を「初春海老蔵歌舞伎」とすることを発表
11月11日 ○早川書房と公益財団法人早川清文学振興財団、2020年度の第8回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞の中止を発表
11月11日 ○国内の感染確認1661人。1日として過去最多
11月12日 ●劇団新派の劇団内ユニット「新派の子」、特別公演『新派な夕べ 劇場で会えなかったあなたのために…』を開催。劇団初のオンライン配信
11月12日 ○シアタークリエの『RENT』が午後6時半の回の休演を発表。翌日、出演者1名に陽性反応を確認。18日～23日の公演中止を発表
11月16日 ○国内感染者数が過去最多の2201人に。東京も過去最多の493人で感染状況を最高の警戒レベルに引き上げ
11月18日 ●ファイザー、開発中のワクチンについて95％の有効性と発表。FDA（食品医薬品局）に緊急使用許可申請へ
11月18日 ●国内感染者数2388人、東京都534人でともに2日連続で過去最多を更新
11月19日 ●新型コロナウイルスの感染拡大を受けて「第24回鶴屋南北戯曲賞」の選考中止を決定
11月19日 ●WHO、日米などで新型コロナウイルスの治療薬として承認されている抗ウイルス薬「レムデシビル」について、新型コロナ患者には使用しないよう勧告
11月20日 ●ファイザー、開発中のワクチンの緊急使用許可をFDA（食品医薬品局）に申請。新型ウイルスワクチンの緊急使用許可申請はアメリカで初めて
11月20日 ●天皇皇后両陛下、オンラインを使った活動を本格化
11月20日 ●全国の感染者は2596人と4日連続で最多を更新
11月21日 ●国立劇場の第二部『彦山権現誓助剣―毛谷村―』に出演中の片岡孝太郎が感染、23日～25日（千穐楽）の第二部中止を発表
11月22日 ○篠田千明、山口情報芸術センター（YCAM）でオンライン・パフォーマンス公演『5×5×5本足の椅子』
11月25日 ●政府分科会、「GoToキャンペーン」見直しなど政府に求める提言
11月25日 ●西村経済再生相、「この3週間が勝負」と対策強化の方針示す
11月25日 ○歌舞伎座、2021年1月から三部制公演（各部総入れ替え、幕間あり、2演目）とすることを発表
11月25日 ●オンライン劇場「ZA」がオープン。こけら落とし公演は、劇団ノーミーツ第3回公演『それでも、笑えれば』（12月26日・27日、29日・30日に配信）
11月28日 ○東京都、酒を提供する飲食店などに対し、営業時間を午後10時までに短縮するよう要請。全面的に応じた店には一律40万円の協力金を支給
11月29日 ○福岡県糸島市の初潮旅館、半世紀以上続けた大衆演劇の舞台に幕
11月29日 ○福岡県飯塚市の国登録有形文化財「嘉穂劇場」を運営する認定NPO法人が経営難のために解散を決定
11月30日 ○宮崎県日向市で鳥インフルエンザの陽性が確認
11月30日 ●モデルナ、FDA（食品医薬品局）にワクチンの緊急使用の許可を申請したと発表
12月1日 ●「2020ユーキャン新語・流行語大賞」が発表され、年間大賞に「3密」。トップテンは「愛の不時着」「あつ森（あつまれ どうぶつの森）」「アマビエ」「オンライン○○」「鬼滅の刃」「GoToキャンペーン」「3密」「ソロキャンプ」「フワちゃん」
12月2日 ●政府、「GoToトラベル」で、東京都を発着する旅行の利用自粛の要請を受けたキャンセルを無料に

12月2日 ● イギリス政府、ファイザー開発のワクチン承認と発表
12月3日 ● 世界全体の感染者が６４５９万６０００人
12月3日 ○ 緊急事態舞台芸術ネットワーク、「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を発表
12月4日 ○ 『滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie』全国の松竹系映画館で上映開始
12月5日 ● ロシアの首都モスクワで医療関係者や教師などにワクチンの大規模接種を開始。このワクチンは臨床試験が完了していないもの
12月7日 ● 医療現場の人手不足が深刻化。政府、北海道旭川市と大阪府に自衛隊所属の看護師を派遣へ
12月7日 ○ 国立劇場「十二月文楽公演」第二部『桂川連理柵』の出演者に陽性反応を確認。上演中止に
12月7日 ○ 文化庁、２０２１年度に複数校の小中高生らが演劇や合唱、茶道といった活動に一緒に取り組む「地域の文化部」づくりを支援する方針を発表
12月8日 ● 豊洲市場で水産仲卸業者を中心に１６０人の感染が確認
12月8日 ● イギリスで医療従事者と高齢者を対象にワクチン接種開始
12月10日 ○ 横浜赤レンガ倉庫1号館が振付家制度をスタート
12月11日 ○ 京都伝統伎芸振興財団（おおきに財団）は、花街・祇園甲部の芸妓らの感染を受け、ギオンコーナーでの特別公演を中止すると発表
12月14日 ● アメリカでファイザーなどが開発したワクチン接種が開始。医療従事者と介護施設の入居者が優先される方針
12月14日 ○ 劇団☆新感線の演劇作品が、Netflix、Amazon プライムビデオで配信
12月14日 ○ 宮内庁、新年恒例の宮中行事「講書始の儀」「歌会始の儀」を、参列者数を大幅に減らして実施と発表。「新年祝賀の儀」は規模縮小
12月15日 ○ 鎌倉市観光協会、１９５９年から続く「鎌倉薪能」を初めて無観客によるオンラインで無料配信
12月16日 ○ 塩野義製薬、ワクチンを人に投与する治験を始めたと発表。国内の製薬大手によるワクチンの治験は初
12月16日 ○ 国立劇場、ＫＤＤＩ・ＫＤＤＩ総合研究所と共同で「音のＶＲ」を企画。伶楽舎と新日本フィルハーモニー交響楽団の協力で雅楽ＶＲ動画を収録し配信（～1月26日）
12月17日 ● 東京都で過去最多となる８２２人の感染を確認。小池都知事は臨時の記者会見を開き「年末年始コロナ特別警報」を発出すると表明
12月17日 ○ 吉本興業、26日から1月11日まで常設劇場での午後7時以降の年末年始特別公演、主催ライブ２１４公演の開催自粛を発表
12月18日 ● 政府、「ＧｏＴｏキャンペーン」を全国一律で一時停止する方針。「ＧｏＴｏトラベル」の中止期間は28日～２０２１年1月11日。その後の扱いは未定
12月18日 ● 厚生労働省、接種体制の整備計画の案を提示。２０２１年2月下旬に一部の医療従事者に先行接種、3月下旬をめどに高齢者の接種体制確保の計画
12月18日 ○ 東京都より「年末年始コロナ特別警報」と、大晦日の鉄道終夜運転中止の要請
12月18日 ○ ＴＯＨＯシネマズ、従来の新型コロナウイルス感染症の予防対策に加え、12月16日から全劇場で消毒作業を実施していることを発表
12月18日 ● 文部科学省、新型コロナウイルスの影響で10月までに大学・大学院を退学・休学した学生が少なくとも計５２３８人いると発表
12月18日 ● ＷＨＯ、約20億回分のワクチンを確保できる見通しになり、来年3月までに分配を始めると発表
12月18日 ● アメリカＦＤＡ（食品医薬品局）、モデルナが開発したワクチンの緊急使用の許可を出したと発表。2例目
12月19日 ● スーパーやコンビニエンスストアで年末年始の休業や時短営業の動き
12月20日 ● 厚生労働省、生活困窮者のための「自立相談支援機関」で今年度上半期の新規相談が39万１７１７件に上ると発表。前年度同期の3倍に
12月20日 ● ＷＨＯ、変異株がイギリスのほか、デンマーク・オランダ・オーストラリアでも確認されたことを発表
12月20日 ● 岡山、「医療非常事態宣言」を発表。感染者向けに確保した病床の使用率は50％前後に達している
12月21日 ● と見られる
12月21日 ● 日本医師会など医療団体が「医療の緊急事態」を宣言
12月21日 ● ＥＵの執行機関ヨーロッパ委員会が、ファイザーなどが開発したワクチン使用の販売を許可。ＥＵがワクチンに許可を出すのは初
12月21日 ● 韓国で死亡者が24人に、新規感染確認も19日に１０９７人に上り、いずれも過去最多。5人以上の私的会合禁止
12月23日 ● 西村経済再生相、数万人規模のイベントで収容人数50％の制限について、東京を中心に感染拡大地域では一時的に５０００人を上限と発表
12月23日 ● ２０２０年東京オリンピックの開閉会式総合演出チーム再編。統括の立場にあった野村萬斎が大会組織委員会アドバイザーとなり、クリエイティブディレクター佐々木宏が新たな統括に
12月24日 ● イギリスからの新規入国拒否を実施
12月24日 ○ 演出家・劇作家・俳優の長塚圭史、２０２１年4月からＫＡＡＴ神奈川芸術劇場の新芸術監督に就任することが発表
12月25日 ● 厚生労働省、イギリスから到着した5人から変異種の感染確認を発表。国内で変異種の感染者が確認されたのは初めて
12月26日 ● 全国で３８８１人の感染発表。1日に発表される人数としては過去最多
12月26日 ● 政府、全世界からの外国人の新規入国を12月28日～２０２１年1月末のあいだ停止
12月26日 ● 東京都、都営地下鉄大江戸線を27日から通常の7割程度で運行すると発表。運転士計15名の感染を確認。濃厚接触者を含め21人が出勤できず
12月26日 ○ 図夢歌舞伎の第二弾『弥次喜多』がAmazon プライムビデオで独占レンタル配信。前川知大『狭き門より入れ』を弥次喜多の世界観で再構成
12月27日 ● 立憲民主党の羽田雄一郎参議院議員、新型コロナウイルス感染症のため死去。53歳
12月28日 ● ＰＡＲＣＯ劇場オープニング・シリーズ『レディ・マクベス（仮題）』渡航制限により、海外クリエイティブチームの招聘を断念。来春の上演は中止
12月29日 ● 変異株の感染が拡大しているイギリス、1日あたりの新たな感染者数が5万３１３５人に
12月30日 ● 東京都、これまでで2番目に多い９４４人の新規感染確認を発表。入院患者は最多の２３８４人で、現在確保している病床のおよそ約68％
12月30日 ○ 西村経済再生相、自身のツイッターに「感染拡大続けば緊急事態宣言も視野に入る」と投稿
12月31日 ● 東京都、新規感染者が１３３７人と発表。1日当たりの感染者が１０００人を上回るのは初。国内の感染者数は４５１５人で過去最多

## ２０２１年

1月1日 ● ＷＨＯ、ファイザーの開発したワクチンの緊急使用承認。ＷＨＯが新型コロナウイルスのワクチンを承認するのは初めて
1月2日 ● 小池都知事と神奈川・千葉・埼玉3県の知事は、西村経済再生相に緊急事態宣言の発出を要請。西村氏は「検討する」と応じる一方、営業時間短縮に絡む閉店時間の前倒しなどを4都県に要請
1月2日 ○ 歌舞伎座で「壽初春大歌舞伎」が開幕。1日三部制の興行となり、各部2演目ずつ上演。幕間は15分。全三部の6演目
1月2日 ● 日本舞踊協会、15日まで映像作品・日本舞踊Neo『地水火風空 そして、踊』をPIA LIVE STREAMで配信。作・演出は尾上菊之丞、ロケの中心は江之浦測候所
1月2日 ● 東京宝塚劇場、リニューアル20周年を記念して、日比谷シャンテでこれまでに上演された１７４公演すべてのチラシと舞台写真を展示
1月3日 ○ 国立劇場、新春歌舞伎公演『通し狂言 四天王御江戸鏑』で初日
1月3日 ○ 松竹、オンラインで配信する歌舞伎や演劇の作品数を3年～5年後をめどに現状の5倍にあたる３００作品に拡充すると発表
1月4日 ● 菅首相、東京・埼玉・千葉・神奈川を対象とする緊急事態宣言発出の検討に入ったと表明。政府は劇場や映画館などは入場制限の対象に含めない方向で調整

1月5日●変異株の感染拡大が続くイギリス、2月中旬まで原則外出禁止のロックダウンを発表
1月6日●警察庁、新型コロナウイルスに感染後、医療機関以外の自宅などで体調が悪化して死亡した人が昨年3月～12月で計122人に上ると発表
1月6日●政府、東京・埼玉・千葉・神奈川への緊急事態宣言発出に合わせてイベントの人数制限を再び強化する方針
1月6日○AKB48、緊急事態宣言の発令が見込まれることを受けて1月6日～15日の劇場公演を休止
1月6日○EUがモデルナの新型コロナワクチンを販売許可
1月6日●選挙人投票の集計が行われていたアメリカ連邦議会議事堂に、バイデン氏の当選を認めないトランプ大統領支持者が乱入
1月7日●菅首相、東京・埼玉・千葉・神奈川を対象に緊急事態宣言の発出を発表。期間は8日～2月7日
1月7日●東京都、2447人の新型コロナウイルス新規感染者を確認
1月7日●小池都知事、イベント関連施設や劇場、映画館などにも午後8時までの営業を要請。イベントの延期や規模縮小、無観客開催の検討も呼び掛け
1月7日●緊急事態宣言舞台芸術ネットワークが「1都3県を対象とした緊急事態宣言発出を受けて」を発表
1月8日●政府、東京・埼玉・千葉・神奈川の1都3県に二度目の緊急事態宣言発出
1月8日○Bunkamura シアターコクーンで上演予定の『フェードル』が1月8日・9日の公演中止を発表
1月9日●国内の死者が累計4000人超。18日間で1000人増
1月9日●大阪・兵庫・京都の3府県知事が緊急事態宣言発出の検討を要請
1月9日●歌舞伎座、「二月大歌舞伎」の開演時間を変更すると発表。各部開演時間を繰り上げ、午後8時までに終演
1月9日○東宝、ミュージカル『IF/THEN』（シアタークリエほか）の全公演中止を発表
1月10日●新国立劇場バレエ団「ニューイヤー・バレエ」が無観客ライブ配信。9日に開幕する予定だったが、関係者1名に陽性反応が認められたため公演中止
1月12日●愛知・岐阜・栃木の3県、緊急事態宣言の発出を要請
1月12日●日本音楽事業者協会・日本音楽制作者連盟・コンサートプロモーターズ協会・日本音楽出版社協会の4団体、「緊急事態宣言下におけるライブイベント公演の開催に関する共同声明」を発表
1月12日○ホリプロ、公演関係者の感染が確認されていた、『パレード』（15日開幕予定）の初日延期と一部公演を中止。14日に17日開幕を発表
1月13日●西村経済再生相、宣言の全国拡大には否定的な見解を示す
1月13日●大阪・兵庫・京都・愛知・岐阜・福岡・栃木の7府県を対象に緊急事態宣言を発出。2月7日まで
1月13日●11の国と地域で実施しているビジネス関係者らの往来を停止することを決定。外国人の日本への入国が全面的に停止
1月13日●演劇緊急支援プロジェクトと #WeNeedCulture が緊急事態宣言を受けた要望書を財務省、文化庁、経産省と与野党議員へ提出
1月14日●10年に1度とも言われる大寒波が襲来し、全国規模で電力の需給が逼迫
1月16日●文化庁、国が文化財保存のため伝承を支援する「選定保存技術」に三味線や箏の製造修理技術の追加を検討。後継者育成などの公的支援へ
1月16日●初めての大学入学共通テストが全国で一斉に開始
1月17日●イベント開催制限について目安となる「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が改定
1月17日●新橋演舞場の「初春海老蔵歌舞伎」千穐楽が歌舞伎の本興行として初めてオンラインで生配信
1月19日●政府、新型コロナウイルス対策の特別措置法と感染症法の改正案の概要をまとめた
1月19日●人工呼吸器や集中治療室などで治療を受けるなどしている重症者は1001人。16日連続で過去最多を更新、初めて1000人を超えた
1月19日●経産省、緊急事態宣言に伴うイベント関連の対応措置（J-LODlive 補助金）を発表。中止・延期で生じたキャンセル費用を2500万円まで支援。2月22日申請受付開始
1月19日○動画配信プラットフォーム「THEATRE for ALL」の配信作品発表。新型コロナウイルスで外出困難となった人、障害や疾患がある人、子供、母語が日本語以外の人などに対して「開かれた劇場」を目指す、バリアフリー対応のオンライン型劇場
1月21日●アメリカ民主党のジョー・バイデンが第46代大統領に就任。副大統領には初の女性・アフリカ系・アジア系であるカマラ・ハリスが就いた
1月22日●大阪・兵庫・京都の3府県で新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言が発令
1月22日●政府、新型コロナウイルス対策の特別措置法や感染症法などの改正案を閣議決定
1月23日●国内の死者が5000人超に。14日間で1000人増のペース
1月25日○政府は3次補正予算案で、コロナ禍の影響を受けた芸術・文化支援を強化。イベント動画の海外配信や感染防止対策を補助する事業など約770億円を盛り込んだ
1月27日●世界全体の感染者が1億人をこえる
1月28日●WHO、イギリスで最初に確認された変異株が、日本を含むアジアや欧米、中東など世界69の国や地域で確認されたと発表
1月28日●EU、日本での感染拡大を受けて、日本から域内への渡航を再び原則禁止にすることを発表
1月28日●国会で第3次補正予算が成立。医療機関への支援・雇用調整助成金などに重点
1月28日●文学座、より先鋭的な表現の場として「オフアトリエ企画」を立ち上げ
1月31日●GEMSTONE×劇団ノーミーツの「#リモートフィルムコンテスト」グランプリ作品『viewers.』がSNS上で話題
2月1日●2020年2月の公演中止後に無観客で撮影した『Endless SHOCK』全国の映画館上映開始（～2月18日）
2月1日○シアターコクーン、3日開幕予定の『マシーン日記』の初日延期と一部公演の中止を発表（6日午後6時の回に開幕）
2月1日●渡辺えり、八嶋智人共演の『喜劇 お染与太郎珍道中』が新橋演舞場で開幕
2月2日●政府、緊急事態宣言を栃木県を除く10都府県で3月7日まで延長
2月3日●全国で新たに54人の死者が確認。累計で6000人を超えた
2月3日●新型コロナウイルス対策の実効性を高めるため、新たに罰則を導入する改正特別措置法と改正感染症法が成立。即日公布、施行は13日。緊急事態宣言の前段階として「まん延防止等重点措置」を新設
2月3日●2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が「女性がたくさん入っている理事会は時間がかかる」と発言、世界中でニュースに
2月3日○WHO調査チーム、「武漢ウイルス研究所」を訪問。調査本格化
2月4日●ジャニーズ事務所、緊急事態宣言の延長（～3月7日）を受けて同日までの主催コンサート中止を発表
2月5日●接触確認アプリ「COCOA」の接触通知が一部端末に約4か月届いていなかった不具合について、
2月5日●2021年まで実際の端末を使って動作確認をしなかったため発見が遅れた
2月5日●政府、無形文化財と無形民俗文化財の登録制度を新たに設ける文化財保護法改正案を閣議決定。対象には書道や食文化などが想定、今国会で成立すれば、来年度中に施行される見通し
2月7日●世界のワクチン接種者1億人をこえる
2月9日●WHOの武漢調査チーム、「研究所からウイルス流出した可能性は低い」と発表
2月9日●第28回読売演劇大賞発表。大賞・最優秀女優賞に鈴木杏。『殺意 ストリップショウ』と『真夏の夜の夢』の演技に対して
2月10日○#WeNeedCulture、内閣総理大臣・財務大臣・経産大臣・文科大臣・文化庁長官あてに公開質問状を提出
2月10日●「第1回 T Crossroad 短編戯曲祭（2020年の世界）」が開幕。〝2020年の世界〟をテーマに、参加を希望した劇作家たちの全26作品を上演
2月11日●「シアターコモンズ'21」（2月11日～3月11日）が東京都港区エリア各所で開幕
2月11日●2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長の後任に川淵三郎が内定するも、プロセスが問題視されて白紙に
2月12日●ぴあ総研、国内オンラインライブ市場に関する市場調査を実施。2020年内の有料型オンラインライブの市場規模は推計448億円に上ると公表
2月12日○国際交流基金がオンライン無料配信「STAGE BEYOND BORDERS」をスタート。国際交流基金

2月13日 ● 新型コロナウイルス対策の改正特別措置法が施行
2月13日 ○ 福島県沖を震源とする地震。宮城県蔵王町、福島県相馬市などで震度6強の揺れを観測
2月14日 ● ファイザーが開発したワクチンについて、厚生労働省は正式に承認したと発表。新型コロナウイルスのワクチンが国内で承認されたのは初めて
2月15日 ● 国内の死者の累計7000人超に。12日間で1000人増
2月15日 ● 都内の感染者数838人報告漏れ。過去最多数を記録した2021年1月7日は2447人から2520人に増加修正
2月16日 ○ 舞踊家の近藤良平、彩の国さいたま芸術劇場の次期芸術監督就任に決定。就任は2022年4月
2月17日 ● 医療従事者を対象にワクチンの先行接種開始。国立病院などに所属する医師や看護師ら約4万人が対象
2月18日 ○ 文学座のクラウドファンディングプロジェクト「Bungakuza must go on!」がスタート
2月18日 ● 2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会会長に橋本聖子が就任
2月19日 ● 文化庁の専門家組織、政府が2月末までとする大規模イベントの開催制限に対する見解を公表。コンサートや演劇などについて「観客が大声で声援を出さないことを前提とする公演は早期に収容率を100%以内に緩和することが考えられる」とした
2月20日 ○ 市川海老蔵、NPO法人「Earth & Human」の設立記念公演『「Earth & Human」by 1→10』を動画配信サービス「U-NEXT」でライブ配信
2月22日 ● 文化庁設置の感染症対策に関するアドバイザリーボードによる「文化芸術活動の継続・発展に向けた感染症対策の在り方について」公表
2月23日 ● 全国公立文化施設協会、文化庁収益力強化事業の委託を受け、公立の劇場・ホールで実施される舞台芸術公演を配信・記録保存するポータルサイト「公文協シアターアーカイブス」を開設
2月23日 ● 文化庁収益力強化事業のひとつ、「緊急舞台芸術アーカイブ+デジタルシアター化支援事業（EPAD）」の一環として、早稲田大学演劇博物館が舞台公演映像の情報検索特設サイト「Japan Digital Theatre Archives（JDTA）」を開設
2月23日 ● WHO、変異株が100以上の国や地域に拡大と発表
2月25日 ● 第28回読売演劇大賞贈賞式が帝国ホテルで開催。出席人数を制限し、初のライブ配信も。祝賀パーティーは見合わせ
2月25日 ● 新型コロナウイルスの変異株が、鹿児島県や大阪府などの海外滞在歴のない男女8人などからも検出され、国内で200例をこえる
2月25日 ○ 弘兼憲史「相談役 島耕作」の主人公島耕作が新型コロナウイルスに感染。25日発売の「モーニング」13号に掲載
2月26日 ● 菅首相、首都圏を除く6府県で緊急事態宣言を2月末に解除する方針を表明
2月26日 ○ 宮崎駿監督によるスタジオジブリのアニメーション映画「千と千尋の神隠し」が、2022年に世界初の舞台化が発表
2月27日 ○ 歌舞伎座「四月大歌舞伎」の演目と配役発表。三部構成の第一部『勧進帳』では松本白鸚が本興行では最高齢となる弁慶を勤め、第三部では36年振りとなる片岡仁左衛門と坂東玉三郎の『桜姫東文章』上の巻
2月28日 ○ 「act guide」誌の執筆者有志、ウェブサイト「世界ステージ・カレンダー with コロナ」を開設
3月1日 ● 大阪・兵庫・京都・愛知・岐阜・福岡の6府県で、緊急事態宣言解除
3月2日 ● 国内の死者が8000人超。15日間で1000人増
3月3日 ● 菅首相、東京・神奈川・埼玉・千葉の1都3県で緊急事態宣言を2週間程度再延長の方針を発表
3月5日 ○ 市川海老蔵、石川県小松市のこまつ芸術劇場うららで巡業公演『古典への誘い』（～24日。14か所18公演）初日。満員の観客を動員
3月7日 ● 千葉県浦安市、緊急事態宣言で延期していた東京ディズニーシーでの成人式を開催
3月8日 ● 1都3県で緊急事態宣言が2週間の再延長。政府は飲食店の午後8時までの時短営業継続や大人数での会食自粛など感染対策の徹底を要請
3月10日 ● 政府、東京オリンピック・パラリンピックについて、海外からの一般観客の受け入れを断念する方針を固めた
3月10日 ○ 日本舞台芸術振興会と日本経済新聞社、10月～11月に予定されていたウィーン国立歌劇場の来日公演見合わせを発表
3月10日 ● 早稲田大学演劇博物館、「COVID-19影響下の舞台芸術と文化政策――欧米圏の場合」報告書を公開
3月11日 ● 東日本大震災発生から10年
3月12日 ● 厚生労働省、フィリピンから入国した60歳代男性の検体から、フィリピンで確認された変異株を国内で初検出と発表
3月12日 ○ 皇居前広場で能や狂言などを3日間上演する特別公演『祈りのかたち』始まる。皇居と周辺で能や狂言が大規模に上演されるのは約100年ぶり
3月15日 ● 参議院予算委員会の質疑で、荻生田文科相が文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」の約12000件の不交付のうち、6000件が2021年3月5日から1週間の間になされた旨を回答
3月15日 ○ 「万作の会」とNTT西日本、連携協定締結を発表。ICT（情報通信技術）を活用した狂言の普及・活用・伝承を推進
3月17日 ● 2020年東京オリンピックの開閉会式演出の総合統括を担う佐々木宏が、女性タレントの容姿を侮蔑するようなメッセージをチーム内に送っていたと文春オンラインが報じ、謝罪・辞任
3月18日 ● 全国で新たに1499人の感染確認。3日連続で1000人超（首都圏の1都3県で全体の48%）
3月18日 ● 首都圏4都県で再延長していた緊急事態宣言を21日で解除すると決定。外出自粛や時短要請は継続。外国人新規入国停止は継続（オリンピック関係者らは例外）
3月19日 ● 文化芸術推進フォーラム、公演中止などによる2020年の推定損失額は4989億円と中間報告。文化芸術活動支援の予算総額は約2234億円
3月20日 ● 2020年東京オリンピック・パラリンピック、海外一般客の受け入れを断念
3月22日 ● 1都3県でも緊急事態宣言を全面解除。飲食店に対する時短要請は午後9時までに。外出自粛、外国人新規入国停止は継続（オリンピック対象者は対象外）
3月25日 ● 福島県をスタートした2020年東京オリンピックの聖火リレーの初日
3月26日 ● 国内の死者が9000人超。24日間で1000人増
3月26日 ● 歌舞伎座「三月大歌舞伎」第二部『熊谷陣屋』『雪暮夜入谷畦道』、出演者に感染が確認されたため公演を中止（28日から再開。第一部、第二部は予定通り上演
3月26日 ○ 梅田芸術劇場、ミュージカル『消えちゃう病とタイムバンカー』の公演関係者に感染が確認されたため東京公演初日延期と一部公演中止を発表（4月14日に、全公演と無観客ライブ配信の中止を発表）
3月27日 ● NHK BS4Kで長田育恵脚本のテレビドラマ「流行感冒」（志賀直哉原作）放送
3月31日 ● 大阪府は「まん延防止等重点措置」の適用を国に要請。全国で初
3月31日 ○ 東京・春・音楽祭実行委員会、イタリア・オペラ界の巨匠、リッカルド・ムーティが予定通り来日し、「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京」に関連する公演などを開催すると発表
4月1日 ○ 作曲家で元日本音楽著作権協会（JASRAC）会長の都倉俊一が文化庁長官に就任
4月1日 ○ 東京都、芸術文化活動支援事業「アートにエールを！東京プロジェクト」（ステージ型）の追加募集を発表（4月9日～20日）
4月1日 ● 平田オリザが学長を務める、兵庫県立の芸術文化観光専門職大学（豊岡市）が開学
4月2日 ● 政府分科会の尾身茂会長、衆議院厚生労働委員会で「第4波に入りつつある」と述べた
4月5日 ● 全国で初めて、大阪・兵庫・宮城の3府県に、まん延防止等重点措置適用。期間は4月5日～5月5日
4月6日 ● 北朝鮮、新型コロナウイルスの感染拡大を理由に2020年東京オリンピック不参加の方針を5日付で発表
4月9日 ● 政府、東京・沖縄・京都にまん延防止等重点措置適用を発表。
4月9日 ○ 松竹、業績修正を発表。2021年2月期の連結経常損益を上方修正し。「滝沢歌舞伎 ZERO 2020 The Movie」などのヒットが理由

4月9日
○2020年9月に開幕予定だった最新ディズニーミュージカル『アナと雪の女王』が、JR東日本四季劇場「春」で6月24日開幕決定

4月12日
●東京都、まん延防止等重点措置適用開始。5月11日まで

4月12日
●国内のワクチン接種、高齢者も開始。今回は約5万人分

4月12日
○歌舞伎座「四月大歌舞伎」第三部『桜姫東文章 上の巻』の公演時間を17日から千穐楽（28日）まで15分繰り上げ（17時45分開演、20時までに終演）

4月12日
●自民党有志による「日本舞踊文化振興議員連盟」が参院議員会館で設立総会を開催

4月12日
●ニューヨーク・タイムズやイギリスのガーディアン、2020年東京オリンピック・パラリンピックの中止を訴える報道

4月13日
●大阪府の新規感染者、初の1000人超。まん延防止等重点措置を新たに神奈川・千葉・埼玉・愛知の4県で検討

4月13日
○PARCO劇場オープニング・シリーズ『月とシネマ―The Film on the Moon Cinema―』の開幕（4月17日）を延期、28日までの公演中止を発表。出演者の感染確認のため

4月14日
●新規感染者数、兵庫県で507人、大阪府で1130人といずれも過去最多。全国では1月28日以来の4000人超

4月14日
●2020年東京オリンピック・パラリンピック開幕まで100日。IOCは断固開催を宣言。各地で不安の声

4月15日
●東京都で新たに724人の感染確認。大阪府で1208人の感染確認。まん延防止等重点措置、埼玉・千葉・神奈川・愛知に適用拡大

4月18日
●大阪府で最多の1220人感染

4月18日
●イギリスで最初に確認された、感染性が高いとされる「N501Y」変異株の感染者が山形県で初めて確認。全47都道府県で変異株が確認されたことに

4月19日
●大阪府、緊急事態宣言の要請を正式決定

4月19日
●愛媛県、まん延防止等重点措置の適用要請を決定

4月20日
●東京・大阪・兵庫を対象に緊急事態宣言発出の方針を固める

4月20日
○文化庁、第3次補正予算事業「ARTS for the future!」（コロナ禍を乗り越えるための文化芸術活動の充実支援事業）の募集要項発表

4月21日
●京都府、緊急事態宣言の要請を正式決定

4月21日
●国内コロナ感染者数が5000人超。1月22日以来

4月21日
●ワクチン接種後に231人が感染したことが、厚生労働省のまとめで判明

4月21日
●厚生労働省、接触確認アプリ「COCOA」の修正版を公開

4月21日
○TOHOシネマズほか一部劇場、チケット事前販売を一部休止

4月21日
●厚生労働省の専門部会、リウマチ用のバリシチニブをコロナ治療薬とすることを承認。国内では3例目

4月21日
●シルク・ドゥ・ソレイユ、1年以上中止していた公演のうち4公演の再開を発表

4月22日
●東京・大阪・京都・兵庫の4都府県に緊急事態宣言発出の方針。大型商業施設等、酒類やカラオケを提供する飲食店への休業要請、それ以外の店には午後8時までの時短継続を要請。イベントやスポーツ競技場、劇場は無観客とする方向で調整

4月23日
●小池都知事、午後8時以降は街灯を除いて店頭などの照明を消すよう要請。都独自の取り組みとして、床面積にかかわらず、映画館や劇場等に休業要請

4月23日
●東京・大阪・京都・兵庫の4都府県に3度目の緊急事態宣言発出を決定。期間は4月25日～5月11日

4月23日
●吉本興業、緊急事態宣言で該当地域の9劇場1拠点の公演を中止、延期、無観客配信に変更

4月23日
○早稲田大学演劇博物館の岡室美奈子館長と児玉竜一副館長、日本記者クラブで「コロナ危機下の舞台芸術」について現状報告

4月24日
●都内各施設（博物館・美術館・図書館等）が軒並み臨時休館。劇場・映画館・コンサートホール等にも休業要請（無観客は除く）

4月24日
○日本芸術文化振興会、4月25日～5月11日の国立劇場、国立演芸場、国立能楽堂、国立文楽劇場での主催公演の中止を発表

4月24日
○国立文楽劇場の千穐楽繰り上げにともない、人形浄瑠璃文楽の人形遣いで人間国宝の吉田簑助が現役最後の公演を務め、引退

4月24日
●新国立劇場、4月25日～5月11日に上演されるオペラ『ルチア』、演劇『斬られの仙太』『東京ゴッドファーザーズ』、バレエ『コッペリア』の中止を発表

4月24日
●松竹、4月25日～5月11日に上演される歌舞伎座「四月大歌舞伎」、「五月大歌舞伎」、新橋演舞場『滝沢歌舞伎 ZERO 2021』、シアターコクーン『夏祭浪花鑑』、日生劇場『ゴヤ―GOYA―』などの

4月24日
●松竹直営劇場および松竹製作作品の中止を発表

4月24日
●東宝、4月25日～27日の周知期間を設けたうえで、28日～11日の帝国劇場『モーツァルト!』、シアタークリエ『ジャニーズ銀座 2021 TOKYO EXPERIENCE』、日生劇場『ブロードウェイと銃弾』の中止を発表

4月24日
○宝塚歌劇団、4月26日～5月11日の公演中止を決定。25日は混乱を来すことから上演

4月24日
●劇団四季、4月28日～5月11日の東京・大阪・京都での各公演の中止を発表

4月24日
●ホリプロ、ミュージカル『スリル・ミー』（東京芸術劇場）の公演中止（4月25日～5月2日）を発表

4月24日
●丸美屋食品ミュージカル『アニー』（新国立劇場）の公演中止（4月25日～5月10日）を発表。24日の初日2公演のみ上演

4月24日
●梅田芸術劇場、4月25日～27日の周知期間を設けた上で『エリザベート TAKARAZUKA 25周年スペシャル・ガラ・コンサート』（シアターオーブ）公演を中止（4月28日～5月5日）と発表

4月24日
●千葉県の幕張メッセで、ニコニコネット超会議2021超歌舞伎『御伽草紙繼姿絵』を予定通り有観客で開催（～25日）。ニコニコ生放送でも配信

4月24日
●都内の4軒の寄席、感染対策を維持しつつ25日以降も興行を行うと発表。都の無観客開催の要請文に「社会生活の維持に必要なものを除く」とあることから、寄席は「必要なもの」と判断したとの見解示す

4月24日
○TOHOシネマズ・イオンシネマ・109シネマズ、東京と近畿4都府県での劇場の営業休止を発表

4月24日
●国立国会図書館、東京本館・関西館・国際子ども図書館ともに4月25日以降も来館サービスを継続と発表

4月24日
●プロ野球、緊急事態宣言対象地域は4月27日から無観客で試合を開催と発表

4月24日
●三度目となる緊急事態宣言発出

4月25日
○ハイパープロジェクション演劇「ハイキュー!!」シリーズ最終公演となる演劇『ハイキュー!! 頂の景色・2』東京凱旋公演（4月29日～5月9日、TOKYO DOME CITY HALL）の公演中止発表。5月9日に大千穐楽の無観客公演の生配信を検討

4月25日
●兵庫県豊岡市長選挙で関貫久仁郎氏が当選。「演劇のまちづくり」を掲げる現市政に異議を唱え、子育て支援に重点を置いた公約で臨んだ

4月25日
●日本料理人の神田川俊郎、新型コロナウイルス感染のため死去。81歳

4月26日
●WHO、インドの変異株流行に警鐘。インドでは死者数28812人、新規感染者数35万2991人といずれも過去最多に。厚生労働省は、日本国内でもこれまでに21件の感染が確認されたと発表

4月26日
●国内の死者数が1万人をこえる

4月26日
●パルコ、『月とシネマ―The Film on the Moon Cinema―』（PARCO劇場）の全公演中止、『モダンボーイズ』（COOL JAPAN PARK OSAKA WWホール、4月28日～30日）、『ららら♪クラシックコンサートVol. 10』（東京文化会館 大ホール、5月4日・5日）の中止を発表

4月26日
●国立文楽劇場、4月文楽公演の動画をStreaming+で有料配信

4月26日
●日本相撲協会、5月9日から両国国技館で開催予定の夏場所について、3日間、無観客での開催を発表

4月27日
●政府、東京都にワクチンの大規模接種センター設置を発表（大手町合同庁舎3号館）。5月24日に開設し、約3か月間運営する方針。埼玉・千葉・東京・神奈川の高齢者を主な対象

4月27日
●加藤勝信官房長官、寄席の興行について「文化芸術、スポーツの一般イベントは開催延期やオンラ

4月27日○ イン配信を求めている。さまざまな支援策も活用しながら、イベントの無観客化に理解と協力をお願いしていきたい」

新国立劇場バレエ団『コッペリア』無観客公演の様子が、5月2日～8日に新国立劇場の公式YouTubeチャンネルで無料ライブ配信されると発表

4月28日● 三重・岐阜の2県が政府にまん延防止等重点措置の適用を要請

4月28日● 大阪府の新規感染者が過去最多となる1260人。東京都でも2度目の宣言解除後で最多の925人の感染が確認。東京では327人が感染力の強い「N501Y」変異株に感染

4月28日● 小池都知事、キャンプやバーベキュー等の屋外レジャーの自粛を要請

4月28日○ 松竹、藤山直美主演の大阪松竹座公演『おあきと春団治～お姉ちゃんにまかしとき～』（5月21日～6月6日）の公演中止を発表

4月28日○ 東京都、落語芸術協会と落語協会に休業を要請。両協会が東京寄席組合と協議の上、都内4軒の寄席は5月1日～11日の休業を決定。協力金は受けとらないと表明

4月29日● 東京の新規感染者が1027人に。1月28日以来の1000人超。大阪では1171人感染で、死者は最多の44人

4月29日○ 松竹、歌舞伎オンデマンドでシネマ歌舞伎を月1回定期配信すると発表

4月30日● 世界全体の感染者が1億5000万人をこえる

4月30日○ ジャニーズ事務所、Snow Man主演の『滝沢歌舞伎 ZERO 2021』を5月9日午後5時から新橋演舞場で無観客公演の生配信することを発表

5月1日● インドで新規感染者が40万人超

5月1日● 大阪府の新規感染者が1262人で過去最多。死者は41人

5月1日● 福岡県、まん延防止等重点措置の適用を政府に要請

5月1日● 松竹、歌舞伎オンデマンドで歌舞伎座「四月大歌舞伎」の配信を開始

5月2日● 国内の感染者が60万人をこえる

5月2日● 西村経済再生相、緊急事態宣言解除の可否判断は時期尚早と見解示す。屋外でマスクをつけていても感染と警戒呼びかけ

5月2日● NHKスペシャル「新型コロナ 第4波 変異ウイルスの脅威」に出演した、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長が、変異株について「三密」の要因がそろわなくても感染の恐れがあると警鐘

5月3日○ 上野・鈴本演芸場と浅草演芸ホールがYouTubeチャンネルでの無料生配信を発表。鈴本演芸場は3日、浅草演芸ホールは5日に実施

5月4日● 政府、東京・大阪・兵庫・京都への緊急事態宣言を期限延長する方向で調整と発表

5月4日● 徳島県、まん延防止等重点措置の適用を国に要請

5月5日● 全国の1日あたりの4日時点の重症者が過去最多の1114人

5月5日● 札幌で2020年東京オリンピックのマラソンテストイベントとして「北海道・札幌マラソンフェスティバル」開催

5月5日● 北海道、札幌市を対象にまん延防止等重点措置の適用を国に要請

5月5日● 日本音楽事業者協会・日本音楽制作者連盟・コンサートプロモーターズ協会・日本音楽出版社協会が「緊急事態宣言の延長に際しての声明文」を発表。「無観客要請」の撤廃を申し入れ

5月5日● ニューヨーク州のクオモ知事、ブロードウェイの公演を9月14日に全面再開すると発表

5月5日● アメリカのワシントンポスト、日本政府に対し、オリンピック・パラリンピックの中止決断を促すコラムを掲載。日本に開催を強要しているとしてIOCの姿勢を糾弾、バッハ会長を批判

5月5日○ 元日本弁護士連合会会長の宇都宮健児、オンライン上でオリンピック中止を要求する署名を開始（7日午前には約19万3000人が署名）

5月6日● 大阪府、緊急事態宣言延長の要請を正式決定

5月6日● 政府、インドからの入国者に対する水際対策強化の検討に。指定宿泊施設での隔離を6日間に延長

5月6日○ 緊急事態舞台芸術ネットワーク、声明「緊急事態宣言 期間延長に際して」を発表

5月6日○ 全国興行生活衛生同業組合連合会（全興連）、「緊急事態宣言の延長に伴う映画館・演芸場への休業要請に対して」を発表。感染ゼロの実績無視と人流増加を指摘する声明を発表

5月6日● #WeNeedCulture、首相官邸前で「サイレントスタンディング」を実施

5月6日○ 新歌舞伎座、5月に予定されていた全公演の中止を発表

5月6日● 任天堂の「どうぶつの森」、アメリカのストロングミュージアムの「世界のビデオゲームの殿堂」に

5月7日○ 政府、緊急事態宣言の期限を5月末まで延長し、新たに愛知、福岡も加えて対象を6都府県に拡大と発表。商業施設への休業要請、イベントの無観客要請を緩和の方針

5月7日○ 東京都、大規模商業施設への休業要請継続。劇場・演芸場・イベント開催等は人数上限5000人かつ収容率50％、営業時間短縮（～午後9時）に。一方、映画館や美術館は休業要請維持。線引きに疑問の声

5月7日● IOCバッハ会長の来日（17日予定）見送りが濃厚に

5月8日● 全国の新規感染者7246人に。東京1121人、大阪1021人。北海道・愛知・福岡など14道県で過去最多を更新

5月8日○ 松竹、歌舞伎座「五月大歌舞伎」、コクーン歌舞伎『夏祭浪花鑑』（シアターコクーン）の5月12日からの再開を発表。南座の「舟木一夫シアターコンサート 2021 in 南座」と「南座 書家の舞台体験ツアー」は全日程中止

5月8日○ 新国立劇場、演劇『東京ゴッドファーザーズ』（12～30日）、オペラ『ドン・カルロ』（20～29日）の開催を発表

5月8日○ 東宝、帝国劇場『レ・ミゼラブル』（21～30日）、日生劇場『ブロードウェイと銃弾』（12～30日）について、すでに入場券を持っている観客に限り実施と発表

5月8日○ 宝塚歌劇、12日以降順次、公演再開と発表

5月8日○ 都内の寄席4軒、5月12日から営業再開と発表

5月8日○ 明治座『魔界転生』12日～16日の8公演の休演を発表

5月8日○ ブロードウェイミュージカル『The PROM』（大阪・フェスティバルホール）の大阪全公演中止を発表

5月8日○ パルコステージ『月とシネマ』（COOL JAPAN PARK OSAKA WWホール）大阪公演中止

5月8日○ 上方落語の定席・天満天神繁昌亭、休館期間を31日まで延長

5月8日○ ロームシアター京都、休館期間を31日まで延長

5月9日○ 日本芸術文化振興会、国立劇場小劇場、国立演芸場、国立能楽堂の12日以降の主催公演再開を発表

5月9日○ 松竹、新橋演舞場『滝沢歌舞伎 ZERO 2021』を12日から再開と発表

5月9日○ 劇団四季、大阪以外の公演を12日から再開と発表。大阪四季劇場『リトルマーメイド』は30日まで中止

5月9日○ AKB48、秋葉原のAKB48劇場の劇場公演を12日から再開と発表

5月10日○ 全国の重症者が過去最多の1177人。11日連続で1000人をこえる

5月10日○ 東京国立近代美術館・国立新美術館・国立映画アーカイブ・東京国立博物館・国立科学博物館、12日から再開予定と発表。東京都は休館措置を続けるよう文化庁に要請。緩和方針について政府と都の間で食い違い

5月10日○ 吉本興業、なんばグランド花月、よしもと祇園花月、よしもと漫才劇場、森ノ宮吉本漫才劇場の公演を中止または無観客での有料オンライン配信に変更と発表

5月10日○ TOHOシネマズ、東京・大阪で31日まで休業延長、京都・兵庫は一部再開を発表

5月11日○ 国立の美術館・博物館、東京都の要請を受けて休業継続を発表

5月11日○ 都倉俊一文化庁長官、「文化芸術活動に関わるすべての皆様へ」と題したメッセージを文化庁公式サイトに公開。感染拡大のリスク抑制と文化芸術活動の継続は不可能ではないと訴え、支援に全力を尽くすと表明

5月11日○ 全国興行生活衛生同業組合連合会、東京都の映画館・プラネタリウムへの休業要請に対し、声明文「映画を愛する皆様へ」を発表

5月11日○ 宝島社、日本経済新聞・朝日新聞・読売新聞の朝刊に、戦時中に戦闘訓練を行う子どもたちの写真を背景に「ワクチンもない。クスリもない。タケヤリで戦えというのか。このままじゃ、政治に殺される」という見開き2ページの企業広告掲載

5月12日●緊急事態宣言、東京・京都・大阪・兵庫の4都府県で31日までの延長期間に。愛知・福岡も追加
5月12日●政府、インド・ネパール・パキスタンからの入国者について、日本人の帰国者除き入国を原則拒否へ
5月13日○北海道、過去最多の712人感染。緊急事態宣言要請へ
5月13日○Bunkamuraル・シネマ、14日から営業再開
5月14日●政府、北海道・岡山・広島に緊急事態宣言発出（5月16日～31日）、群馬・石川・熊本にまん延防止等重点措置適用（16日～6月13日）を決定
5月14日○宇都宮健児、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催中止を求めるインターネット署名活動をふまえた要望書をIOC・IPC（国際パラリンピック委員会）・東京都に提出。署名は35万筆をこえた
5月15日●厚生労働省研究班、感染者の20歳未満の子供の半数近くが無症状、9割は治療することなく回復。7割が家庭内感染、その半数が父親経由
5月15日○宝塚大劇場、公演を再開
5月16日○開幕まで100日となった東京パラリンピックの式典に市川海老蔵が出演、『三番叟』を踊った
5月17日●東京と大阪に設置されるワクチンの大規模接種センターの予約開始。東京23区と大阪市内に住む65歳以上の高齢者対象
5月17日●沖縄県、緊急事態宣言追加を国へ要請検討
5月17日○福岡県飯塚市の嘉穂劇場、正式に解散。休館後、公設劇場として再出発の予定
5月18日○WHO、新型コロナウイルスの空気感染の可能性を認める
5月18日○国立劇場、「五月文楽公演」で出演者に陽性確認、複数の濃厚接触者が指定され、26日の千穐楽までの全公演を中止と発表
5月18日○落語協会・落語芸術協会、共同でクラウドファンディングを開始
5月19日○本多劇場グループ、松竹芸能新宿角座の運営を継承、8月に新宿シアタートップス（2009年閉館）としてリニューアルオープンを発表
5月19日○日本芸術文化振興会、緊急事態宣言の延長と大阪府の要請をふまえ、当面の間、国立文楽劇場の主催公演を中止と発表
5月19日●日本音楽著作権協会（JASRAC）、著作権使用料の徴収額が前年度から約50億円減少して約1126億円、分配額は約1206億円で過去最高を更新と発表
5月20日●厚生労働所の専門部会、アメリカのモデルナとイギリスのアストラゼネカ製のワクチンの承認を了承。21日に正式承認される見通し。ファイザー製を含めて計3製品が使用可能に
5月20日○超党派の議員連盟「落語を楽しみ、学ぶ国会議員の会」、衆議院会館で役員会を開催。落語協会の柳亭市馬会長、上方落語協会の桂米團治副会長が出席し、落語芸術協会を含む3団体連盟の財政支援の要望書を提出
5月20日○渋谷のミニシアター「アップリンク」閉館
5月21日○政府、緊急事態宣言の延長を視野に対応を協議する見通し。期間は最大で6月20日までという案も
5月21日○政府、緊急事態宣言対象地域に沖縄県の追加を決定。期間は23日～6月20日
5月21日○IOCのジョン・コーツ調整委員長、東京で緊急事態宣言が発令されていても、7月23日から開催予定の2020年東京オリンピックは実施すると発言
5月21日○落語協会、五街道雲助の感染確認と発表。5月13日に1回目のワクチン後の感染
5月23日○政府、沖縄県を除く9都道府県について、緊急事態宣言の延長方針で調整に
5月23日●プロ野球巨人の山口寿一オーナー、東京ドームをワクチンの一般接種会場として自治体に無償提供と菅首相に説明。6月末～7月初旬から予約、8月から実施予定
5月24日●アメリカ国務省、日本への渡航警戒を最も厳しいレベル4「渡航中止・退避勧告」に引き上げ
5月24日○日本映画製作者連盟、「映画館」再開の要望について」と題した声明文を発表
5月25日○政府、緊急事態宣言の延長について、28日にも正式決定する方向で検討に
5月25日○大阪府、緊急事態宣言の再延長要請を決定
5月26日●大阪・京都・兵庫の3府県、共同で緊急事態宣言の再延長を政府に要請。大阪は大型商業施設の休業要請を土日に限定し、平日は時短営業を認める緩和の方針。酒類を提供する飲食店は引き続き休業要請。3府県で足並みそろえる
5月26日●小池都知事、緊急事態宣言の再延長要請の方針を決定
5月27日●政府、北海道・東京・愛知・大阪・兵庫・京都・岡山・広島・福岡の9都道府県の緊急事態宣言を6月20日まで延長する方針を固めた
5月27日●政府、埼玉・千葉・神奈川・岐阜・三重の5県のまん延防止等重点措置適用を6月20日まで延長する方針を固めた
5月28日●政府、緊急事態宣言の延長を決定
5月28日○小池都知事、緊急事態宣言再延長にともない、映画館や美術館・博物館、大型商業施設等への休業要請を時短要請に引き下げ
5月29日○日本芸術文化振興会、6月1日以降の国立劇場・国立文楽劇場の主催公演を一部中止と発表
5月30日●インドで医師約1200人が感染によって死亡したことが判明。早期のワクチン接種などが求められる
5月30日○劇団四季『アナと雪の女王』の一般発売開始。初日で23・9万枚超を売り上げ、劇団史上最高販売数を記録。これを受けて2022年1月1日～6月30日の延長公演を決定
5月31日○ベトナムで新たな変異株確認。マレーシア、感染急拡大でロックダウンへ
5月31日○日本映画製作者連盟・全国興行生活衛生同業組合連合会・Save the CINEMAなど、東京と大阪の6大型映画館への休業要請緩和について感謝を伝える声明文を発表
6月1日●2020年東京オリンピック・パラリンピック期間中に東京都がパブリックビューイング会場の設営を予定している代々木公園の工事開始。その日の午後、小池都知事は計画を中止し、ワクチン接種会場に転用すると発表
6月1日●9都道府県に発出中の緊急事態宣言、延長期間に（～6月20日）。映画館・博物館・美術館・動物園・水族館等の休業要請が一部緩和、営業再開へ。人数上限5000人かつ収容率50％、時短制限等
6月1日○大阪・なんばグランド花月（NGK）、858席のうち405席を使用して有観客公演を再開
6月3日○早稲田大学演劇博物館2021年度春季企画展「Lost in Pandemic――失われた演劇と新たな表現の地平」初日
6月4日○清元三味線の清元美治郎、新型コロナウイルスによる肺炎のため死去。76歳
6月5日○日本芸術文化振興会、芸術文化振興基金助成事業の令和4年度募集に向けた制度の見直し案を発表
6月5日○2020年4月に上演予定だった『未練の幽霊と怪物―「挫波」「敦賀」―』が、オリジナルキャスト・スタッフによりKAAT神奈川芸術劇場で開幕（～26日）
6月5日○ダンスカンパニーDAZZLE、日本初の常設イマーシブシアター「Venus of TOKYO」をお台場ヴィーナスフォートにオープン
6月8日○春まで豊岡市長を務めた中貝宗治、企業経営者や劇団俳優らとともに一般社団法人豊岡アートアクション（TAA）を設立
6月9日○松竹、大阪松竹座「七月大歌舞伎」に出演する俳優らが参加する恒例の「船乗り込み」の中止を発表
6月9日○音楽・演劇・映画・美術などの23団体で作る文化芸術推進フォーラム、文化芸術団体の約8割がコロナ禍で2020年の収入が前年比50％以上減とする調査結果を公表
6月11日●対面では2年ぶりとなるG7サミットがイギリスのコンウォールで開催（～13日）。菅首相は「東京五輪開催に支持を得た」と表明
6月14日○松竹、大阪松竹座『レビュー夏のおどり』の土日公演を中止した分、日程を変更して初日（～18日）
6月16日○日本児童・青少年演劇劇団協同組合、2020年度は全国の小学校で児童の舞台芸術鑑賞会実施率がコロナ禍で前年度の3分の1に激減との調査結果を発表
6月17日○ジャニーズ事務所およびサニーサイドアップグループ、エンターテインメント業界従事者に向けた職域接種を6月下旬から開始と発表
6月18日○上方落語の定席「天満天神繁昌亭」、出演者の陽性が判明したため臨時休館
6月18日○東京都、クラシック音楽や演劇など観衆が静かに見ることが多い「大声なし」のイベントについて開催条件の緩和を発表。定員が5000人以下の場合は定員まで入場可
6月19日○吉本興業、芸人や社員らが約2500人を対象にワクチン接種を行う方針を固める

6月19日○紀伊國屋ホール、改修後の柿落とし公演『新・熱海殺人事件』（10日～21日）で出演者の陽性が確認されたため、19日～21日の公演中止を発表

6月19日●東京都、２０２０年東京オリンピック・パラリンピックの期間中に計画していたパブリックビューイングをすべて中止と決定。一部の会場はワクチン接種の会場に転用

6月20日○信州・まつもと大歌舞伎２０２１『夏祭浪花鑑』（17日～22日）が、一公演限定でオンライン同時生配信

6月20日●２０２０年東京オリンピックの事前合宿のために来日していたアフリカのウガンダ選手1名、空港の検査で新型コロナウイルス感染が判明

6月21日●10都道府県に出されている緊急事態宣言が沖縄を除く9都道府県で解除。このうち東京や大阪など7都道府県はまん延防止等重点措置に移行。まん延防止等重点措置の適用地域では利用人数や滞在時間など自治体ごとに制限があるものの、一定の条件を満たした飲食店で酒の提供が可能に

6月22日○小池百合子都知事が過労で入院

6月22日●２０２０年東京オリンピック大会組織委員会の橋本聖子会長、オリンピック会場で観客に酒類の販売や提供を検討していることを明らかにし批判相次ぐ。翌日、一転して酒類の提供・持込も禁止

6月25日○２０２０年9月に開幕予定だった劇団四季『アナと雪の女王』が、ＪＲ東日本四季劇場［春］にて開幕

6月25日●厚生労働省、ワクチン接種後、発熱などが出た場合に服用できる解熱鎮痛剤の成分を初めて示し全国のドラッグストアで品薄に

6月26日○２０２０年に新型コロナウイルスによる肺炎で亡くなった志村けんの銅像が、全国のファンから寄せられた寄付金をもとに完成。出身地の東京都東村山市で除幕式開催

6月27日○豊岡市出石町の芝居小屋「出石永楽館」、片岡愛之助が座頭を務める『第13回永楽館歌舞伎』の中止を発表

6月29日○文化庁、劇団員関係者や国立の文化施設の職員に対し、国立劇場と国立新美術館を会場に7月5日から順次、集団接種を始めると発表

6月29日○アメリカのラスベガス、ショーの客席数の規制が解除され「シルク・ドゥ・ソレイユ」が約1年3か月ぶりに公演を再開

7月1日○落語協会・落語芸術協会、東京都内の寄席を存続させるためにクラウドファンディングを立ち上げ、1億円余りの支援金集まる

7月2日○過労のため入院していた小池都知事、10日ぶりに登庁

7月2日●東京都、新たに６６０人の感染が確認され、専門家は「1都3県で第5波の入り口」と指摘

7月4日○市川海老蔵、２０１９年7月以来、2年ぶりの歌舞伎座出演となる「七月大歌舞伎」第三部で『雷神不動北山櫻』を上演（～16日）

7月5日○例年1月に開催される浅草公会堂「新春浅草歌舞伎」、２０２２年1月公演中止を発表

7月6日○例年の5月から7月に時期をずらし「第74回カンヌ国際映画祭」が2年ぶりに開幕（～17日）

7月7日○ロッキング・オン・ジャパン、地元医師会の要請を受け、8月7日～9日、14日・15日に茨城県国営ひたち海浜公園で開催予定だった音楽フェス「ROCK IN JAPAN FESTIVAL 2021」の中止を発表

7月8日○西村康稔経済再生担当大臣、酒類の提供停止に応じない飲食店に対し、取引金融機関から順守を働きかける方針を示す（翌日に撤回）

7月8日●4回目の緊急事態宣言発出（12日～）を受け、２０２０年東京オリンピックは東京・神奈川・埼玉・千葉の1都3県すべての会場で無観客開催が決定。9日に北海道、10日に福島県も無観客となる

7月8日●新型コロナウイルスの死者数、世界全体で４００万人超

7月11日○松竹、歌舞伎座「七月大歌舞伎」第二部『御存鈴ヶ森』に出演中の片岡亀蔵が、新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者と認定されたため配役変更を発表

7月12日○２０２０年4月公演が延期になった『反応工程』、全キャスト・スタッフが再集結し新国立劇場で開幕（～25日）

7月12日●東京都、3回目の緊急事態宣言解除後わずか3週間で4回目の宣言期間に入り、沖縄県でも延長。埼玉・千葉・神奈川・大阪の4府県ではまん延防止等重点措置が延長され、期間はいずれも8月22日まで。北海道・愛知・京都・兵庫・福岡の5道府県は11日で解除

7月13日○新国立劇場、海外招聘公演『ガラスの動物園』を水際対策による日本への入国制限等で公演中止し、２０２２年秋への延期を検討と発表

7月14日●東京都、新たに１１４９人の感染発表。第4波のピークだった5月8日の１１２１人を上回る

7月16日○新国立劇場、新型コロナウイルス感染拡大防止のための公演中止などによる収入減が２０２０年度は約6億円と発表。運営財団によると、主催公演のうちオペラは5演目31公演、演劇は5演目51公演で中止に

7月17日○濱口竜介監督の最新作、村上春樹の短編を映画化した「ドライブ・マイ・カー」が第74回カンヌ国際映画祭の脚本賞受賞

7月18日●新型コロナウイルスの影響で厳しい経営となっている「三鷹の森ジブリ美術館」、クラウドファンディングで寄付を募り、開始から1日で目標額の1千万円を達成

7月19日○ＩＨＩステージアラウンド東京で公演を予定していたSanrio Kawaiiミュージカル『From Hello Kitty』、緊急事態宣言期間中に当たる前期公演（26日～8月22日）の中止を発表

7月19日○文化芸術分野への支援を求める団体「We Need Culture」、4回目の緊急事態宣言発出に対し、持続化給付金の再支給などを求める声明を発表

7月19日●新型コロナウイルスの治療薬として、中外製薬の「抗体カクテル療法」の国内での製造販売が承認

7月19日●ミュージシャンの小山田圭吾、２０２０年東京オリンピック開会式の作曲担当を辞任

7月19日●２０２０年東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラム「東京２０２０　ＮＩＰＰＯＮフェスティバル」に参加していた絵本作家のぶみ、イベントへの出場を辞退

7月20日●２０２０年東京オリンピック・パラリンピック開閉会式のショーディレクターを務める小林賢太郎が解任

7月23日●1年の延期を経て第32回夏季オリンピック東京大会開幕。中村勘九郎が都内の聖火ランナー最終走者として都庁に聖火をつなぐ。宝塚歌劇団宙組トップ真風涼帆ら現役タカラジェンヌ20人が開会式で「君が代」を斉唱し、市川海老蔵は『暫』を披露。開催都市東京は緊急事態宣言下にあり、国立競技場での開会式は近代五輪史上、初めて無観客で行われた

7月23日○２０２０年に新型コロナウイルスのため全日程中止となったミュージカル『ミス・サイゴン』、キャストが再集結し、２０２２年7月・8月に帝国劇場での上演が決定

7月23日●彩の国さいたま芸術劇場、55歳以上の演劇集団「さいたまゴールド・シアター」と若手育成のための劇団「さいたまネクスト・シアター」を２０２１年中に解散すると発表。ゴールド・シアターはメンバーの高齢化に加え、新型コロナウイルスの影響で継続的な活動が困難に

7月24日○能楽協会、能楽師が所属する各団体にコロナ禍で実現できなかった公演を募り『日本全国 能楽キャラバン！』と銘打った公演を全国で実施。期間は２０２２年1月30日まで

7月26日●新型コロナウイルスのワクチン接種を証明する「ワクチンパスポート」の申請受付が全国の市区町村で開始

7月27日○２０２０年東京オリンピック・パラリンピック期間中、国立劇場で「東京２０２０ オリンピック・パラリンピック能楽祭～喜びを明日へ～」が開催

7月29日●東京都で３８６５人、国内で1万６９９人の感染発表。国内の1日の発表としては初の1万人超えとなり、ともに過去最多を更新

7月30日○ブロードウェイにある41の劇場を代表する業界団体ブロードウェイ・リーグ、興行の再開に際し、観客には入場前にワクチン接種証明掲示を求め、劇場にいる間のマスク着用を必須とする方針を発表

7月30日●Bunkamura・シアターコクーン、COCOON PRODUCTION 2021『物語なき、この世界。』で公演関係者が新型コロナウイルスに感染したため、31日・8月1日の公演中止を発表

7月31日○東京都、新規感染者は４０５８人となり、初めて４０００人を超え過去最多に。自宅療養者は初めて1万人を超える

7月31日●大阪・兵庫・京都の3府県、新型コロナウイルスの対策本部会議を開き、観客が大声をあげない演劇などは、兵庫県と京都府は５０００人以下であれば収容率１００％を認め、大阪府は上限を50％へ

8月2日●

8月2日 緊急事態宣言の対象地域は、東京と沖縄に埼玉・千葉・神奈川・大阪が加わり6都府県に拡大され、北海道・石川・兵庫・京都・福岡の5道府県にはまん延防止等重点措置が適用。期間はいずれも31日まで

8月5日 早稲田大学演劇博物館春季企画展「Lost in Pandemic ―― 失われた演劇と新たな表現の地平J（～6日）関連プログラムのオンラインシンポジウム「コロナ時代の都市文化と演劇」開催

8月5日 東京都で5042人、全国で1万5263人の感染発表。どちらも1日の発表としては過去最多

8月5日 新型コロナウイルスの感染者数、世界全体で2億人超

8月8日 SPAC（静岡県舞台芸術センター）、まん延防止等重点措置に伴う静岡県の方針を踏まえ、21日・22日のSPACシアタースクール2021 発表会『星の王子さま』『スパカンファン・プラス2021ワーク・イン・プログレス発表会』の中止を発表

8月8日 まん延防止等重点措置の適用地域に、福島・茨城・栃木・群馬・静岡・愛知・滋賀・熊本の8県が追加され、重点措置の適用地域は13の道府県に拡大

8月8日 2020年東京オリンピック閉幕。17日間で33競技339種目が開かれ、207の国・地域の選手約1万1300人が参加。日本のメダルは過去最高の計58個

8月10日 台風の影響で順延し、第103回全国高等学校野球選手権大会、夏の甲子園が2年ぶりに開幕。開会式で山崎育三郎が「栄光は君に輝く」をアカペラで独唱

8月11日 Bunkamuraル・シネマが手掛けるオンライン映画館「APARTMENT by Bunkamura LE CINEMA」がオープン

8月11日 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会が7月1日から発表している大会関連の感染者の累計が500人を超える

8月12日 感染症対策分科会が緊急提言を発表。映画館、公園、図書館や美術館と並んで「観客が声を出さないコンサートや演劇」は、感染リスクを比較的低くできると明言

8月13日 全国で2万365人の感染が発表され、初めて2万人超。重症者は1478人となりどちらも過去最多を更新

8月13日 菅首相、患者への酸素投与が必要となった場合に利用できる「酸素ステーション」や「抗体カクテル療法」として新たに承認された治療薬の投与を集中的に行える拠点を近く整備する考えを示す

8月13日 世界のトップダンサーが集結する3年に1度のバレエの祭典「第16回世界バレエフェスティバル」（～22日）、コロナ禍の諸事情で降板や交代が相次ぐなか無事開幕

8月16日 東京都台東区、家庭ゴミの収集を行う複数の職員16人が新型コロナウイルスに感染し、月末まで区内全域で不燃ゴミの収集を取りやめ

8月17日 10月・11月に東京と京都で開催予定だったフランスの太陽劇団による来日公演『金夢島 LILE DOR KANEMU-JIMA（仮題）』の延期が発表

8月17日 兵庫県緊急事態宣言発令により、豊岡演劇祭2021」（9月9日～20日）が中止を発表

8月18日 東京都、若者世代にワクチン接種を浸透させるため、事前予約なしで接種可能な若者専用の会場を8月中に渋谷駅近くに設置へ

8月18日 2020年に新型コロナウイルスで延期した東京芸術劇場『カノン』、関係者の陽性が確認されたため初日を9月1日に延期

8月19日 俳優の千葉真一、新型コロナウイルスによる肺炎のため死去。82歳

8月19日 緊急事態宣言の対象地域に茨城・栃木・群馬・静岡・京都・兵庫・福岡の7府県が追加され、まん延防止等重点措置が新たに宮城・山梨・富山・岐阜・三重・岡山・広島・香川・愛媛・鹿児島の10県に適用。期間はいずれも9月12日まで

8月20日 22日に開催予定の『ART 歌舞伎 MUSIC LIVE in Kurashiki』、有観客公演を中止し無観客配信公演に

8月20日 国内最大級のロックの祭典「フジロックフェスティバル」、2年ぶりに新潟県湯沢町で開幕。主催者側は感染対策を徹底するとしている一方、地元からは感染拡大に不安の声も

8月20日 『古川雄大 The Greatest Concert vol. 1 ―collection of musicals―』、東京・大阪の10公演すべての中止を発表

8月21日 東宝、ミュージカル『レ・ミゼラブル』の博多座公演（4日～28日）で関係者の5人の陽性が確認されたため、千穐楽までの全公演中止を発表。大阪公演も全日程中止に

8月22日 記念能楽堂で開催。能楽界のバリアフリー化が進む

8月22日 明治座のブロードウェイミュージカル『エニシング・ゴーズ』（1日～29日）、関係者に23人の陽性が確認されたため、千穐楽までの全公演中止を発表。巡回予定の新歌舞伎座、御園座、博多座の公演全日程も中止に

8月23日 NHKラジオドラマ よみステージ 音楽劇『プンとフン』（25日～9月12日）、関係者に数名の陽性が確認されたため、東京・大阪の全公演中止を発表

8月23日 新宿シアタートップス柿落とし公演『演劇の街をつくった男』（25日～29日）、出演者に陽性が確認されたため全公演中止を発表

8月23日 2、020年東京パラリンピック開幕。感染対策で全21会場が原則無観客となり、自治体や学校が希望する場合は「学校連携観戦プログラム」を実施

8月24日 長野県で毎夏開催される音楽祭「セイジ・オザワ松本フェスティバル」（28日～9月5日）、予定されていたすべての有料公演の中止を決定

8月24日 自宅療養者、全国で11万8035人と初めて10万人超

8月25日 政府分科会の尾身茂会長、国際オリンピック委員会（IOC）のトーマス・バッハ会長再来日を批判。ツイッターのトレンド1位に「尾身さん」

8月25日 国立劇場おきなわ、特措法に基づく緊急事態措置に係る沖縄県対処方針をふまえ土日休館を発表

8月26日 モデルナの新型コロナウイルスワクチンの一部に異物が混入しているのが相次いで見つかり、同じ工程で製造されたワクチン160万回分の使用を見合わせ

8月26日 明治座『酔いどれ天使』（9月3日～20日）で関係者に陽性が確認されたため、9月3日・4日の公演を中止し初日を5日に延期と発表

8月27日 緊急事態宣言の対象地域に、北海道・宮城・岐阜・愛知・三重・滋賀・岡山・広島の8道県を追加するほか、まん延防止等重点措置を、高知・佐賀・長崎・宮崎の4県に新たに適用。期間は、これまで対象となっている地域と同じく9月12日まで。宣言の対象地域は21都道府県、重点措置の適用地域は12県に

8月27日 東京都、若い世代を対象に渋谷に設けたワクチン接種会場に想定を大幅に超える人が訪れ、開始時間を待たずに受付終了。都には1万件を超える苦情が寄せられ、28日以降は抽選に

8月27日 自衛隊中央病院、モデルナのワクチンを接種したあと、腕が赤くなったりかゆみが出たりする「モデルナ・アーム」と呼ばれる症状について、18人に1人、このうち女性が83％という調査結果を発表

8月28日 愛知国際展示場（AICHI SKY EXPO）で開催された野外フェス「波物語 NAMIMONOGATARI 2021」、会場の。超密。ぶりの動画や画像がインターネットで出回り、非難の声が殺到

8月29日 落語家の三遊亭多歌介が新型コロナウイルス感染症のため死去。54歳

8月29日 京都府立文化芸術会館のTeam中 第5回本公演『君子無朋くんしにともなし～中国史上最も孤独な「暴君」雍正帝』（17日～29日）、出演者の陽性が判明し千穐楽公演が中止

8月29日 ニューヨーク、ブロードウェイ・リーグが9月の劇場再開を前にブロードウェイの歴史と舞台への復帰を祝うフィルム「This is Broadway」を公開

8月30日 9月18日・19日に開催予定の音楽フェス「SUPERSONIC 2021」大阪公演の中止が発表。東京公演はアリーナにも席を配置し全席自由で開催

8月30日 松竹、歌舞伎座「九月大歌舞伎」第二部『近江源氏先陣館 盛綱陣屋』で関係者5人の陽性が判明し、第二部は初日の9月2日～6日まで公演中止を発表

8月31日 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会組織委員会、閉幕したオリンピックの撤収作業の際、9つの競技会場で新型コロナウイルス対策として用意したマスクや医療用のガウンなど合わせて約500万円分を誤って廃棄

8月31日 2020年に多くの映画祭が中止・延期するなか例年通り開催した「第78回ベネチア国際映画祭」開幕（～11日）。前年の基準を踏襲した上でPCR検査の陰性証明などさらに厳しい規則を設けて開催

9月1日 ○ 東京都豊島区で「東京芸術祭２０２１」開幕（～11月30日）。２０２０年に引き続きオンサイト（実地）とオンライン（配信）の二軸で開催

9月1日 ○ 前進座、クラウドファンディング「「進め若く 新たに」創立１００周年を目指す前進座へご支援を」始動

9月1日 ○ 「第33回池袋演劇祭」開幕（～30日）。後、9日に決定した緊急事態宣言の延長により、参加団体の公演中止が相次ぐ

9月1日 ○ 歌舞伎座「九月大歌舞伎」が初日を迎え、片岡仁左衛門と坂東玉三郎による『東海道四谷怪談』が38年ぶりに上演。また中村福助が1年8か月ぶりに『お江戸みやげ』に出演

9月2日 ○ ニューヨークのブロードウェイ、14日の大々的な再開幕に先行して『ヘイディズタウン』『ウェイトレス』が開幕

9月2日 ○ 日暮里の小劇場「ｄ倉庫」が２０２１年12月末に閉館と発表

9月2日 ○ 8月27日に開幕予定だった演劇祭「ＳＣＯＴサマーシーズン２０２１」、日程を10日間から3日間に短縮し、南砺市の県利賀芸術公園で開催

9月3日 ● 菅首相、自民党総裁選に立候補しないことを表明。総裁任期満了に伴い首相退任へ

9月3日 ● 感染対策不十分で開催された愛知県の音楽フェスに対し、「これまでの苦労を台なしにする暴挙で、主催者に厳重に抗議する」と音楽業界の4団体が共同声明を発表

9月3日 ● 自宅療養者、全国で13万５６７４人となり過去最多に

9月6日 ● 東京都の新規感染者数は９６８人で、およそ50日ぶりに１０００人を下回る

9月6日 ○ 堂本光一、井上芳雄らが出演するミュージカル『ナイツ・テイルー騎士物語ー』の梅田芸術劇場公演（7日～30日）で関係者3人の陽性が確認され、7日～12日の公演中止を発表

9月6日 ○ 帝国劇場、Sexy Zone菊池風磨主演『DREAM BOYS』が開幕（～29日）。ジャニーズ事務所のタレントが主演する舞台で9月中に初日を迎えた舞台は12本に達し、通常月の約3倍の公演数に

9月6日 ● 全国で８２３４人の感染発表。1日の発表が1万人を下回るのは先月2日以来

9月8日 ○ 経済産業省、愛知県で開かれた野外音楽フェスで、主催者が感染防止対策の制約を守っていなかったとして補助金交付取り消しを発表

9月9日 ○ コロナ後の社会をテーマに「鳥の演劇祭14」が鳥取市鹿野町鹿野の鳥の劇場で開幕（～26日）。来場者は山陰両県、兵庫県香美、新温泉の両町の在住者に限定

9月12日 ○ 松竹、新型コロナウイルスの影響などで来日して歌舞伎を見ることができない海外の人たちに向け「九月南座超歌舞伎」の映像を海外11か国に向けオンライン配信へ

9月13日 ● 東京や大阪など19の都道府県に出されている緊急事態宣言は延長の期間に入り、30日が期限。宮城・岡山は、まん延防止等重点措置に移行

9月14日 ○ 日本美術協会、第32回高松宮殿下記念世界文化賞で、演劇・映像部門は新型コロナウイルスの影響が大きいとして初の受賞該当者なし

9月14日 ○ 兵庫県伊丹市立演劇ホール「アイホール」が存続の危機に直面。日本劇作家協会会長の渡辺えりが藤原保幸伊丹市長に直談判を行う

9月14日 ○ ニューヨークのブロードウェイが約1年半ぶりに再開。『ライオンキング』『ハミルトン』『ウィキッド』『シカゴ』といった名作が再び幕を上げた。収容率は１００％。当日のチケットは完売

9月16日 ○ ＷＯＷＯＷが制作・放送したオリジナル番組「劇場の灯を消すな－Bunkamuraシアターコクーン編 松尾スズキプレゼンツ アクリル演劇祭」が日本民間放送連盟賞番組部門で優秀賞を受賞

9月16日 ○ 緊急事態舞台芸術ネットワーク、「一般社団法人 緊急事態舞台芸術ネットワーク」を設立

9月17日 ○ ニューヨーク・フィルハーモニック、新型コロナウイルスの感染拡大で1年半中止していた公演を再開。ワクチン接種が入場条件

9月20日 ○ 開催中止を発表した「豊岡演劇祭２０２１」、「豊岡演劇祭 オープントーク～現場の視点で振り返る２０２１の取り組みと、これからのこと～」を開催

9月20日 ○ 新型コロナウイルスの影響で２０２０年春に廃業を宣言した老舗三味線メーカー「東京和楽器」が、存続を求める声に応え事業継続を発表

9月21日 ● 東京都、新たに２５３人の感染発表。1日の発表が３００人を下回るのは6月21日以来の3か月ぶり

9月22日 ● 厚生労働省、ワクチン3回目の接種対象者を2回目の接種を終えた全員とし、２０２１年12月から医療従事者への接種を始めることを想定して準備を進めるよう自治体に要請

9月22日 ○ ２０２２年春の開催を予定していた『四国こんぴら歌舞伎大芝居』、新型コロナウイルスの影響により3年連続で中止を決定

9月26日 ○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催延期となった「第74回トニー賞授賞式」が、約1年3か月のタイムラグを経て開催

9月27日 ○ 5月17日に新型コロナウイルスの影響などによる経営難を理由に営業中止していた福岡県飯塚市の国登録有形文化財「嘉穂劇場」、飯塚市に譲渡されることが決定

9月27日 ○ 新型コロナウイルスの影響により、２０２０年3月から閉鎖されていたニューヨーク・メトロポリタン歌劇場が1年半ぶりに開幕

9月29日 ○ 政府、「入場者に大声での歓声・声援等がないことを前提としうる場合、感染防止策の徹底等を前提に人と人が接触しない範囲で収容率を１００％以内とすることを認める」と発表。演劇はこれまでの収容人数50％以内の制限から実質緩和へ

9月29日 ○ ニューヨークのブロードウェイで『アラジン』の関係者に陽性が確認され、開演30分前に急遽中止。『アラジン』は28日に約1年半ぶりに公演が再開されたばかり

9月29日 ○ 前進座、映画監督の山田洋二と2回目の共作となる新作『一万石の恋～裏長屋騒動記 愛の仮名手本篇～』が国立文楽劇場で開幕（～10月6日）。コロナを思わせる「コロリ」の騒動も取り入れた作品に

9月30日 ● 東京都、最も高い感染警戒レベルから10か月ぶりに一段引き下げへ

9月30日 ● 政府、新型コロナウイルスワクチンの接種証明などを使った行動制限緩和の実証実験の概要を発表。飲食店やライブハウス、小劇場、スポーツイベントを対象に13道府県で10月から実施

10月1日 ○ 21都道府県で発令されていた緊急事態宣言、ならびに12県で適用されていたまん延防止等重点措置がすべて解除。宣言と重点措置がどの地域にも出されていない状況は4月4日以来の約半年ぶり

10月1日 ○ 作家の村上春樹が寄託・寄贈した資料を収めた早稲田大学国際文学館（通称・村上春樹ライブラリー）開館

10月1日 ○ 大阪なんばグランド花月、舞台前から2列をあけたうえで収容50％稼働から制限を解除

10月1日 ● 東京都、24日までをリバウンド防止措置期間として、一部の制限を緩和しつつも、感染再拡大防止のため大人数で外出しないことなどを引き続き要請

10月2日 ○ 水谷八重子、波乃久里子らが出演する「十月新派特別公演」が新橋演舞場で開幕（～25日）。劇団新派の本公演は２０２０年2月の『八つ墓村』以来、約1年8か月ぶり

10月2日 ○ 国立劇場、過去の公演記録映像をオンラインで有料配信する「国立劇場くろごちゃんねる」を開設

10月4日 ● 自民党の岸田文雄総裁が第１００代総理大臣に選出。岸田内閣が発足

10月4日 ● 東京都、新たに87人の感染発表。今年初めて１００人を下回る

10月6日 ○ ミュージカル『ナイツ・テイルー騎士物語ー』の東京公演が帝国劇場で初日（～11月7日）

10月7日 ● 22時41分、首都圏では10年ぶりとなる震度5強の揺れを観測

10月7日 ● 「山形国際ドキュメンタリー映画祭２０２１」が山形市で開幕（～14日）。１９８９年の初開催から17回目で初のオンライン開催

10月7日 ○ 東京都のモニタリング会議、新型コロナウイルスの医療提供体制の警戒レベルを最も高いレベルから一段引き下げる方針。2番目のレベルになるのはおよそ10か月ぶり

10月8日 ○ 劇団テアトル・エコー『DANCE WITH OZ～「オズの魔法使い」より～』が開幕（～12日）。セリフの数を抑え、身体パフォーマンスを中心にした類のない構成。上演も2時間半を75分に短縮

10月8日 ○ 長野のまつもと市民芸術館を中心に、串田和美が総合ディレクターを務める「ＦＥＳＴＡ松本２０２１」が初開催（～17日）

10月11日 ○ 早稲田大学演劇博物館 ２０２１年度秋季企画展「新派ＳＨＩＭＰＡ―アヴァンギャルド演劇の水脈」、特別展「家族の肖像－石井ふく子のホームドラマ」開催（いずれも２０２２年1月23日まで）

10月11日 ● 東京都、新規感染者数が49人と発表。今年最も少ない新規感染者数を記録。50人を下回るのは約1年4か月ぶり

10月11日 ● アメリカの製薬大手メルク、開発中の新型コロナウイルス経口治療薬「モルヌピラビル」をアメリ

10月11日 ○ カFDA（食品医薬品局）に緊急使用の許可を申請したと発表。FDAが許可すれば、飲み薬としては世界初の実用化に

10月14日 ○ 映画とお笑いアートなどの文化を複合的に融合させた映画祭「京都国際映画祭２０２１」が開幕（～17日）。オンラインとリアルの長所を合わせた「ハイブリッド映画祭」として開催

10月19日 ○ 劇場・音楽堂・博物館等の文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業（補助金）３次募集開始。感染症防止対策のガイドラインを踏まえた取組への支援を行うとともに、コロナ禍で必要とされる「新たな活動」に向けた文化施設の配信等に必要な機材等の環境整備を支援

10月19日 ○ 「ワクチン・検査パッケージ」の映画館での実証実験を東京都。池袋のロサ会館で開始。映画館での実証実験としては国内初

10月19日 ● アメリカで黒人として初めて国務長官を務めたコリン・パウエル、新型コロナウイルスの感染に伴う合併症のため死去。84歳

10月21日 ● 東京都、医療提供体制について、警戒レベルを一段引き下げ３番目のレベルに。医療提供体制が３番目のレベルになるのは、２０２０年７月以来の約１年３か月ぶり

10月21日 ○ 緊急事態舞台芸術ネットワーク、「舞台芸術公園における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン（第四版）」公開

10月22日 ○ 文化庁、新型コロナウイルスの影響下にある文化芸術団体等の支援のため、文化功労者が寄付した作品等を集めたチャリティーオークションを実施。オークションには吉永小百合、ちばてつや、萩尾望都ら27名が参加

10月22日 ○ STAGE BEYOND BORDERS オリジナル作品「伝統芸能シリーズ」の「歌舞伎ー伝統と創造」が配信開始

10月22日 ● 東京都渋谷区、31日のハロウィーン対策として渋谷駅周辺の路上で飲酒制限へ

10月24日 ● 東京都、新規感染者数が19人と発表し、今年最少を更新。20人を下回るのは、２０２０年６月17日以来の１年４か月ぶり

10月25日 ● 東京都など首都圏４都府県と大阪府、飲食店への営業時間短縮の要請を解除。２０２０年11月28日から続いていた時短要請が、約11か月ぶりに全面解除に。沖縄県は当初の予定通り11月１日に解除

10月26日 ● 秋篠宮家の長女眞子内親王と小室圭が結婚

10月27日 ● 新型コロナウイルス対策として国が全世帯や福祉施設などに配った通称「アベノマスク」を含む布マスク、国が調達した計２億９千万枚のうち３割近い約８３００万枚（約１１５億１千万円相当）が２０２１年３月末時点で配布されず倉庫に保管されていたことが判明

10月27日 ● 小池都知事、６月に続き過労で入院

10月28日 ● 東京都、新型コロナウイルスの感染状況についての警戒レベルを最も低いレベル１に引き下げ。２０２０年７月に感染状況の分析を始めて以来初

10月28日 ● 全国の新規感染者は３１２人で、10日連続で４００人を下回る。14の県で感染者ゼロ

10月29日 ● ＷＨＯ、イギリスなどヨーロッパでの感染者数の増加などを受け、世界の新型コロナウイルスの１週間の新規感染者数と死者数が２か月ぶりに増加に転じたと発表

10月29日 ○ 日本舞踊西川流の元家元で、２０２０年に81歳で亡くなった西川右近の追善公演が御園座で開催。

10月29日 ○ 新型コロナウイルスの影響で西川流の公園は２年ぶり

10月30日 ○ ジャニーズJr.が主演を務める舞台『ジャニーズ・アイランド』が２年ぶりに帝国劇場で上演されると発表（２０２２年１月１日～26日）。HiHi Jetsや美少年など総勢68人の出演者全員が座長を務める

10月31日 ○ 「第34回東京国際映画祭」（～11月８日）、アジアの新鋭監督らの作品を紹介する映画祭「第22回東京フィルメックス」（～11月７日）が同日に開幕

10月31日 ● 第49回衆議院議員総選挙の投開票が行われ、岸田首相の続投が決定

11月１日 ○ 第34回東京国際映画祭 コロナ禍における映画界の課題や展望を話し合うパネルディスカッション、ワールド・シネマ・カンファレンス「映画界の未来」を開催

11月１日 ○ イープラス、東京都渋谷区にライブ配信・映像収録に特化した高品質でリーズナブルなスタジオ「eplus STUDIO」をグランドオープン

11月１日 ○ 新型コロナウイルス対策で大規模イベントに求めている１万人の人数上限を全国で解除

11月１日 ● 東京都、新たな感染者が９人、死者が１人確認されたと発表。感染者９人は今年最小で、感染者が一桁となるのは２０２０年５月31日以来

11月１日 ● 新型コロナウイルスによる死者数、世界全体で５００万人超

11月１日 ● ２０２２年１月歌舞伎座の演目が発表され、再開された２０２０年８月より白地だった仮チラシが赤と金色の地に

11月２日 ○ 秋田県仙北市の劇団わらび座、秋田地裁に民事再生法の適用を申請し、同日付で手続きの開始決定を受けたと発表。今後は新設した「一般社団法人わらび座」に事業を承継

11月４日 ○ イギリスの医薬品規制当局、新型コロナウイルスの感染症の経口治療薬「モルヌピラビル」を世界初承認

11月４日 ● 今年の世相を反映した言葉を選ぶ「２０２１ユーキャン新語・流行語大賞」、「ビクトグラム」「自宅療養」など、東京オリンピック・パラリンピックや新型コロナウイルス禍に関連する30語の候補が公表

11月４日 ○ ブロードウェイミュージカル『キンキーブーツ』日本版が、２０２２年秋に再々演されると発表。前二作では三浦春馬が演じていた「ローラ」役に城田優

11月７日 ● 国内の新型コロナウイルス感染症による新たな死者が、約１年３か月ぶりにゼロに

11月７日 ● ＷＨＯ、ロシアや中央アジアなど旧ソ連諸国を含む欧州管内53か国で10月最終週の新規感染者数、死者数がともに世界の約５割を占め、再び感染の「震源地」になったと警戒を強める

11月８日 ○ 政府、外国人のビジネス関係者や留学生らの新規入国を容認し、ビジネスや就労目的での３か月以内の短期滞在者は入国後の待機期間を10日間から３日間に短縮するなど水際対策を大幅に緩和

11月８日 ● 緊急事態宣言発令などの対策を判断する新たな指標として、新規感染者数などに基づいた４段階の「ステージ」から、医療の逼迫度をより重視した５段階の「レベル」に変更

11月８日 ● 新型コロナウイルスの感染者、世界全体で２億５０００万人超。ヨーロッパなどで感染再拡大

11月10日 ● 岸田文雄首相が第１０１代首相に指名され、第２次岸田内閣が発足

11月15日 ● 歌舞伎座、２０２２年１月より公演形態の体制変更を発表。客席は全エリアで、間隔を空けた２席並びを原則とする配置で販売。公演は引き続き三部制とし、必要最低限の水分補給を除き場内客席内での食事は禁止

11月19日 ○ 宝塚クリエイティブアーツ、宝塚歌劇公式グッズ販売店「キャトルレーヴ東京劇場店」の営業を12月26日に終了と発表。２０２２年春には東京宝塚劇場の近隣に新店舗が開店される予定

11月19日 ○ 政府、新型コロナウイルスのワクチン接種や検査の証明で行動制限を緩和する「ワクチン・検査パッケージ」制度を正式に決定

11月19日 ○ 日本・タイ・ミャンマー・ベトナム・インドネシアのアーティストたちによるコロナ禍の演劇協働企画「テラジア 隔離の時代を旅する演劇」、ミニフェス「テラジアオンラインウィーク２０２１」をオンラインで開催（～28日）

11月19日 ○ 国土交通省、「ＧｏＴｏトラベル」の再開に向けた見直し策をまとめ、再開時期を年明け以降に予定

11月20日 ○ 兵庫県伊丹市、市立演劇ホール「アイホール」を２０２２年～２０２４年度の間は演劇ホールとして継続する方針を決定

11月20日 ○ 劇団ナイロン１００℃、２０２０年に新型コロナウイルスのため中止となった３年ぶりの新作公演『イモンドの勝負』を本多劇場で上演（～12月12日）

11月24日 ○ 新国立劇場、主催公演等の映像配信を行うプラットフォーム「新国デジタルシアター」を開設

11月24日 ○ 東京都、新たに５人の感染発表。今年の最少を更新

11月25日 ○ 文化庁、２０２１年度補正予算案に計65億円を計上し、地域の祭りを財政支援。国の重要無形民俗文化財の指定有無に関係なく行う

11月25日 ○ 東京都、医療提供体制の警戒レベルを四段階のうち最も低いレベル１に引き下げ。これにより感染状況と医療提供体制の両方が初めて最も低いレベルに

11月25日 ○ 南アフリカの保健当局、新型コロナウイルスのワクチンの効果を低下させる可能性がある新たな変異ウイルスが見つかったと発表

11月26日 ● ＷＨＯ、南アフリカで確認された新たな変異ウイルスを、デルタ株などと同じ「懸念される変異株」

11月30日 ● に指定し「オミクロン株」と名付ける
11月30日 ○ 政府、オミクロン株の感染例が日本で初めて確認されたと発表
11月30日 ● 政府、各国へのオミクロン株の感染拡大を受け、世界のすべての国や地域を対象に外国人の新規入国を原則停止
12月1日 ● 新型コロナウイルスワクチンの3回目の接種が、医療従事者104万人を対象に開始。2022年1月には、医療従事者200万人に加え65歳以上の高齢者の接種も始まる見通し
12月2日 ● オミクロン株の感染拡大で、外国人の新規入国が一時停止されたことなどを受け、大阪で9日に開催予定だったフィギュアスケートのグランプリファイナルが中止
12月2日 ● 南アフリカ、新型コロナウイルスの新規感染者数が約3か月ぶりに1万人を超え、感染が急速に拡大
12月3日 ○ 東京文化財研究所、【シリーズ】無形文化遺産と新型コロナウイルス フォーラム3「伝統芸能と新型コロナウイルスーGood Practiceとは何かー」を開催
12月4日 ○ サバイバル番組「Girls Planet 999：少女祭典」から誕生した9人組ガールズグループ Kepler、現場スタッフに陽性が確認されたため、14日に予定していたデビューを2022年1月3日に延期と発表
12月4日 ○ 緊急事態宣言、まん延防止重点対応の映画休業・時短営業要請により、十分な配給や興行ができなかった映画を集めて再上映する「COME BACK映画祭ーコロナ禍で影響を受けた映画たちー」が池袋のHall Mixaで開催（～19日）
12月6日 ○ 東京のサンモールスタジオ・雑遊・シアター風姿花伝の3劇場が、2022年1月10日～3月31日に「劇場都市TOKYO演劇祭」を開催することを発表
12月6日 ● オミクロン株、日本人初の感染を確認
12月9日 ○ 劇団四季、東京ディズニーリゾート（TDR）内の「舞浜アンフィシアター」で、2022年10月からディズニーミュージカル『美女と野獣』の上演を発表。劇団四季がTDRで上演するのは初
12月10日 ● 東京都、新型コロナウイルスの新規陽性者のうち、ワクチンを2回接種した人でも感染する「ブレイクスルー感染」の割合が高齢者で半数以上に
12月13日 ○ 歌舞伎座「壽 初春大歌舞伎」の本チラシ裏面に演目案内が復活
12月15日 ○ 政府、18歳以下への10万円相当の給付をめぐり、年内の全額現金での一括給付など3つの方法を明記した指針をまとめ自治体に通知
12月16日 ● 東京都、米国から帰国した都内の20代女性がオミクロン株に感染していたと発表。都内では初のオミクロン株の感染確認
12月16日 ○ 恵比寿に客席数約200の新劇場、「シアター・アルファ東京」がオープン。2022年1月16日までオープニングフェスティバルを開催
12月17日 ○ 北九州芸術劇場、2022年1月25日・26日に予定していたオハッド・ナハリン／バットシェバ舞踏団『HORA』公演および関連企画について、水際対策強化による渡航制限で開催中止を発表
12月17日 ● 沖縄県、米軍基地キャンプ・ハンセで米海兵隊員計99人の大規模クラスターが発生。感染した日本人の基地従業員からオミクロン株を確認
12月17日 ○ 新国立劇場バレエ団『吉田都セレクション』、政府によるオミクロン株への水際対策強化に伴い一部演目の変更を発表
12月17日 ● 牛乳や乳製品の需要が新型コロナウイルスの影響で減少したことなどから生乳大量廃棄の懸念。金子原二郎農林水産大臣、乳製品の消費拡大呼びかけ
12月17日 ● 岸田首相、ワクチンの3回目接種を2回目との間隔を原則8か月から6か月に短縮する対象を医療従事者などに拡大するとともに、一般の高齢者は2022年2月以降接種間隔を7か月に短縮する方針を表明
12月18日 ● 全国で発表された新型コロナの感染者が、1か月ぶりに200人超
12月18日 ● アメリカのニューヨーク市で感染者が急速に増加し、ブロードウェイではミュージカルの休演が相次ぐなど影響広がる
12月19日 ○ 18日に急逝した俳優の神田沙也加がダブルキャストで主演したミュージカル『マイ・フェア・レディ』札幌公演、19日・20日の中止を発表
12月20日 ● 国内の新型コロナウイルス感染者の累計が、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」乗船者を含め173万341人に。1週間の新規感染者は1144人で、4週ぶりに1000人を超える
12月20日 ○ 政府、マイナンバーカードを使って、スマートフォンで国内外で利用できるワクチン接種証明書を入手できるサービスを開始
12月20日 ○ 世田谷パブリックシアター芸術監督として20年務めた野村萬斎が、2022年3月31日をもって退任。次期芸術監督として、演出家・俳優の白井晃氏の就任が決定
12月20日 ● オミクロン株の感染が海外から入国した人を中心に相次ぎ、同じ航空機に乗っていたとして濃厚接触者になるケースが増え、都内で1000人を超える
12月20日 ● WHOテドロス事務局長、「オミクロン株はデルタ株よりも著しく速いスピードで感染が広がり、ワクチンを接種した人や感染後に回復した人にも広がっている」という見方を示し、警戒を呼びかけ
12月21日 ● 北九州芸術劇場、2022年1月15日・16日に予定していた『大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2021ー海外編ー「ダルレの話」』公演で、水際対策強化により開催中止を発表
12月21日 ● 日本マクドナルド、北米からの原料の輸入に遅れが出ているとして、24日から「マックフライポテト」MサイズとLサイズの販売を一時休止
12月22日 ● 北九州芸術劇場、2022年1月下旬、リアルとバーチャルが融合する仮想空間の歌舞伎公演『META歌舞伎 Genji memories』の配信決定。中村壱太郎が5役のヒロインを演じ分け、中村隼人が初の光源氏に
12月22日 ○ 吾峠呼世晴の漫画「鬼滅の刃」、野村萬斎の演出・出演で能・狂言化されることが決定。『能 狂言「鬼滅の刃」』のタイトルで、2022年の夏に東京、冬に大阪で上演予定
12月22日 ● 大阪府、府内に住む海外渡航歴のない3人について、オミクロン株の感染が確認されたと発表。感染経路は不明で、市中感染の確認は国内初
12月24日 ● 東京都、オミクロン株の市中感染を初確認
12月24日 ● 文部科学省、国公私立大の個別入試における新型コロナウイルス感染症対策のガイドラインを改定し、オミクロン株感染者の濃厚接触者は症状の有無にかかわらず受験を認めないことを決定。受けられなかった受験生は追試験などで救済
12月24日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスの感染症の経口治療薬「モルヌピラビル」を新型コロナの飲み薬として正式に承認
12月24日 ○ 第76回文化庁芸術祭賞演劇部門、劇団新派「十月新派特別公演」の『太夫さん』、兵庫県立ピッコロ劇団第71回公演『いらないものだけ手に入る』が大賞受賞
12月28日 ● 文部科学省、国立私立大の個別入試における新型コロナウイルス対策のガイドラインを再び改定し、オミクロン株感染者の濃厚接触者も他の株と同様、無症状で陰性といった条件を満たせば別室での受験を認めると発表
12月29日 ● 全国で501人の感染発表。1日の感染者数が500人を超えるのは10月16日以来

## 2022年

1月2日 ○ 歌舞伎座「壽 初春大歌舞伎」第三部『義経千本桜 川連法眼館の場』で、市川猿之助が新型コロナウイルスの影響で中止していた宙乗りを披露
1月3日 ● NHKEテレ、「100分 de 名著」のスペシャル版として「100分 deパンデミック論」を放送
1月3日 ● 東京都、新たに103人の感染発表。1日の感染者数が100人を超えるのは2021年10月8日以来
1月3日 ● 東京大神宮で職員のクラスターが発生し、16日までの初詣の一般参拝などが中止に
1月3日 ● 沖縄県、新たに130人の感染発表。1日の感染者数が100人を超えるのは2021年9月25日以来
1月4日 ● 全国で1268人の感染発表。1日の感染者数が1000人を超えるのは2021年10月6日以来。感染「第6波」への懸念が強まる
1月5日 ● アメリカ軍岩国基地、新たに基地の関係者182人の感染発表。岩国基地で確認された1日の感染

1月5日●　者数としては過去最多
1月5日●　ヨーロッパで感染拡大に歯止めがかからず、フランスで1日の感染者が27万人を超えたほか、イギリスやイタリアでも過去最多
1月6日●　全国で2638人の感染発表。1日の感染者数が2000人を超えるのは2021年9月以来
1月6日○　日本医師会の中川俊男会長、新型コロナウイルスの感染者の増加を受けて「第6波に突入」との認識を示す
1月6日○　新国立劇場、シーズンオペラ『さまよえるオランダ人』（26日～2月6日）に出演を予定していた招聘指揮者、キャストが入国制限措置のため出演不可能になったと発表
1月6日●　全国で4475人の感染発表。1日の新たな感染者が4000人を上回るのは2021年9月18日以来
1月6日●　東京都、感染状況の警戒レベルを一段階引き上げ
1月7日●　新型コロナウイルスの感染者、世界全体で3億人超
1月7日●　東京都、新たに922人の感染発表。900人台は2021年9月15日以来
1月7日○　東京の都立施設、11日よりスポーツ施設、図書館、都立公園等を除き、原則休館と発表。美術館・博物館の企画展、劇場・ホールの公演等は休館の対象外
1月7日●　東京都、現在1グループ8人以内としている会食の人数制限を11日から4人以内に強化
1月7日●　斉藤鉄夫国土交通相、1月下旬の再開を予定していた「GoToトラベル」を事実上見送る意向を示す
1月8日○　宝塚歌劇花組「忠臣蔵ファンタジー『元禄バロックロック』」「レビュー・アニバーサリー『the Fascination!』―花組誕生100周年 そして未来へ―」東京宝塚劇場公演（2日～2月6日）において、公演関係者に陽性が確認されたため8日～10日までの6公演の中止を発表（29日までの中止延長が決定）
1月9日●　沖縄・山口・広島の3県、まん延防止等重点措置が適用。期間は1月末まで
1月9日●　日米両政府、在日米軍関係者に10日から14日間、原則外出を制限するとした共同声明を発表
1月10日●　宝塚歌劇団、東京国際フォーラムで開幕予定だった雪組公演「New Year's Spectacular『ODYSSEY―The Age of Discovery―』」（～22日）の関係者に陽性が確認されたため、12日までの3日間公演中止を発表（12日に全公演中止が決定）
1月10日○　第79回ゴールデングローブ賞の発表が行われ、濱口竜介監督の「ドライブ・マイ・カー」が日本映画では62年ぶりに非英語映画賞を受賞
1月11日●　東京都神田神保町の岩波ホール、新型コロナの影響による急激な経営環境の変化を受け、7月29日をもって閉館すると発表。54年の歴史に幕
1月11日○　歌舞伎専門誌「演劇界」3月3日発表予定の4月号で休刊へ。110年以上の歴史に終止符
1月11日○　バルコ・プロデュース2022『ロッキー・ホラー・ショー』KAAT神奈川芸術劇場公演（13日～16日）、公演関係者の陽性が確認されたため全公演中止
1月12日●　東京都、新たに2198人の感染発表。1日の感染者が2000人を超えたのは2021年9月4日以来
1月13日●　草彅剛の主演舞台『アルトゥロ・ウイの興隆』（～16日）の公演関係者に陽性が確認されたため13日・14日の公演中止を発表
1月13日○　松竹、歌舞伎座「壽 初春大歌舞伎」第一部『祝春元禄花見踊』の公演関係者に陽性が確認されたため、14日の第一部の公演中止を発表
1月13日○　アダム・クーパー主演ミュージカル『SINGIN' IN THE RAIN～雨に唄えば』、水際対策の入国規制の状況から22日～31日の公演を中止
1月13日●　都のモニタリング会議で専門家から、現在の増加ペースが続いた場合、直近7日間を平均した1日当たりの新規感染者数が20日時点で9576人になるとの試算
1月13日●　東京都、新たに3124人の感染発表。1日の感染者が3000人を上回るのは2021年9月2日以来
1月14日○　松竹、中村扇雀、中村七之助、尾上松也らが新型コロナウイルスの濃厚接触者に該当する可能性があるとして、歌舞伎座「壽 初春大歌舞伎」第一部『一条大蔵譚』と第三部『岩戸の景清』の配役の変更を発表
1月14日●　東京都、新たに4051人の感染発表。1日の感染者が4000人を上回るのは2021年8月27日以来
1月15日●　静岡市、11日に死亡した高齢男性についてゲノム解析をした結果、オミクロン株と発表。オミクロン株感染者の死亡が判明したのは国内初
1月17日○　ミュージカル『マイ・フェア・レディ』博多座公演（19日～28日）、公演関係者3人の陽性が確認されたため、19日～21日までの4公演を中止
1月18日○　ワクチンの接種証明かPCR検査などによる陰性証明を確認して行動制限を緩和する「ワクチン・検査パッケージ」一時的に停止へ
1月18日●　東京都、新たに5185人の感染発表。1日の感染者が5000人を上回るのは2021年8月21日以来、約5か月ぶり
1月18日●　国内で1日の感染確認数が3万2197人となり、過去最多を更新
1月19日○　新橋演舞場で上演中の新作歌舞伎『プペル～天明の護美人間～』（3日～20日）、舞台関係者に陽性が確認されたため19日から千穐楽までの2公演を中止
1月19日●　東京都、新たに7377人の感染発表。1日の感染者数としては、これまでで最も多かった2021年8月13日の5908人を最も深刻なレベルに引き上げ
1月20日●　東京都、感染状況の警戒レベルを最も深刻なレベルに引き上げ
1月20日●　東京都で8638人、全国で4万6199人の感染発表。どちらも過去最多を更新
1月20日○　市川海老蔵企画の『いぶき』（21日～23日）、新橋演舞場での全公演中止を発表
1月20日○　帝国劇場で上演中の『JOHNNYS' Island』（1日～26日）、公演関係者に陽性が確認されたため20日18時公演から24日まで中止（24日に、千穐楽の26日までの中止延長を発表）
1月21日○　芸能界で新型コロナウイルス感染や濃厚接触者の報告が続出。公演中止や番組内容の変更が相次ぐ。小劇場などの演劇公演も中止・延期が増加
1月21日●　沖縄・山口・広島の3県に加え、東京・埼玉・千葉・神奈川・群馬・新潟・愛知・岐阜・三重・香川・長崎・熊本・宮崎の13都県にまん延防止等重点措置を適用。期間は2月13日まで。感染が拡大している北海道・静岡・京都・大阪・兵庫・福岡・佐賀・大分の8道府県も適用する方針へ
1月21日○　厚生労働省、新型コロナウイルスワクチンの接種について5歳から11歳までの子どもも対象に加えることを正式に承認
1月21日○　劇団四季、『アナと雪の女王』東京公演の出演者に陽性が確認されたため、21日13時公演から23日まで中止を発表（1月下旬の時点で、2月6日まで中止）
1月22日●　東京都、1日の感染発表が初めて1万人を超え1万1227人に。全国でも5万4576人の感染が発表され、5万人を超えたのは初
1月22日○　松竹、南座での上演中の『有頂天作家』の舞台関係者に陽性が確認されたため、22日～24日の公演中止を発表
1月24日●　新歌舞伎座、上演中の『新春特別企画 前川清・藤山直美』で公演関係者の陽性が確認されたため、25日に昼夜2公演を中止と発表（25日に、千穐楽の31日までの中止延長を発表）
1月25日●　政府、18道府県にまん延防止等重点措置の適用を正式決定。新たに適用されるのは、北海道・大阪・京都の両府・青森・山形・福島・栃木・茨城・静岡・石川・長野・兵庫・岡山・島根・福岡・佐賀・大分・鹿児島の各県。期間は17日～2月20日まで
1月25日●　全国の新規感染者数、初めての6万人超
1月25日●　英紙、欧州で感染の主流となっているオミクロン株の中に、さらに感染力が強い亜種「ステルスオミクロン株」が確認され増加していると報道
1月26日●　全国の新規感染者数、初めての7万人超
1月27日●　駄菓子のやおきさん、スナック菓子「うまい棒」を10円から12円に引き上げると発表。値上げは1979年の販売以来初
1月27日●　東京都のモニタリング会議で専門家は、現在の増加比が続いた場合、1週間後の2月3日には都内の1日あたりの感染者数が2万4074人に上ると試算
1月27日●　イギリス、マスク義務など新型コロナ対策の規制がほぼ撤廃。「コロナとの共生路線」へ

1月28日●岸田首相、オミクロン株対策として濃厚接触者に求めている待機期間を10日間から7日間に短縮
1月28日●大阪府の新規感染者数は1万13人となり、府内で1日の感染者数が1万人を超えるのは初
1月28日●東京で行われる自衛隊による新型コロナウイルスワクチンの大規模接種の予約受付が始まり、受付開始から9分で埋まる
1月28日●全国の新規感染者数、初めての8万人超
1月28日○劇団四季、『ライオンキング』東京公演の出演者に体調不良の症状が見られたため、29日の公演中止を発表（1月下旬の時点で、2月4日まで中止）
1月30日○ＯＳＫ日本歌劇団、創立１００周年を祝う記念式典を大阪松竹座で開催
1月31日●東京都、新型コロナウイルスの感染が確認された人のうち、自宅療養中の人が初めて7万人を超え、7万１９６０人に
1月31日○松竹、新橋演舞場で2月1日に開幕予定だった『有頂天作家』（～15日）の関係者に陽性が確認されたため、5日までの上演を中止すると発表（2月1日に、11日までの中止延長を発表）
1月31日○劇団四季、『キャッツ』福岡公演の出演者に陽性が確認されたため、2月2日～6日の公演中止を発表
2月1日○宝塚歌劇団、宝塚大劇場の宙組公演『NEVERSAY GOODBYE』と御園座の星組公演「王家に捧ぐ歌ーオペラ『アイーダ』よりー」の公演関係者に陽性が確認されたため、宙組は5日の初日から8日まで、星組は8日の初日から17日11時公演まで中止を発表
2月1日●東京都内の新型コロナの患者用の病棟使用率は、50・7％になり、都が緊急事態宣言の発出の要請を検討するとしていた50％を超える
2月2日○国立劇場「二月文楽公演」（5日～22日）第三部『平家女護島 』『釣女』の出演予定者数名に陽性が確認されたため、5日～12日まで公演中止を発表
2月2日○大阪松竹座、ＯＳＫ日本歌劇団創立１００周年記念作として5日に開幕予定だった『レビュー春のおどり』（～20日）で公演関係者23人の陽性が確認されたため、13日まで公演中止を発表
2月2日●新規感染者数は増加の一途をたどり、東京都では初めて2万人を超え2万１５７６人に。全国でも9万４９３１人となり初めて9万人を超えた
2月3日●全国の新規感染者数が10万４４６４人に。初めて10万人を超え、過去最多を更新
2月3日○東宝、帝国劇場『笑う男 The Eternal Love―永遠の愛―』（～19日）の公演関係者に陽性反応が確認され、開演直前に急遽公演中止。翌日には6日までの中止を発表
2月4日●厚生労働省、3日時点での全国の重症者が１０４２人と発表。１０００人を超えるのは２０２１年9月27日以来
2月4日●第24回冬季オリンピック北京大会（２０２２）開幕
2月5日○国立劇場「二月文楽公演」第一部・第二部を第三部同様、12日まで公演中止と発表
2月5日○宝塚歌劇団、宝塚バウホールで1日の開幕予定を延期していた『ザ・ジェントル・ライアー～英国的、紳士と淑女のゲーム～』の全日程（～13日）中止を発表
2月7日○宝塚歌劇団、宝塚大劇場で5日の開幕予定を延期していた宙組公演『NEVER SAY GOODBYE』の中止期間を21日まで延長と発表（17日に、27日までの中止延長を発表）
2月8日○オリエンタルランド、東京ディズニーランドの「クラブマウスビート」関係者が複数陽性確認。人員不足のため数日間の公演休止を発表。ディズニーランドでのコロナ感染による公演休止は初
2月8日○東宝、松本白鸚主演の日生劇場『ラ・マンチャの男』ファイナル公演（6日～28日）の公演関係者に陽性反応が確認され、開演直前に急遽当日公演中止。その後、9日～12日まで中止を発表
2月9日●岸田首相、13都県のまん延防止重点措置の期限延長（3月6日まで）を表明
2月9日●Makino Play vol. 2『モンローによろしく』（3日～13日）、4日に陽性者が出たため一部公演を中止していたが、全公演中止を発表
2月10日○松竹、新橋演舞場『有頂天作家』を12日から再開と発表
2月12日○東宝、日生劇場『ラ・マンチャの男』を13日から公演再開と発表（17日に再び当日に公演中止、19日に24日までの中止延長を発表）
2月14日○松竹、歌舞伎座「二月大歌舞伎」第三部『鼠小僧次郎吉』の出演者が陽性確認されたため14日～19日の第三部上演を中止と発表
2月14日○彩の国さいたま芸術劇場、２０２０年2月に終盤の公演が中止となった『ヘンリー八世』（9月16日～25日）の上演決定を発表
2月16日○大阪松竹座、開幕を延期していたＯＳＫ日本歌劇団の１００周年記念公演『レビュー春のおどり』を18日から上演と発表
2月16日●大阪府、まん延防止等重点措置延長を要請
2月16日○ミュージカル『メリー・ポピンズ』、水際対策処置である外国人の新規入国停止により海外スタッフの来日が遅れ、プレビュー公演の開幕を4日間延期（3月26日～30日の本公演を中止してプレビュー公演として新規チケット販売）
2月17日●ステルスオミクロン株の市中感染が東京都で初めて確認
2月18日●政府の基本的対処方針分科会、沖縄など5県のまん延防止等重点措置の解除と、大阪など17道府県の期間延長（3月6日まで）を了承
2月24日●ロシア、ウクライナへの軍事侵攻を開始
2月24日●東宝、日生劇場『ラ・マンチャの男』を千穐楽まで公演中止と発表
2月25日○渋谷・コクーン歌舞伎 第十八弾『天日坊』（1日～26日／シアターコクーン）、公演関係者31名の新型コロナウイルス感染により、25日および千穐楽の公演中止
2月25日○conSeptヤングアダルト・シリーズ #1『アーモンド』（25日～3月13日／シアタートラム ）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、初日から3月8日まで公演中止
2月25日○舞台『サザエさん』（22日～27日／大阪新歌舞伎座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、26日および千穐楽の公演中止
2月25日●２０２２年北京パラリンピック、日本選手の新型コロナウイルス陽性確認。北京パラリンピックに出場する日本選手が陽性となったのは初
2月25日○京都大学のグループ、「第6波」による死者数は５５００人超と推定
2月25日○文部科学省、国公立大学で2次試験の前期日程開始に伴い、新型コロナウイルスの影響を受けた受験生は個別入試で合否判定をするよう異例の要請
2月25日●3月1日から外国人の新規入国が段階的に緩和されるのを前に、入国に必要なオンライン申請手続き始まる
2月26日○シス・カンパニー公演『奇蹟 miracle one―way ticket』（3月12日～4月10日／世田谷パブリックシアター）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、初日を3月12日から18日に延期すると発表
2月26日●3月より、5歳から11歳の子どもへのワクチン接種が本格的に実施されるのを前に、東京都足立区で基礎疾患のある子どもなどを対象に接種開始
2月27日○東京医科歯科大学のグループ、遺伝子解析により国内で主流となっているのはオミクロン株［BA.1.1］ウイルスであるとする調査結果を発表
2月27日●18都府県の新型コロナウイルスの感染状況が、政府の分科会が示す「対策を強化すべきレベル」の目安を上回る
2月28日○ＶＩＰＯ（特定非営利活動法人映像産業振興機構）が統括団体によるアートキャラバン事業（コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業）の募集開始
2月28日●オリエンタルランド、入場者数の上限について3月1日から収容人数の50％を超えない範囲での段階的な引き上げを発表
3月1日○中村屋巡業公演『中村勘九郎 中村七之助 春暁特別公演２０２２』（6日～26日／全国16か所）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、初日から10日まで公演中止を発表
3月1日○国立劇場3月歌舞伎公演『近江源氏先陣館―盛綱陣屋―』（3日～27日）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、配役を変更して上演（11日より当初の配役で上演）
3月1日●東京都、新型コロナウイルス感染者の累計が１００万人超。死者数は２０２１年2月3日と並び最多
3月1日●新型コロナウイルスの水際対策が緩和され、観光を除くビジネス目的などの短期滞在者、留学生、技能実習生などの新規入国再開
3月1日●政府、ワクチンや治療薬を「緊急承認」できる制度を新たに設けるとした法律の改正案を決定

3月2日 ● 厚生労働省の専門家会合、オミクロン株の致死率が季節性インフルエンザより高いと分析

3月3日 ● 6日に2年ぶりに開催される東京マラソン、市民ランナーの受付開始。ＰＣＲ検査や専用アプリの利用が参加条件

3月4日 ○ ２０２２年北京パラリンピック開幕。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受け、ＲＰＣ（ロシアパラリンピック委員会）とベラルーシ選手の出場を認めない異例の決定

3月4日 ● まん延防止等重点措置、東京など18都道府県で21日まで延長し、13県は6日で解除を決定

3月5日 ● 文部科学省、新型コロナウイルスの影響で大学などを中退した人が前年度の１・４倍の１９００人余りに増加したと発表

3月6日 ○ 群馬県のまちおこし財団、新型コロナの影響を受けている地域の魅力発信のため、地元の伊香保温泉を舞台にした朗読劇を披露

3月6日 ● まん延防止等重点措置、福島、新潟、長野、三重、和歌山、岡山、広島、高知、福岡、佐賀、長崎、宮崎、鹿児島の13県で解除

3月7日 ○ アメリカ・ニューヨーク市、劇場や飲食店などの入場者に義務付けていたワクチン接種証明書の提示を撤廃。ブロードウェイの劇場側は「感染防止対策の観点から、少なくとも4月末まで措置を継続する」と発表

3月7日 ● 新型コロナウイルスによる死者数が世界で６００万人超。ＷＨＯ（世界保健機関）はワクチン接種や感染対策の徹底を呼びかけ

3月7日 ● ＮＰＢ（日本野球機構）、今季のプロ野球公式戦は両リーグとも3年ぶりに延長12回まで行うことを決定

3月7日 ● アメリカ・ニューヨーク市、学校でのマスク着用、レストランや劇場などでのワクチン接種証明の確認義務などの規制撤廃。時期尚早との批判も

3月8日 ● ２０２１年、首都圏から地方に本社を移した企業が３５０社を超え、11年ぶりに「転出超過」に。新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、リモートワークが定着したことなどが背景に

3月9日 ○ 文化庁が令和３年度（第72回）芸術選奨文部科学大臣賞発表。文部大臣賞に竹本千歳太夫、マキノノゾミ、濱口竜介ら、新人賞に尾上松緑らを選出

3月9日 ● 新型コロナウイルスのクラスター発生件数が１２６３件と過去最多を更新。このうち最も多かったのは「高齢者福祉施設」で５０９件

3月10日 ● 政府、水際対策の緩和に伴い入国した外国人留学生や日本人学生のうち、経済的に苦しい状況にある人へ１人10万円の支給を決定

3月11日 ● 東日本大震災から11年

3月12日 ○ ２０２０年に新型コロナウイルスの影響で中止になった、三浦大輔作・演出のパルコ・プロデュース『裏切りの街』が新国立劇場小劇場で開幕（～27日）

3月12日 ● ＪＲ各社、新型コロナウイルスの影響による利用客の減少などを反映させたダイヤ改正。ＪＲ東日本や西日本は過去最大規模の減便

3月14日 ● 国内で新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を受けた人が全人口の30％を超える

3月16日 ○ ２０２０年に新型コロナウイルスの影響で中止になった『毒薬と老嬢』が新橋演舞場で開幕（～20日）

3月16日 ○ ミュージカル『ラ・カージュ・オ・フォール 籠の中の道化たち』（8日～30日／日生劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、16日に続き18日・19日の公演中止を発表

3月16日 ● 関係者の新型コロナウイルス感染により、16日13時開演回を急遽中止

3月16日 ● 保育所などの児童福祉施設で、新型コロナウイルスのクラスター発生件数が２２９件と過去最多を更新

3月16日 ● ファイザー、65歳以上の高齢者に対しワクチン4回目の接種を可能にするよう、緊急使用の許可をＦＤＡ（アメリカ食品医薬品局）に申請

3月17日 ○ 福島県沖地震により停電が発生し、冷蔵庫で保管していた新型コロナウイルスワクチンの廃棄が相次ぐ

3月17日 ○ ミュージカル『ラ・カージュ・オ・フォール 籠の中の道化たち』（8日～30日／日生劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、16日に続き18日・19日の公演中止を発表

3月17日 ○ ２０２０年に新型コロナウイルスの影響で中止になった『２０２２年劇団☆新感線42周年興行・春公演 いのうえ歌舞伎 神州無頼街』がオリックス劇場で開幕（～29日）

3月17日 ● 劇団四季『キャッツ』（２０２１年7月27日～２０２２年4月17日／キャナルシティ劇場）、公演関係者の体調不良により17日の公演中止。ＰＣＲ検査の結果、陰性が確認されたため18日から再開

3月17日 ○ 劇団四季『ライオンキング』（２０２１年9月26日～／有明四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、17日～26日まで公演中止

3月17日 ○ 新型コロナウイルス等感染症対策推進室「対処方針に基づくイベントの開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項等について」公表。５０００人以下で観客の大声なしの舞台・コンサートは１００％入場可に

3月18日 ○ ２０２０年に新型コロナウイルスの影響で延期になった、小野寺修二構成・演出のカンパニーデラシネラ『ふしぎの国のアリス』が新国立劇場小劇場で開幕（～21日）

3月18日 ● 後藤厚生労働大臣、政府が調達した布マスクについて、実際の保管枚数が計算上の在庫より53万枚少ないことを発表

3月19日 ○ ２０２０年に新型コロナウイルスの影響で中止になった『舞台『刀剣乱舞』綺伝 いくさ世の徒花』が明治座で開幕（～4月3日）

3月19日 ○ ミュージカル『ラ・カージュ・オ・フォール 籠の中の道化たち』（8日～30日／日生劇場）、新たに公演関係者の陽性が確認されたため、16日～19日に続き、20日～25日まで公演中止期間延長を発表

3月21日 ○ 国際交流基金（ＪＦ）がＥＰＡＤ（緊急舞台芸術アーカイブ＋デジタルシアター化事業）実行委員会と共同で日本の優れた舞台公演をオンライン配信するプロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS」50本配信完了

3月21日 ● まん延防止等重点措置、すべての地域で解除。警戒継続とともにイベントの開催制限緩和などを通じ、社会経済活動の回復を目指す

3月22日 ● 厚生労働省、ワクチン3回目の接種について、接種が可能な年齢を18歳以上から12歳以上に拡大する方針を決定

3月22日 ● 東京都、新たに８９２５人の新型コロナウィルス感染を確認。3日連続1万人を下回る

3月23日 ○ ミュージカル『ロミオの青い空』（30日～4月3日／東京建物 Brillia HALL）、稽古期間中に公演関係者に新型コロナウイルス感染が確認されたため、初日および31日の公演中止を発表

3月23日 ● 新型コロナウイルス第6波の急拡大により臨時休園していた上野動物園、まん延防止等重点措置解除を受けて約2か月ぶりに再開

3月24日 ● 日本航空、新型コロナウイルス感染拡大や原油高の影響を受けて8年ぶりに運賃値上げを決定

3月25日 ○ ミュージカル『ラ・カージュ・オ・フォール 籠の中の道化たち』（8日～30日／日生劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、16日～25日に続き、26日まで公演中止期間延長。27日より再開

3月25日 ● 政府分科会の尾身茂会長、独立行政法人地域医療機能推進機構の理事長退任。政府分科会の会長は続行

3月26日 ○ 劇団四季『アナと雪の女王』（２０２１年6月24日～／ＪＲ東日本四季劇場［春］）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、26日～4月2日まで公演中止

3月28日 ○ 文化庁が「ARTS for the future! 2」（コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業）の公募申請開始

3月28日 ○ 第94回アカデミー賞で濱口竜介監督の「ドライブ・マイ・カー」が国際長編映画賞を受賞。邦画での受賞は13年ぶり

3月29日 ○ 新国立劇場4月演劇公演『アンチポデス』（4月14日～24日／小劇場）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、4月3日・4日のプレビュー公演中止と出演者一部変更を発表

3月29日 ● まん延防止等重点措置解除から1週間経過。新型コロナウイルスの新規感染者数は全国で緩やかな減少傾向が続くも、横ばいから増加に転じる地域も

3月29日 ● 中国・上海、新型コロナウイルスの感染が拡大し厳しい外出制限を開始。日系企業や貨物便欠航などの影響も

3月29日 ● ＦＤＡ（アメリカ食品医薬品局）、ファイザーとモデルナのワクチンについて、50歳以上を対象に4回目の接種許可を発表

3月31日○令和4年『都をどり』（4月1日～25日／南座）が3年ぶりの開幕に先駆け、稽古の総仕上げとなる「大ざらえ」を披露

4月1日●厚生労働省、新型コロナウイルス感染後遺症の実態の把握と医療態勢に与える影響を調べるため、2億円の予算をかけて調査を開始

4月2日○『舞台『東京リベンジャーズ』―血のハロウィン編―』（3月25日～4月3日／サンシャイン劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、2日および千穐楽の公演中止

4月2日●新型コロナウイルスの直近1週間の新規感染者数が44都道府県で前週と比べ増加。「第6波」が十分に収まらないまま「第7波」を迎える恐れも

4月2日●厚生労働省、在庫として残っていた布マスクを個人や介護施設などに配送。これまでのマスク保管費用は約9億6000万円に

4月3日○ほぼ全域がロックダウンしている中国・上海で、感染拡大が止まらず、当初、期限としていた5日以降も封鎖を継続

4月4日●新型コロナウイルスの新規感染者、10～20代が全体のおよそ半数を占め、若者を中心に増加傾向

4月6日●中国・上海、新型コロナウイルスの1日の感染者が過去最多となる1万3354人。全国から4万人近い医療関係者を上海に派遣

4月7日○新国立劇場4月演劇公演『アンチポデス』（14日～24日／小劇場）、公演関係者に発熱の症状が確認されたため、8日～11日まで公演中止

4月7日●オミクロン株のうち、新たな変異ウイルス「XE」がイギリスなどで報告。「第6波」で広がった「BA.1」と、より感染力が高いとされる「BA.2」が組み合わさったタイプ

4月8日○2021年に新型コロナウイルスの影響で中止になった、梅棒『おどんろ』がサンシャイン劇場で開幕（～17日）

4月8日○劇団四季『ライオンキング』（2020年3月26日～2022年5月15日／名古屋四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、8日～15日まで公演中止

4月8日○大竹しのぶ主演『ビアフ』（1日～10日／博多座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、9日の公演中止

4月8日●政府、新型コロナウイルスの水際対策として指定している米英など106か国・地域の入国制限緩和を実施。ビザの発給制限は継続へ

4月8日●隅田川花火大会、新型コロナウイルス感染防止のための十分な対策が難しいとして、3年連続中止が決定

4月9日○劇団四季『アラジン』（2015年5月24日～／電通四季劇場［海］）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、9日・10日の公演中止

4月9日●国立国際医療研究センターなどのグループ、新型コロナウイルス患者のデータをもとに、症状の推移や治療の状況などをまとめたウェブサイトを公開

4月9日●中国「ゼロコロナ」政策、ロックダウンで部品調達滞り生産に影響し、長期化すれば世界経済リスクに

4月10日●新型コロナウイルスの水際対策が緩和され、1日当たりの入国者数の上限を7000人から1万人に引き上げ

4月11日●新たな変異ウイルス「XE」への感染、国内の検疫で初確認。アメリカから成田空港に到着した30代の女性

4月12日●松竹、NFT（非代替性トークン）関連事業に参入。1月にオンライン配信した歌舞伎の動画の一部を30～90秒程度で切り出し、NFTコンテンツとして16日から販売開始

4月15日○前身を含め100年を超す歴史を持つ歌舞伎専門の月刊誌「演劇界」の休刊に伴い、歌舞伎専門の古書店木挽堂が「劇評」を刊行

4月15日●新型コロナウイルスの新規感染者数の1週間平均が34都道府県で前週より増え、全国で緩やかな増加傾向

4月19日○『舞台『魔法使いの約束』第3章』（23日～5月8日／天王洲銀河劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から28日まで公演中止を発表

4月19日○劇場運営を巡るテーマを語り合うトークイベント「公共劇場における芸術監督の役割を考える」が世田谷パブリックシアターで開催。世田谷パブリックシアターの白井晃、新国立劇場の小川絵梨子、彩の国さいたま芸術劇場の近藤良平、KAAT神奈川芸術劇場の長塚圭史、首都圏の公共劇場の芸術監督がそろって登壇

4月19日●厚生労働省、アメリカの製薬会社ノババックスが開発した新型コロナウイルスワクチンを、18歳以上を対象に使用することを正式に承認

4月19日●ブラジル、2020年2月から発出していた公衆衛生上の緊急事態宣言を2年ぶりに解除

4月20日●京都の祇園祭「山鉾巡行」、3年ぶりに実施が決定

4月20日●2021年新型コロナウイルスの影響により、史上初めて中止されたブラジル「リオのカーニバル」が開幕

4月21日○自動車メーカーのホンダ、2020年4月最初の緊急事態宣言後から全社的に実施してきた在宅勤務を取り止め、5月の大型連休明けから原則出社の勤務体系に切り替える方針を発表

4月21日●東京都、「リバウンド警戒期間」を約1か月延長する一方、認証を受けた飲食店の利用人数制限を1グループ8人までに緩和

4月21日●中国政府の専門家チームのトップを務めた鍾南山が、習近平指導部が続けている「ゼロコロナ」政策の緩和が必要との論文を発表し波紋を呼ぶ

4月22日●新型コロナウイルス新規感染者数の1週間平均比較、全国で約1か月ぶりに減少傾向

4月23日○2021年に新型コロナウイルスの影響で中止になった、ももいろクローバーZ『第2回ももクロ一座特別公演』が明治座（2023年11月25日～12月3日）で上演決定

4月23日●Sexy Zone の松島聡主演『こどもの一生』（3日～28日／東京芸術劇場プレイハウス）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、23日から千穐楽まで公演中止

4月23日●大阪府の吉村洋文知事、新型コロナウイルス感染者の濃厚接触者に自宅待機などの行動制限を求める現行措置をやめるべきだと主張

4月25日●大阪市、新型コロナウイルスの影響を受けている、アーティストや文化芸術関係者及び団体等を対象とした専門相談窓口「大阪市アーティストサポート窓口」を大阪市立芸術創造館内に開設

4月25日●国内で新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を受けた人が全人口の半数を超える

4月26日●中国・上海、新型コロナウイルス感染の死者数が過去最多を更新。北京では人口の9割にPCR検査の実施を拡大

4月26日●厚生労働省、ワクチンの3回目接種について、2回目からの間隔を1か月短縮し、5か月とすることを決定

4月28日○第47回菊田一夫演劇賞、大賞は舞台『千と千尋の神隠し』上演関係者一同、特別賞はミュージカル『ラ・マンチャの男』の主演を半世紀以上にわたり務めた松本白鸚が受賞

4月28日●岸田首相、YouTubeで若い世代にワクチン3回目接種の検討を呼びかけ

4月28日●政府、これまでの新型コロナウイルス対策を検証するため新たに有識者会議を発足へ。有識者会議の座長は、自治医科大学学長の永井良三

4月28日●仙台市で新型コロナウイルスの感染が確認された患者1人から、海外でも確認されていないオミクロン株の2つのタイプが組み合わさった新たな変異ウイルスを確認

4月28日●モデルナ、生後6か月から6歳未満の子どもを対象にしたワクチンの緊急使用許可をFDA（アメリカ食品医薬品局）に申請

4月29日●「Hibiya Festival 2022」が3年ぶりに東京ミッドタウン日比谷周辺でリアル会場で開催（～5月8日）。リアル会場でのステージはライブでも配信。劇団四季初参加

4月29日○SPAC（静岡県舞台芸術センター）が主催する舞台芸術の祭典「ふじのくに⇄せかい演劇祭2022」開催（～30日）。3年ぶりに海外の劇団を招聘

4月30日○宝塚歌劇星組『ミュージカル・エトワール『めぐり会いは再び next generation―真夜中の依頼人（ミッドナイト・ガールフレンド）―』』『レビュー・エスパーニャ『Gran Cantante!!』』（23日～5月30日／宝塚大劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、30日～5月5日まで公演中止

5月1日○「TACT FESTIVAL タクト・フェスティバル 2022」、3年ぶりに東京芸術劇場ほかで開催（～8日）

5月1日○ニューヨーク・ブロードウェイ、２０２１年9月の再開当初から入場者に義務づけていたワクチン接種証明の提示を撤廃

5月1日●中国・北京市郊外にあるテーマパーク「ユニバーサル・スタジオ・北京」（ＵＳＢ）、新型コロナウイルスの感染拡大を受け一時休園を発表

5月2日○浅利演出事務所『ミュージカル李香蘭』（4月23日～5月8日／自由劇場）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、3日から千穐楽まで公演中止

5月2日○宝塚歌劇星組『ミュージカル・エトワール『めぐり会いは再びnext generation―真夜中の依頼人（ミッドナイト・ガールフレンド）―』』『レビュー・エスパーニャ『Gran Cantante!!』』（23日～5月30日／宝塚大劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、4月30日～5月5日までに続き、10日まで公演中止期間延長を発表

5月2日●韓国、屋外でのマスク着用義務を解除

5月2日●変異ウイルス「XE」への感染、国内で2例目を確認。アメリカから羽田空港に到着した男性

5月5日○宝塚歌劇雪組『大江戸スクランブル『夢介千両みやげ』』『ショー・スプレンディッド『Sensational！』』（7日～6月12日／東京宝塚劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から10日まで公演中止

5月6日●ＷＨＯ（世界保健機関）、２０２０年・２０２１年の2年間で、新型コロナウイルスの直接的・間接的な影響で死亡した人が、各国から報告された死者数の約3倍であるとの分析結果を発表

5月7日○２０２０年に新型コロナウイルスの影響で中止になった、ミュージカル『四月は君の嘘』が日生劇場で開幕（～29日）

5月9日○ＶＩＰＯ（特定非営利活動法人映像産業振興機構）がコンテンツ海外展開促進・基盤強化事業費補助金JLOD(3)2「収益基盤強化枠」の第1回採択結果を公表。採択率は32・5％

5月9日○テレビ東京、制作中のドラマの撮影現場で13人が新型コロナウイルスに感染したため撮影を中断。ドラマは作品名や放送時期が未発表のもの

5月9日●コロナ禍で、画面やボタンに直接触れずに操作できる非接触技術のニーズが高まり、新しいタイプのセンサーの開発が進む

5月10日○宝塚歌劇星組『ミュージカル・エトワール『めぐり会いは再びnext generation―真夜中の依頼人（ミッドナイト・ガールフレンド）―』』『レビュー・エスパーニャ『Gran Cantante!!』』（23日～5月30日／宝塚大劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、4月30日～5月10日までに続き、15日まで公演中止期間延長を発表

5月10日○東京都、旧国立児童館「こどもの城」改修計画の中止を発表。当面は現状通り新型コロナウイルス対策の酸素・医療提供ステーションとして活用

5月10日○新型コロナウイルスの影響で2度延期になったパラ陸上の世界選手権について、大会組織委員会が２０２４年5月に神戸での開催を発表

5月10日●東京都医師会の尾崎治夫会長、新型コロナウイルス感染防止対策のマスク着用について、屋外では「感染リスクが低いため見直してもよいのでは」との見方を示す

5月11日○２０２０年に新型コロナウイルスの影響で全公演中止になった、倉持裕作・演出『お勢、断行』が世田谷パブリックシアターで開幕（～24日）

5月12日○オミクロン株のうち、南アフリカで置き換わりが進んでいる「BA4」と「BA5」が 国内の検疫で初確認

5月12日●北朝鮮、これまで1人もいないとしてきた新型コロナウイルスの感染者が確認されたとして「最大非常防疫態勢」への移行を決定。全市郡封鎖を指示

5月12日●岸田首相、マスク着用緩和は現実的でないとしつつ、屋外で人との間隔が十分取れる場合には外しても構わないとの認識を示す

5月12日●松野官房長官、熱中症のリスクを考慮し、屋外で十分な距離が取れる場合はマスクを外すことを推奨すると説明

5月13日○フランスパリのシャンゼリゼ通りにある有名キャバレー「リド（Lido）」、新型コロナウイルスの影響等により閉鎖へ。「ブルーベルガールズ（Bluebell girls）」と呼ばれるダンサーや従業員が大量解雇

5月13日●感染症の流行といった緊急時におけるワクチンや治療薬の「緊急承認」改正法、参院本会議で可決・成立

5月13日●小池百合子都知事、マスク着用の在り方について政府の統一見解を求める

5月13日●新型コロナウイルスの影響により、上野動物園のパンダ「シャンシャン」の返還を年末まで延期。延期はこれで4回目

5月13日●群馬県教育文化事業団、新型コロナウイルスの感染拡大により、群馬県内の伝統芸能団体の9割超が行事の中止や延期などの影響を受けているというアンケート結果を発表

5月14日○宝塚歌劇星組『ミュージカル・エトワール『めぐり会いは再びnext generation―真夜中の依頼人（ミッドナイト・ガールフレンド）―』』『レビュー・エスパーニャ『Gran Cantante!!』』（23日～5月30日／宝塚大劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、4月30日～5月15日までに続き、19日まで公演中止期間延長し、20日から再開を発表

5月14日●ワクチン接種3回目用に配布されたモデルナ製ワクチンの廃棄が各地で相次ぐ。接種率が低調なのに加え、ファイザー製に比べて接種希望者が少ないことが影響

5月16日○COCOON PRODUCTION 2022／DISCOVER WORLD THEATRE vol. 12『『みんな我が子』―All My Sons―』（10日～30日／シアターコクーン）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、17日～22日まで公演中止

5月16日●北朝鮮、発熱者が１２０万人超。金正恩総書記が、医薬品が円滑に供給されないとして危機感を示す

5月16日●塩野義製薬、開発中の新型コロナウイルスワクチンについて12歳から19歳の臨床試験を開始

5月16日●フランス、新型コロナウイルス対策として続けていた公共交通機関でのマスク着用義務を解除

5月17日○舞台『千と千尋の神隠しSpirited Away』（1日～28日／博多座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、17日12時開演回から19日12時開演回までの4公演中止

5月17日○２０２０年に新型コロナウイルスの影響で全公演中止になった、小池徹平主演ミュージカル『ろろうに剣心 京都編』がIHIステージアラウンド東京で開幕（～6月24日）

5月17日●寄席演芸劇場の新宿末廣亭が、コロナ禍による経営難でクラウドファンディングを開始

5月17日●「第75回カンヌ国際映画祭」開幕（～28日）。ほぼ感染予防の制限は解除し、3年ぶりの5月開催

5月17日●アジアパラリンピック委員会、新型コロナウイルスの感染拡大が続いた影響で中国の杭州で開催する予定だったアジアパラ大会の延期を発表

5月18日○２０２０年から2度延期になっていた、ブロードウェイミュージカル『ＲＥＮＴ』25周年記念Farewellツアー来日公演が東急シアターオーブで開幕（～29日）。マイケル・グライフによる初演版演出の作品が約4年ぶりに来日

5月18日○堂本光一主演ミュージカル『Endless SHOCK―Eternal―』（4月10日～5月31日／帝国劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、18日・19日の公演中止

5月18日○17日から19日12時開演回まで公演中止になった、舞台『千と千尋の神隠しSpirited Away』（1日～28日／博多座）が19日17時開演回から再開を発表。22日12時開演回・25日12時開演回のみ中止し、24日および26日の千尋役は橋本環奈から上白石萌音に変更

5月18日○ＦＤＡ（アメリカ食品医薬品局）、ファイザーのワクチン3回目の接種について、5歳から11歳の子どもも対象とする緊急使用を許可

5月19日○堂本光一主演ミュージカル『Endless SHOCK―Eternal―』（4月10日～5月31日／帝国劇場）、一部公演中止を受け、堂本光一がインスタライブを生配信

5月19日●東京都、4段階で表す医療提供体制の警戒レベルを1段階引き下げ、上から3番目に。このレベルになるのは1月中旬以来約4か月ぶり

5月20日○堂本光一主演ミュージカル『Endless SHOCK―Eternal―』（4月10日～5月31日／帝国劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、18日・19日に続き、21日～23日まで公演中止期間延長を発表。25日より再開

5月20日●政府、マスクの着用について、屋外では周りの人との距離が確保できなくても会話をほとんどしない場合には不要との見解を公表

5月21日○日テレ系演芸番組「笑点」、2年3か月ぶりに観客を入れ、後楽園ホールで公開番組収録を再開

5月22日 ● 浅草「三社祭」で新型コロナウイルスの影響により中止となっていた名物の「みこし担ぎ出し」が3年ぶりに開催

5月22日 ● 東京都、まん延防止等重点措置が解除されたあと、3月22日から続けてきた「リバウンド警戒期間」終了

5月23日 ○ デジタル庁が「文化芸術分野の適正な契約関係構築に向けたガイドライン（検討のまとめ）（案）」に関する意見を募集。6月13日締切

5月23日 ● 新国立劇場、新型コロナウイルス感染拡大予防に伴う来場者情報の収集について、6月1日の主催公演より来場者カードを廃止し、チケット購入時の情報を緊急連絡先に変更

5月23日 ○ COCOON PRODUCTION 2022／DISCOVER WORLD THEATRE vol. 12『『みんな我が子』—All My Sons—』（10日～30日／シアターコクーン）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、17日～22日に続き、24日まで公演中止期間延長

5月23日 ● 政府、新型コロナウイルス対策の基本的対処方針を変更。マスク着用について、屋外では周りの人との距離がとれなくても会話をほとんど行わない場合は不要との考えを盛り込む

5月23日 ● ＷＨＯ（世界保健機関）、欧米を中心に患者の報告が相次いでいる感染症「サル痘」への警戒が必要だという認識を示す

5月24日 ○ COCOON PRODUCTION 2022／DISCOVER WORLD THEATRE vol. 12『『みんな我が子』—All My Sons—』（10日～30日／シアターコクーン）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、17日～24日に続き、25日まで公演中止期間延長。26日より再開

5月24日 ● 東京都、オミクロン株系統「BA.5」を確認。検疫以外では初めての国内例

5月24日 ● 文部科学省、学校現場でマスク着用が必要ない場面について具体的に明記し、全国に通知

5月25日 ● 辻村深月シアター舞台『かがみの孤城』『ぼくのメジャースプーン』（20日～29日／サンシャイン劇場、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日を25日に延期して開幕

5月25日 ● 新型コロナウイルスワクチンの4回目接種を開始。対象は60歳以上のほか、18歳以上の基礎疾患のある人か医師が重症化リスクが高いと判断した人に限定

5月26日 ● 岸田首相、2年ぶりの外国人観光客の受け入れを6月10日から再開すると表明

5月26日 ● 国内で4種類目となる、アメリカの製薬会社ノババックスが開発した新型コロナウイルスワクチンの接種を新潟県長岡市で開始

5月26日 ● イギリス政府、コロナ禍のイギリス首相官邸パーティー問題の調査報告書を公開。ジョンソン首相が謝罪

5月27日 ○ 倉持裕作・演出『お勢、断行』（28日・29日／兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール）、公演関係者が濃厚接触者該当のため出演者を変更して上演

5月27日 ● 都内の一部の図書館で、閲覧席に限って一定の条件を満たせばマスクを外してもよいと利用者に周知を開始

5月27日 ● 大阪府、アメリカで感染が増えているオミクロン株「BA.2.12.1」系統のウイルスへの感染初確認

5月30日 ○ 松竹、8月以降に歌舞伎座で上演される公演について、花道横を除く全座席の販売を再開することを発表。4階幕見席は引き続き販売なし

5月30日 ● 大阪府、約60億円かけて開設した国内最大の臨時医療施設「大阪コロナ大規模医療・療養センター」を閉鎖。利用者は303人のみ

5月31日 ● 帝国劇場で上演中の堂本光一主演ミュージカル『Endless SHOCK—Eternal—』（4月10日～5月31日）、31日の昼公演をもって1900回公演を達成

5月31日 ● 松竹、2020年5月の緊急事態宣言で延期になった「市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿襲名披露興行」を11月・12月に歌舞伎座でおこなうと発表

5月31日 ○ 文化庁が「文化に関する世論調査」令和3年度調査報告書公表。「この1年間に文化芸術イベントを直接鑑賞したことがある」39・7％、「この1年間にインターネットによる有料のオンライン配信で鑑賞したものがある」20・5％でともに前年度より低下

5月31日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスの影響を受けた事業主に対する雇用調整助成金の特例措置を9月末まで延長することを決定

5月31日 ● 新型コロナウイルスへの感染が原因で、基礎疾患のない5歳未満の子どもが急性脳症を発症し重症化した事例が判明

6月1日 ● 厚生労働省、アメリカの製薬大手ジョンソン・エンド・ジョンソンの新型コロナウイルスワクチンの18歳以上への使用を承認する方針を決定

6月1日 ○ ＶＩＰＯ（特定非営利活動法人映像産業振興機構）が J-LOD(3) キャンセル料支援（公演／展示会／遊園地・テーマパーク）の公募要項を公開

6月1日 ○ 文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業（令和3年度）「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う諸外国の文化政策の構造変化に関する研究（獨協大学）」報告書が公表

6月1日 ○ 一般社団法人日本芸能従事者協会、文化芸術の担い手が心の悩みをメールで臨床心理士に相談できる「芸能従事者こころの119」を開設

6月1日 ● 新型コロナウイルスの水際対策が緩和され、1日あたりの入国者数の上限が引き上げられるとともに、一部の国や地域からの入国者は入国時の検査などを免除

6月1日 ● 中国・上海、新型コロナウイルスの感染対策で2か月余り続いてきた厳しい外出制限を事実上解除

6月1日 ● 新型コロナウイルスに関する厚生労働省の新集計で、ワクチンを未接種の人より2回接種済みの人の方が陽性者になる確率が高くなったとのデータが判明

6月2日 ○ 2020年に新型コロナウイルスの影響で中止になった、中川晃教主演ミュージカル『チェーザレ破壊の創造者』が2023年1月・2月に明治座で上演決定

6月2日 ○ 生田斗真ら出演パルコ・プロデュース2022『てなもんや三文オペラ』（8日～30日／ＰＡＲＣＯ劇場）、公演関係者数名の新型コロナウイルス感染により、初日から11日13時開演回まで公演中止を発表

6月2日 ○ 執事歌劇団第15回公演『Odds & Ends：Wonderful World』（2日～5日／あうるすぽっと）、公演関係者が新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者と判断されたため、全公演中止

6月2日 ○ 歌舞伎座「六月歌舞伎」（2日～27日）初日。部をまたぐ出演が解禁となる

6月3日 ● 2020年に新型コロナウイルスの影響で中止になった、2021／2022シーズン新国立劇場バレエ団『不思議の国のアリス』が新国立劇場オペラパレスで開幕（～12日）

6月3日 ○ EPAD2022年実行委員会（ＩＴＩ（公益財団法人国際演劇協会日本センター）、寺田倉庫株式会社）が、セレクション作品（舞台芸術映像作品）の募集開始

6月3日 ○ ミュージカル『CROSS ROAD ～悪魔のヴァイオリニスト パガニーニ～』（7日～30日／シアタークリエ）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、初日18時および10日13時開演回の出演者変更を発表

6月3日 ○ 兵庫県伊丹市立演劇ホール「アイホール」、若い演劇人を発掘・支援する企画「break a leg（ブレイクアレグ）」を終了。同企画は10年間にわたり数多くの劇作家や演出家を輩出

6月3日 ○ 宮崎県教育委員会、小中学校などの給食で徹底されている「黙食」を見直す方針を表明

6月6日 ○ 堂本光一主演『Endless SHOCK』、9月の博多座公演で2年半ぶりに本編上演の再開を発表。2020年にコロナ禍から感染防止を念頭においての演出・構成を施したスピンオフ公演『Endless SHOCK—Eternal—』を上演

6月6日 ○ 中国・北京、新型コロナウイルスの感染対策として市内全域で禁止されていた飲食店での食事を解禁

6月6日 ○ 大相撲の出稽古が約2年ぶりに解禁

6月7日 ○ 戸塚祥太・内博貴ら出演の『フォーティンプラス』（3日～9日／自由劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、7日から千穐楽まで公演中止

6月7日 ○ 観光庁、外国人観光客の受け入れが10日に再開されるのを前に、旅行会社向けのガイドラインを公表

6月7日 ○ 規制改革に向けた政府の新たな実施計画が決定。対面で薬剤師の指導がなくても抗原検査キットを薬局で買えるよう検討

6月8日 ○ 厚生労働省の専門家会合、全国の感染者減少傾向が続く一方、夏ごろに増加が懸念されると指摘

6月8日 ● 札幌で「YOSAKOIソーラン祭り」が3年ぶりに開幕

6月8日 ○ ＦＤＡ（アメリカ食品医薬品局）の専門家委員会、ノババックスの新型コロナウイルスワクチンの緊急使用許可を推奨

6月9日 ● ２０２０年度の「食品ロス」は過去最少の年間約５２２万トン。食品ロス削減意識の高まりや、コロナ禍による営業時間の短縮や外食の機会減少が要因か

6月9日 ● アストラゼネカ、新型コロナウイルスに感染した人の重症化予防に加え、事前に投与することで発症を防ぐ効果が期待される注射薬について厚生労働省に承認申請

6月10日 ● 東京都、２０２０年10月に開始後、新型コロナウィルス感染拡大により約1か月で停止した都民割「もっとTokyo」を再開

6月10日 ● 外国人観光客の受け入れ、ツアー客限定で約2年ぶりに再開。マスク着用など国内のルールをどう守ってもらうかなどの課題も

6月11日 ● サッカーJリーグ、感染対策として禁止してきたスタジアムでの声を出しての応援を再開。プロスポーツで国内初

6月11日 ● アメリカ、現地時間12日より、入国時の新型コロナウイルスの検査の陰性証明義務を撤廃することを発表

6月13日 ○ 第75回トニー賞授賞式、例年通りのスケジュールに戻り、ニューヨークのラジオシティ・ミュージックホールで開催

6月13日 ● 東京都、新たに９６０人の新型コロナウイルス感染を確認。1日の新規感染者数が約5か月ぶりに１０００人を下回る

6月14日 ● 東京都、新型コロナウイルスの重症者数が０人に。都が独自の基準で重症者の集計を開始して以来初。東京都医師会が「屋外でのマスク着用は原則不要」という考え方を示す

6月15日 ● 岸田首相、感染状況改善が確認できれば、旅行代金の割り引きなどを受けられる「県民割」の対象地域を7月から全国に拡大する方針を表明

6月15日 ● 法隆寺、クラウドファンディングで寄付を募ることを発表。新型コロナウイルスの影響により参拝者が大幅に減少し、整備費用などの捻出が困難に

6月15日 ● 5月の訪日外国人旅行者は14万７０００人に上り、2か月連続で10万人超

6月16日 ○ ２０２０年に新型コロナウイルスの影響で延期になった、新劇交流プロジェクト公演２『美しきものの伝説』が俳優座劇場で開幕（～26日）。本作が渡辺美佐子にとって最後の舞台出演に

6月16日 ● 政府、「県民割」を全国に拡大する場合、国からの割り引き支援額引き上げや平日クーポンを休日より高くするなど、旅行客集中を避ける方策も導入する方針

6月17日 ○ 日本芸術文化振興会、建て替え再整備のため、２０２３年10月末でいったん休館する国立劇場で、9月から14か月間にわたり「初代国立劇場さよなら公演」の開催を発表

6月17日 ● 経団連、企業向けガイドラインを見直し、感染者数が減少傾向にある中、マスク着用や「ソーシャルディスタンス」に関する内容を一部緩和

6月17日 ● 観光庁、7月前半から実施するとしていた「県民割」に代わる新たな観光需要の喚起策として「全国旅行支援」を発表

6月17日 ● 政府、新型コロナウイルスなど感染症対策の司令塔機能を強化するため「内閣感染症危機管理庁」を内閣官房に設置することを決定

6月17日 ● 政府、無症状の人への無料の検査を、社会経済活動の回復に向けて需要があるとして8月末まで延長することを決定

6月17日 ● ＦＤＡ（アメリカ食品医薬品局）、ファイザーとモデルナのワクチンについて、接種の対象を生後6か月以降の子どもにまで拡大する緊急使用を許可

6月18日 ● ＶＩＰＯ（特定非営利活動法人映像産業振興機構）が「水際対策措置の変更に伴うキャンセル料支援」（J-LODlive 2）第2回目の申請受付開始

6月19日 ● ＣＤＣ（アメリカ疾病対策センター）、新型コロナウイルスワクチンの接種を5歳未満にも推奨すると発表

6月20日 ○ ミュージカル『ガイズ&ドールズ』（9日～7月9日／帝国劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、21日・22日の公演中止

6月20日 ● Ｇ20（主要20か国の保健相会議）がインドネシアで開催。今後の感染症対策用基金の設立などについて協議

6月21日 ○ ニューヨークのブロードウェイ・リーグが7月以降、入場者のマスク着用義務を撤廃すると発表

6月21日 ○ 国際交流基金（ＪＦ）の舞台公演オンライン配信プロジェクト「STAGE BEYOND BORDERS」が、累計視聴国１１１か国・地域、１０００万ビュー達成

6月21日 ● インプレス総合研究所、動画配信ビジネス市場の動向を調査し、コロナ禍で動画配信の視聴が定着し生活に深く浸透したとする調査結果を発表

6月22日 ● ファイザー、5歳から11歳の子どもへのワクチン接種について、厚生労働省に3回目接種の対象とするよう承認申請

6月22日 ● 新たなコロナ変異ウイルス「BA4」が岡山県で確認。検疫を除いての確認例は国内初

6月23日 ● 東京都、新たに１６９８人の新型コロナウイルス感染を確認。新規感染者数の7日間平均が5週間ぶりに増加

6月25日 ○ 舞台『千と千尋の神隠し』（22日～7月4日／御園座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、25日・26日の公演中止

6月26日 ○ ミュージカル『ガイズ&ドールズ』（9日～7月9日／帝国劇場）、公演関係者に新型コロナウイルス感染が確認されたため、26日13時の開演回を急遽中止

6月26日 ● 東京都、新たに２００４人の新型コロナウイルス感染を確認。9日連続で前週の同じ曜日を上回る

6月27日 ● ミュージカル『ガイズ&ドールズ』（9日～7月9日／帝国劇場）、新たに公演関係者の新型コロナウイルス感染が確認されたため、26日に続き、28日～7月6日まで公演中止期間延長

6月27日 ● 舞台『千と千尋の神隠し』（22日～7月4日／御園座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、25日・26日に続き、28日の公演中止

6月28日 ● 舞台『千と千尋の神隠し』（22日～7月4日／御園座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、25日～28日に続き、29日～7月2日まで公演中止期間延長

6月28日 ● 中国政府、新型コロナウイルスの感染対策として海外からの入国者に義務づけている隔離の期間を、14日間から7日間に短縮すると発表

6月29日 ● 7月3日から大阪松竹座で始まる「七月大歌舞伎」を前に、歌舞伎俳優たちが船に乗って顔見せをする「船乗り込み」が3年ぶりに開催

6月29日 ● プロ野球ソフトバンク、新型コロナウイルスの感染が相次ぎ、ロッテ戦の中止が決定

6月29日 ● 大阪府、新型コロナウイルス感染拡大に備え、介護が必要な患者を専門に受け入れる臨時の医療施設を整備し公開

6月29日 ○ 新型コロナウイルスの影響で2年余り中断されていた羽田空港と韓国・ソウル近郊の金浦空港を結ぶ路線の運航が再開

6月29日 ● 埼玉県、新たに１１７２人の新型コロナウイルス感染を確認。1日の感染者数が１０００人を上回ったのは5月27日以来

6月30日 ● 厚生労働省の専門家会合、新規感染者数が増加に転じたとし、オミクロン株のうちより感染が広がりやすいとされる「BA.5」が国内でも主流になる可能性を指摘

6月30日 ● 東京都、新たに３６２１人の新型コロナウイルス感染を確認。13日連続で前週の同じ曜日を上回る

6月30日 ● 東京都の感染状況について、都の専門家は「感染が再拡大している」と指摘し、警戒レベルを1段引き上げ

7月1日 ● 舞台『千と千尋の神隠し』（6月22日～7月4日／御園座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、6月25日～7月2日に続き、3日まで公演中止期間延長。4日の千穐楽は出演者の一部変更を発表

7月1日 ○ プロ野球ソフトバンク、新型コロナウイルスの感染拡大のため、ロッテ戦に続き西武戦の中止が決定

7月1日 ● 6月に都内で熱中症の疑いで搬送された人は１５１７人。6月としては過去10年で最多

7月1日 ● 富士山の山梨県側で山開き。新型コロナウイルスによる行動制限のない中での山開きは3年ぶり

7月4日 ○ 宝塚歌劇宙組『ミュージカル・プレイ『カルト・ワイン』』（2日～7日／梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、5日から千穐楽まで公演中止

7月4日 ● 市川海老蔵の長女で日本舞踊家市川ぼたんが歌舞伎座初舞台。当初、２０２０年7月に市川團十郎、市川新之助襲名披露興行で実現するはずだったがコロナ禍で中止に

7月4日 ● 大阪府、新たに１１５０人の新型コロナウイルス感染を確認。前週の同じ曜日の2倍近くに増加

7月4日● 国内で新型コロナウイルスワクチンの3回目接種を受けた人が全人口の62％に上る

7月5日○ ミュージカル『ガイズ＆ドールズ』（6月9日～7月9日／帝国劇場）、新たに公演関係者の新型コロナウイルス感染が確認されたため、6月28日～7月6日に続き、7日・8日まで公演中止期間延長

7月5日○ 宝塚歌劇月組『ミュージカル『グレート・ギャツビー』―F・スコット・フィッツジェラルド作『The Great Gatsby』より―』（16日～8月22日／宝塚大劇場）公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から21日まで公演中止

7月5日○ 東京建物 Brillia HALL（豊島区立芸術文化劇場）、主催者や観客の意見を踏まえ、座席改修を発表

7月5日○ 大阪府、新たに4523人の新型コロナウイルス感染を確認。1日の感染者の数が4000人超となるのは5月10日以来

7月5日● 東京都、新たに5302人の新型コロナウイルス感染を確認。1日の感染者の数が5000人超となるのは4月28日以来

7月5日● 京都府、新たに679人の新型コロナウイルス感染を確認。前週の同じ曜日の2倍超の増加

7月6日○ 2020年に新型コロナウイルスの影響で延期になった、ふぉ～ゆ～ meets 梅棒『Only 1, NOT No. 1』がシアタークリエで開幕（～26日）

7月6日○ 劇団四季『オペラ座の怪人』（2022年3月6日～2023年8月27日／大阪四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、6日・7日の公演中止

7月6日○ 全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、1週間前の約2倍となる4万5000人超。オミクロン株「BA5」の影響が懸念される

7月6日○ 東京都、新たに8341人の新型コロナウイルス感染を確認。2日連続で2倍超の増加

7月6日● 大阪府、新たに4621人の新型コロナウイルス感染を確認。前週の同じ曜日の2倍超の増加

7月6日● 日本サッカー協会、19日から開催される東アジア選手権で、“声出し応援”の再開を決定。コロナ禍以後国内で行われる日本代表の試合では初

7月6日● 厚生労働省、新型コロナウイルス感染者の全国的な増加を受けて、病床や検査体制の確保などを進めるよう通知

7月7日● 6月28日～7月8日まで公演を中止したミュージカル『ガイズ＆ドールズ』（6月9日～7月9日／帝国劇場）、公演の続行は困難と判断し、9日の千穐楽公演の中止を発表

7月7日○ 2020年に新型コロナウイルスの影響で延期され、2022年11月・12月に歌舞伎座で開催予定の十三代目市川團十郎白猿襲名披露興行の演目が『勧進帳』『助六由縁江戸桜』などに決定

7月7日○ 東京メトロ、4つの路線で8月下旬から運行本数を削減へ。新型コロナウイルスの影響で在宅勤務が普及し、通勤客が減っていることなどが理由

7月7日○ 東京都、新たに8529人の新型コロナウイルス感染を確認。小池百合子都知事「第7波に入ったとも考えられる」と発言

7月7日○ JTB、この夏に国内旅行に出かける人は、新型コロナウイルスの感染拡大前の水準にほぼ戻るという見通しをまとめる

7月7日● 韓国、1日当たりの新型コロナウイルスの感染者数が1週間前と比べて約2倍に増加。市民活動の活発化や変異ウイルス「BA5」の影響などが指摘されており、韓国政府は警戒を強化

7月7日● 木原官房副長官、新型コロナウィルスの感染再拡大について、現時点では都道府県からまん延防止等重点措置の適用要請はないなどとして、行動制限は行わない考えを示す

7月7日● 中国・北京などで変異ウイルス「BA5」が相次いで確認。西安では1週間飲食店での食事禁止など、感染拡大への警戒強化

7月7日● WHO（世界保健機関）テドロス事務局長、世界で確認された新型コロナウイルスの新規感染者数がこの2週間で30％近く増えたとして、感染対策を引き続き徹底するよう呼びかけ

7月8日○ イベント企画 OZ vol. 14『蒼天の宴』（6日～10日／シアターサンモール）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、8日の公演中止

7月8日● 厚生労働省、98歳の女性で新型コロナウイルスワクチン4回目の接種翌日に死亡を確認。4回目の接種後では初

7月8日● 新型コロナウイルスの影響で延期となっていたワールド・ベースボール・クラシック（WBC）が、2023年3月に開催されることが決定

7月8日● 名古屋工業大学のグループ、AIによる予測で、東京都内の1日の感染者数が7月下旬におよそ1万8000人にまで増加するという試算結果を発表

7月8日● 安倍晋三元首相、参院選に向けた街頭演説中に銃で撃たれ死亡

7月9日● プロ野球ヤクルト、1軍のメンバー14人に新型コロナウイルスの感染が確認されたため、阪神戦の中止が決定

7月9日● 東京都、新たに9716人の新型コロナウイルス感染を確認。1日の感染者数が9000人超となるのは3月30日以来

7月10日○ 『藤山寛美三十三回忌追善喜劇特別公演』（3日～25日／新橋演舞場）、舞台関係者の体調不良により、10日の公演中止

7月10日○ 舞台『ROOTERS～応援者たち～』（6日～10日／東京芸術劇場シアターウエスト）、公演関係者の発熱により千穐楽公演中止

7月10日● プロ野球ヤクルト、チーム内での感染者が27人となり、9日に続き阪神戦が中止

7月10日● 参議院議員選挙投開票。投票率は過去4番目に低い52・05％

7月11日○ 『藤山寛美三十三回忌追善喜劇特別公演』（3日～25日／新橋演舞場）、公演関係者複数名に新型コロナウイルス感染が確認されたため、10日に続き、12日～14日の公演中止

7月11日○ 劇団俳小第48回本公演『闇の河』（15日～24日／サンモールスタジオ）、公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染により、全公演中止

7月11日○ 政府分科会尾身茂会長、「第7波」に入ったという認識を示し、現時点で強い行動制限は必要ないとしたものの、基本的な感染対策徹底を訴え

7月11日● 全日空、新型コロナウイルスの影響で運航を停止していた中国・北京から成田空港への旅客便を約2年3か月ぶりに再開

7月12日● 藤田貴大作・演出の MUM & GYPSY 15th anniversary year vol. 2『cocoon』（9日～17日／東京芸術劇場プレイハウス）、公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染により、12日から千穐楽まで公演中止

7月12日● ジャンル・クロスⅡ〈近藤良平×松井周〉『導かれるように間違う』（10日～18日／彩の国さいたま芸術劇場小ホール）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、12日の公演中止

7月12日● 東京都、新たに1万1511人の新型コロナウイルス感染を確認。1日の感染者数が1万人超となるのは3月16日以来

7月12日○ 大阪府、新型コロナウイルスの感染状況などを伝える独自の基準「大阪モデル」を「警戒」を示す「黄色」に引き上げ

7月12日○ オミクロン株の系統の一つで「BA2.75」と呼ばれる新たな変異ウイルスが神戸市で確認。国内の検疫を除いて全国で初

7月13日○ Daiwa House Special 音楽劇『クラウディア』Produced by 地球ゴージャス（4日～24日／東京建物 Brillia HALL）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、14日・15日の公演中止

7月13日○ 神奈川県、新たに6193人の新型コロナウイルス感染を確認。1日の感染者数が6000人超となるのは3月15日以来

7月13日● 大阪府、新たに1万4452人の新型コロナウイルス感染を確認。1日の感染者数が1万人超となるのは2月26日以来

7月13日● 政府、新型コロナウィルスの感染再拡大を受け、観光需要の新たな喚起策「全国旅行支援」の実施を当面見送る方針。これに伴い、実施中の「県民割」の期限を8月末まで延長する方針

7月14日○ 大阪松竹座「七月歌舞伎」（3日～24日）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、昼の部『浮かれ心中』は一部演出を変更し、夜の部『堀川波の鼓』は代役にて上演

7月14日○ 『『Dr. STONE』THE STAGE ～SCIENCE WORLD～』（9日～18日／サンシャイン劇場）、公演関係者発熱のため、14日の公演中止。PCR検査の結果、新型コロナウイルス感染が確認されたため、千穐楽まで公演中止を発表

7月14日● 国内の新型コロナウイルス感染者、東京で3日連続1万人超。沖縄、福岡、三重、青森など過去最多を更新

7月14日 ●東京都、新型コロナウイルスの感染拡大の深刻さを示す都独自の警戒度を最高レベルに引き上げ
7月15日 ○劇団四季『オペラ座の怪人』（2022年3月6日～2023年8月27日／大阪四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、15日～18日の公演中止
7月15日 ●東京都、7月末まで試験的に実施するとしていた都民の都内旅行費用の助成事業「もっとTokyo」について、期限を延長せずに終了を発表
7月16日 ●全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、過去最多となる11万675人。14県でも過去最多を更新
7月17日 ○こまつ座第142回公演『紙屋町さくらホテル』（3日～18日／紀伊國屋サザンシアター）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、17日および千穐楽の公演中止
7月18日 ○歌舞伎座「七月大歌舞伎」（4日～29日）第一部『當世流小栗判官』、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、18日・19日公演中止
7月19日 ○歌舞伎座「七月大歌舞伎」（4日～29日）第三部『風の谷のナウシカ』、公演関係者複数名に新型コロナウイルス感染が確認されたため、第二部『夏祭浪花鑑』『雪月花三景』および第三部の19日公演中止
7月19日 ○内野聖陽・岡本圭人出演『M：バタフライ』（23日・24日／キャナルシティ劇場）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、全公演中止
7月19日 ○タカハ劇団『ヒトラーを画家にする話』（20日～24日／東京芸術劇場シアターイースト）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、全公演中止
7月19日 ○燐光群公演『プレスレス ゴミ袋を呼吸する夜の物語』（15日～31日／下北沢ザ・スズナリ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から22日まで公演中止
7月19日 ○劇団四季『ノートルダムの鐘』（5月21日～8月7日／KAAT神奈川芸術劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、20日の公演中止
7月20日 ○ミュージカル『ガイズ&ドールズ』（16日～29日／博多座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、20日の公演中止
7月20日 ○松竹、歌舞伎座「七月大歌舞伎」（4日～29日）において、罹患者のみならず濃厚接触者の疑いのある周辺関係者の今後の健康状態を鑑み、21日・22日の全公演中止を発表
7月20日 ○劇団四季『ノートルダムの鐘』（5月21日～8月7日／KAAT神奈川芸術劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、20日に続き、21日～24日まで公演中止期間延長。27日より再開
7月20日 ○2022年夏休みファミリー劇場劇団東少公演ミュージカル「人魚姫」（23日～25日／三越劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、全公演中止を発表
7月20日 ●全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、過去最多となる15万2536人。30府県でも過去最多を更新
7月20日 ●東京都、新たに2万401人の新型コロナウィルス感染を確認。1日の感染者数が2万人超となるのは2月5日以来
7月20日 ●厚生労働省の薬事分科会と専門部会、塩野義製薬の新型コロナウイルス感染症の飲み薬「ゾコーバ」の緊急承認を見送り、審議を継続することを決定
7月20日 ●CDC（疾病対策センター）、アメリカで新たに新型コロナウイルスに感染した人のうち8割近くが、感染力の強い「BA.5」とみられる分析結果を発表
7月20日 ●大相撲七月場所（愛知県体育館）の11日目、新型コロナウイルス感染による力士の休場が続出し時間稼ぎの「お掃除タイム」が発生
7月21日 ○シス・カンパニー『ザ・ウェルキン』（7日～31日／Bunkamura シアターコクーン）、公演関係者の濃厚接触者該当により、21日～24日まで公演中止
7月21日 ○劇団四季『キャッツ』（7月18日～／名古屋四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、22日～24日の公演中止
7月21日 ○燐光群公演『プレスレス ゴミ袋を呼吸する夜の物語』（15日～31日／下北沢ザ・スズナリ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から22日に続き、23日まで公演中止期間延長
7月21日 ○29日から帝国劇場で開幕するミュージカル『ミス・サイゴン』、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、24日～27日までのプレビュー公演中止
7月21日 ○ネビュラエンタープライズ、新型コロナウイルス感染症の影響により公演が中止になり、劇場で配布できなかった公演チラシ束を希望者に送付するとTwitterで呼びかけ
7月21日 ○早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点主催、シンポジウム「劇場・博物館における舞台芸術資料アーカイブの課題と展望」を開催。新国立劇場、彩の国さいたま芸術劇場、東京芸術劇場、演劇博物館の各資料担当者が登壇
7月21日 ●全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、2日連続で過去最多となる18万6246人。東京都でも初の3万人超となる3万1878人が感染し、35都府県でも過去最多を更新
7月21日 ●プロ野球巨人で新型コロナウイルスの感染が相次ぎ、中日との3連戦が中止
7月21日 ●アメリカホワイトハウス、バイデン大統領が新型コロナウイルス検査で陽性だったと発表
7月21日 ●全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、2日連続で過去最多となる18万6246人。35都府県でも過去最多を更新
7月22日 ○松竹、歌舞伎座「七月大歌舞伎」（4日～29日）の公演関係者で更に40名の陽性者が確認されたため、21日・22日に続き、千穐楽までの全公演中止を発表。
7月22日 ○文化審議会が、重要無形文化財保持者を新たに発表。各個認定（人間国宝）に、歌舞伎立役の中村梅玉、義太夫節三味線の鶴澤津賀寿ら5人を選出
7月22日 ●新型コロナウイルスワクチンの4回目接種、60歳以上などに限定している対象者を医療従事者や介護職員などにも拡大
7月22日 ○全国の新型コロナウイルスの新規感染者数が初めて18万人を超えたことなどを受け、厚生労働省の専門家会合から「緊急事態宣言を検討する時期ではないか」という意見が出される
7月22日 ●政府、濃厚接触者に求める待機期間をこれまでの原則7日間から5日間に短縮し、2日目と3日目の抗原検査が陰性であれば、3日目に待機解除を決定
7月22日 ●全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、3日連続で過去最多となる19万5159人。22都道府県でも過去最多を更新
7月23日 ○劇団四季『キャッツ』（7月18日～／名古屋四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、22日～24日に続き、28日まで公演中止期間延長
7月23日 ○劇団四季『バケモノの子』（4月30日～2023年3月21日／JR東日本四季劇場［秋］）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、23日・24日の公演中止
7月23日 ○劇団四季『人間になりたがった猫』（23日～8月28日／自由劇場）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、24日の公演中止
7月23日 ●全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、4日連続で過去最多となる20万9975人。17道府県でも過去最多を更新
7月23日 ○WHO（世界保健機関）、欧米などを中心に報告が相次ぐ「サル痘」について「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言
7月24日 ○劇団四季『オペラ座の怪人』（2022年3月6日～2023年8月27日／大阪四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、24日～28日の公演中止
7月25日 ○29日から帝国劇場で開幕するミュージカル『ミス・サイゴン』、新たに複数の関係者から新型コロナウイルスの陽性反応が確認されたため、24日～27日に続き、25日～28日までの全プレビュー公演が中止に
7月25日 ○NODA・MAP『『Q：A Night At The Kabuki Inspired by A Night At The Opera』（29日～9月11日／東京芸術劇場プレイハウス）、公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染により、初日から31日まで公演中止を発表
7月25日 ○一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク、「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン（第五版）」（7月22日改定）を公開。舞台から客席まで2m以上が2m程度に、客席の飲食も条件付きで可能に
7月25日 ○劇団四季『キャッツ』（7月18日～／名古屋四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、22日～28日に続き、30日まで公演中止期間延長
7月25日 ○一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク、「年次シンポジウム 2022」（第1部 7月25日、

7月25日○ 第2部〜第3部8月1日）を開催
Snow Man 岩本照主演の映画「モエカレはオレンジ色」、コロナ禍で「応援上映」に変わる「無発声応援上映」の開催が決定。うちわ・ペンライトなどの応援グッズを持ち込み、手拍子・拍手などで楽しむ鑑賞形態

7月25日● 厚生労働省、新型コロナウイルスワクチンを接種したあとに亡くなった90代の女性について、接種が原因で死亡した可能性が否定できないとして、法律に基づく死亡一時金を初めて支給することを決定

7月26日○ 『関西ジャニーズ Jr. Space Journey！〜僕たちの軌跡〜』（30日〜9月4日／大阪松竹座）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、初日から8月5日まで公演中止

7月26日○ 初日から25日まで公演中止になった燐光群公演『プレスレス ゴミ袋を呼吸する夜の物語』（15日〜31日／下北沢ザ・スズナリ）が26日より開幕

7月26日○ TBS & HORIPRO present 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（TBS赤坂ACTシアター）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、26日の公演が開場後に中止。27日の公演も中止し、28日から再開

7月26日○ 宝塚歌劇雪組『ミュージカル『心中・恋の大和路』〜近松門左衛門『冥途の飛脚』より〜』（20日〜28日／梅田芸術劇場シアター・ドラマシティ）、公演関係者の体調不良により、26日から千穐楽まで公演中止。PCR検査の結果、新型コロナウイルス感染が確認されたため、8月3日・4日の東京公演も中止に

7月26日● サッカーJ1、浦和レッズに対し過去最高の額に並ぶ2000万円の罰金を科すことを決定
して、浦和レッズに対し過去最高の額に並ぶ2000万円の罰金を科すことを決定

7月27日○ プレビュー公演が全て中止になったミュージカル『ミス・サイゴン』（29日〜8月31日／帝国劇場）、30日13時開演回は中止し、29日18時開演回から8月2日まで一部キャスト変更のうえ開幕を発表

7月27日○ 宝塚歌劇花組『ミュージカル『巡礼の年〜リスト・フェレンツ、魂の彷徨〜』『ショー グルーヴ『Fashionable Empire』』（30日〜9月4日／東京宝塚劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から8月9日まで公演中止

7月27日○ ジャンル・クロスⅡ〈近藤良平×松井周〉『導かれるように間違う』（31日／北九州芸術劇場中劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により公演中止

7月27日● 全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、過去最多の20万9694人。25道府県でも過去最多を更新

7月27日● プロ野球ヤクルトスワローズの球団マスコット「つば九郎」が新型コロナウイルスに感染

7月27日● WHO（世界保健機関）、18日〜24日までの1週間あたりの新型コロナウイルス新規感染者数において、日本が96万9068人で世界最多とする報告書を発表

7月27日● 大阪府、感染状況を示す独自基準「大阪モデル」の警戒レベルを約3か月ぶりに最高の「赤色」に引き上げ

7月28日○ 文部科学省、全国の社会教育施設を対象とした利用者数の調査で、2020年度の博物館や図書館、劇場などの利用者数がコロナ禍の影響により過去最低となる調査結果を発表

7月28日○ 劇団四季『バケモノの子』（4月30日〜2023年3月21日／JR東日本四季劇場［秋］）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、23日・24日に続き、8月4日まで公演中止期間延長

7月28日○ 少年社中『クアンタム―TIMESLIP 黄金丸―』（8月4日〜14日／紀伊国屋ホール）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日の公演中止を発表

7月28日○ 音楽劇『スラムドッグ$ミリオネア』（8月1日〜21日／シアタークリエ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から4日まで公演中止

7月28日○ 劇団四季『人間になりたがった猫』（23日〜8月28日／自由劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、29日〜31日まで公演中止

7月28日○ 劇団四季『ライオンキング』（2021年9月26日〜／有明四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、28日〜30日まで公演中止

7月28日● 全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、過去最多の23万3094人。東京都でも初の4万人超となる4万406人が感染し、18都道府県で過去最多を更新

7月28日● 政府分科会、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを5類相当を念頭に見直しを提起する方向で調整に入る

7月29日○ 神保町の映画館「岩波ホール」、コロナ禍の影響で運営が困難になったとして閉館。54年の歴史に幕

7月29日○ 宝塚歌劇月組『ミュージカル『グレート・ギャツビー』―F・スコット・フィッツジェラルド作『The Great Gatsby』より―』（16日〜8月22日／宝塚大劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、29日から8月2日まで公演中止

7月29日○ SUPERNOVA（超新星）ユナク演出の舞台『オオカミの誘惑』（23日〜31日／博品館劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、29日から千穐楽まで公演中止

7月29日○ 若獅子結成三十五周年記念公演『知覧へ』『殺陣 春夏秋冬』（9日〜12日／両国シアターX）、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から全公演中止

7月29日○ ジャニーズ事務所、公式サイトで「ジャニーズグループ主催公演に関するお知らせ」を掲載し、今後の主催コンサートで「グループ内に感染者が出ましても公演を実施する場合がございます」と告知

7月29日○ 日本人の平均寿命が10年ぶりに前の年を下回る。新型コロナウイルスの流行に伴い、感染して亡くなる高齢者などが増えたことが要因の一つに

7月29日● 政府、新型コロナウイルスの感染急拡大を受け、都道府県が独自に「BA.5 対策強化宣言」を出す仕組みを導入

7月30日● アメリカホワイトハウス、バイデン大統領が新型コロナウイルス検査で再び陽性になったと発表

7月31日○ TBS & HORIPRO present 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（TBS赤坂ACTシアター）、開場時間直前に公演関係者の新型コロナウイルス感染が確認されたため、31日・8月2日の公演が急遽中止に

8月1日○ 劇団四季『人間になりたがった猫』（7月23日〜8月28日／自由劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、7月29日〜31日に続き、4日まで公演中止期間延長を発表

8月1日○ 滝沢秀明演出オリジナルミュージカル『流星の音色』（2日〜17日／新橋演舞場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日および3日の公演中止

8月1日○ 舞台『ゲゲゲの鬼太郎』（7月29日〜8月15日／明治座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、2日〜4日の公演中止

8月1日○ パルコ・プロデュース2022『VAMP SHOW』（8日〜28日／PARCO劇場）、公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染により、初日から15日までの公演を中止し、17日より開幕

8月1日● 厚生労働省、医療機関や保健所から新型コロナウィルス患者の全数報告を求めているが、現場の負担が大きいため調査方法の見直しを検討

8月2日○ 宝塚歌劇月組『ミュージカル『グレート・ギャツビー』―F・スコット・フィッツジェラルド作『The Great Gatsby』より―』（16日〜8月22日／宝塚大劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、7月29日〜8月2日に続き、3日〜14日まで公演中止期間延長

8月2日○ TBS & HORIPRO present 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（TBS赤坂ACTシアター）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、7月31日・2日に続き、3日〜10日まで公演中止期間延長

8月2日○ 『気づかいルーシー』（4日〜14日／東京芸術劇場シアターイースト）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、3日のプレビュー公演および7日まで公演中止

8月3日○ 舞台『ゲゲゲの鬼太郎』（7月29日〜8月15日／明治座）、新たに公演関係者の新型コロナウイルス感染が確認されたため、2日〜4日に続き、5日〜8日まで公演中止期間延長

8月3日○ ケラリーノ・サンドロヴィッチ作・演出のCOCOON PRODUCTION 2022+CUBE 25th PRESENTS, 2022『世界は笑う』（7日〜28日／Bunkamura シアターコクーン）、公演関係者数名の新型コロナウイルス感染により開幕延期を発表。初日から11日13時開演回まで公演を中止し、11日18時30分開演回より開幕予定

8月3日● 全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、過去最多の24万9830人。24道府県でも過去最多を更新

8月3日●東京都、医療機関の負担軽減のため、自主検査で陽性だった場合にみずからオンラインで登録する「陽性者登録センター」を開設

8月4日○音楽劇『スラムドッグ$ミリオネア』（8月1日～21日／シアタークリエ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から4日に続き、6日13時開演回を中止し、18時公演回より開幕を発表

8月4日●ＷＨＯ（世界保健機関）、７月25日～31日までの１週間あたりの新型コロナウイルス新規感染者数において、日本が１３７万９０９９人で２週連続世界最多と発表

8月6日○弁護士の福井健策が自身のTwitterで、緊急事態舞台芸術ネットワーク事務局が集計した舞台の中止公演数を発表。把握できただけで、１月１日～６月30日の第６波が計８５５ステージだったのに対して、７月１日～31日だけで６７６ステージと月平均で約４・７倍に

8月6日○国内最大規模の野外音楽フェスティバル「ロック・イン・ジャパン・フェスティバル」、感染対策などをとり、千葉市に場所を変えて３年ぶりに開催

8月6日●夏の全国高校野球が甲子園球場で開幕。代表校の選手たちの感染拡大により、キャプテンのみが入場行進する形式に変更

8月7日○『気づかいルーシー』（４日～14日／東京芸術劇場シアターイースト）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、３日のプレビュー公演および７日までの中止に続き、残りの全公演が中止に

8月7日○舞台『漆黒天―始の語り―』（５日～21日／サンシャイン劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、７日の公演中止

8月8日○舞台『漆黒天―始の語り―』（５日～21日／サンシャイン劇場）、新たに公演関係者の新型コロナウイルス感染が確認されたため、７日に続き、９日～14日まで公演中止期間延長発表

8月8日○宝塚歌劇団、宝塚大劇場で10月25日に開催を予定していた、第56回『宝塚舞踏会』を新型コロナウイルスの感染拡大により開催見送りと発表

8月8日○舞台『ゲゲゲの鬼太郎』（７月29日～８月15日／明治座）、公演関係者に新型コロナウイルス感染により、２日～８日に続き、９日～12日まで公演中止期間延長。13日より再開

8月8日○シルク・ドゥ・ソレイユの日本公演『ダイハツ アレグリア―新たなる光―』が、２０２３年２月より東京・お台場、７月より大阪で開催。５年ぶりに日本上陸

8月9日○滝沢秀明演出オリジナルミュージカル『流星の音色』（２日～17日／新橋演舞場）、公演関係者の体調不良により、９日12時開演回を中止し、17時公演回より一部キャストを変更して上演

8月10日○TBS & HORIPRO present 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（ＴＢＳ赤坂ＡＣＴシアター）、公演関係者に新型コロナウイルス感染により、７月31日～８月10日続き、11日～13日まで公演中止期間を延長し、14日から一部キャストを変更して再開

8月10日○演劇緊急支援プロジェクト、新型コロナウイルス第７波での公演中止の激増を受け、４日・10日に、公演中止の損失補填に焦点を絞った緊急要望を関係大臣・議員に提出

8月10日●全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、過去最多の25万４０３人。20道県でも過去最多を更新

8月11日○滝沢秀明演出オリジナルミュージカル『流星の音色』（２日～17日／新橋演舞場）、再び公演関係者の新型コロナウイルス感染により、11日17時開演回および12日の公演中止

8月11日●ＷＨＯ（世界保健機関）、１日～７日までの１週間あたりの新型コロナウイルス新規感染者数において、日本が１４９万６９６８人で３週連続世界最多と発表

8月12日○劇団四季『ライオンキング』（２０２１年９月26日～／有明四季劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、12日・13日の公演中止

8月12日○PANCETTA 13th performance『蝉』（19日～22日／下北沢駅前劇場）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により公演を延期し、９月８日～11日にシアターグリーン BASE THEATER にて上演を発表

8月12日○宝塚歌劇月組『ミュージカル『グレート・ギャツビー』―F・スコット・フィッツジェラルド作 "The Great Gatsby" より―』（16日～８月22日／宝塚大劇場）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、７月29日から８月14日に続き、15日から18日まで公演中止期間延長。19日より再開

8月13日○舞台『漆黒天―始の語り―』（５日～21日／サンシャイン劇場、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、７日～14日に続き、16日の公演を中止し18日18時に追加公演を発表

8月14日○歌舞伎座「八月納涼歌舞伎」（５日～30日）第三部『弥次喜多流離譚』、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、一部演出を変更して上演

8月15日○歌舞伎座「八月納涼歌舞伎」（５日～30日）第一部『新選組』『闇梅百物語』、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、15日～17日まで公演中止。19日から中村勘九郎、中村七之助が代役で再開

8月16日○流山児★事務所『夢・桃中軒牛右衛門の』（10日～17日／下北沢小劇場 B1）、公演関係者の発熱により、16日および千穐楽の公演中止

8月16日○舞台『漆黒天―始の語り―』（５日～21日／サンシャイン劇場）。公演出演者の新型コロナウイルス感染により、７日～16日に続き、17日～18日13時開演回まで公演中止期間を延長し、18時開演回より一部出演者を変更して再開を発表

8月16日●イギリス、モデルナが開発したオミクロン株対応のワクチンを承認。オミクロン株対応のワクチンが承認されたのは世界初

8月17日○『ミュージカル『テニスの王子様』4thシーズン 青学vs聖ルドルフ・山吹』（18日～28日／天王洲銀河劇場）公演出演者の新型コロナウイルス感染により、18日の東京凱旋公演中止。19日から一部演出を変更して再開

8月17日●厚生労働省、新型コロナウイルスの抗原検査キットについて、インターネットでの販売を解禁することを決定

8月18日○『シュレック・ザ・ミュージカル』（15日～28日／東京建物 Brillia HALL）、公演関係者の体調不良者が確認されたため、18日18時開演回を急遽中止

8月18日○歌舞伎座「八月納涼歌舞伎」（５日～30日）第三部『弥次喜多流離譚』、舞台関係者複数名の体調不良および陽性が確認されたため、19日の公演中止を発表

8月18日●全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、過去最多の25万５５３４人。21道県でも過去最多を更新

8月19日○歌舞伎座「八月納涼歌舞伎」（５日～30日）第二部『安政奇聞佃夜嵐』『浮世風呂』、舞台関係者複数名の体調不良および陽性が確認されたため公演中止。第二部・第三部とも20日より一部配役、演出を変更して再開

8月19日○『シュレック・ザ・ミュージカル』（15日～28日／東京建物 Brillia HALL）、新たに公演関係者の発熱が確認されたため、18日18時開演回に続き、19日～21日まで公演中止

8月19日○コロナ禍でパリ・オペラ座に何が起こったのか、舞台裏を伝えるドキュメンタリー映画「新章パリ・オペラ座 特別なシーズンの始まり」が全国順次ロードショー

8月19日○松本白鸚主演のミュージカル『ラ・マンチャの男』、２０２２年２月の公演が最後とされていたが、新型コロナウイルスの影響で中止が相次いただため、よこすか芸術劇場で２０２３年４月14日～24日まで上演決定

8月19日●ＷＨＯ（世界保健機関）、８日～14日までの１週間あたりの新型コロナウイルス新規感染者数において、日本が１３９万５３０１人で４週連続世界最多、死者数がアメリカに次いで２番目に多いと発表

8月20日○宝塚歌劇花組『ミュージカル『巡礼の年―リスト・フェレンツ、魂の彷徨―』』『ショー グルーヴ『Fashionable Empire』』（７月30日～９月４日／東京宝塚劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、20日～26日まで公演中止

8月21日○日生劇場ファミリーフェスティヴァル ２０２２ ＮＨＫみんなのうたミュージカル『リトル・ゾンビガール』（20日～28日／日生劇場）、公演出演者の体調不良により、21日の公演中止

8月21日●岸田首相、新型コロナウイルスに感染

8月22日○ミュージカル『ミス・サイゴン』（29日～８月31日／帝国劇場）公演関係者の新型コロナウイルス感染により、22日～24日まで公演中止。26日から一部キャストを変更して再開

8月22日○『シュレック・ザ・ミュージカル』（15日～28日／東京建物 Brillia ホール）、新たに公演出演者の陽性が確認されたため、18日18時開演回から21日に続き、23日・24日まで公演中止期間延長。25日から一部キャストを変更して再開

8月22日○日生劇場ファミリーフェスティヴァル ２０２２ ＮＨＫみんなのうたミュージカル『リトル・ゾン

8月22日
ビガール』（20日～28日／日生劇場）、公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染が確認されたため、21日に続き、22日から千穐楽まで公演中止

8月22日
9月10日に公開予定だった、人気アニメ「ソードアート・オンライン（SAO）」の新作映画「劇場版ソードアート・オンライン―プログレッシブ―冥き夕闇のスケルツォ」が、新型コロナウイルス感染拡大の影響により制作遅延のため公開延期を発表
ファイザーとドイツのビオンテック、オミクロン株の「BA.4」「BA.5」に対応するワクチンについて、FDA（アメリカ食品医薬品局）に緊急使用の許可を申請

8月23日
新型コロナウイルスによる死亡者が343人に。2月22日の322人を上回り過去最多

8月23日
政府、新型コロナウィルス感染者の全数把握について見直し。医療機関に対し症状など詳しい報告を求める対象を、重症化リスクの高い人に限定する方向で調整

8月23日
モデルナ、オミクロン株の「BA.4」「BA.5」に対応するワクチンについて、FDA（アメリカ食品医薬品局）に緊急使用の許可を申請

8月24日
21日までの1週間に全国で確認された新型コロナウイルスのクラスターは1446件。高齢者福祉施設と医療機関では過去最多

8月25日
宝塚歌劇花組『ミュージカル『巡礼の年～リスト・フェレンツ、魂の彷徨～』『ショー グルーヴ『Fashionable Empire』』（7月30日～9月4日／東京宝塚劇場）公演関係者の新型コロナウイルス感染により、20日～26日に続き、27日～9月3日まで公演中止期間延長し、千穐楽公演は実施

8月25日
政府、8月末までを期限に実施している「県民割」について、9月末まで期限の延長を決定。対象を全国に拡大する新たな喚起策「全国旅行支援」は実施の時期をさらに先送り

8月25日
WHO（世界保健機関）、15日～21日までの1週間あたりの新型コロナウィルス新規感染者数において、日本が147万6374人で5週連続世界最多

8月26日
ミュージカル『夜の女たち』（9月3日～19日／KAAT神奈川芸術劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から8日まで公演を中止し、初日を9日に延期して開幕を発表

8月26日
40周年を記念した「SCOTサマー・シーズン2022」が利賀で開幕（～9月11日）。鈴木忠志（富山県南砺市）、宮城聰（静岡県静岡市）、平田オリザ（兵庫県豊岡市）、中島諒人（鳥取県鳥取市）が「桃太郎の会」を設立し、各地域で制作した作品を合同で上演する企画も

8月26日
徳島市で3年ぶりに本格開催された阿波踊り（12～15日）で、出演者660人に新型コロナウイルスの感染確認。徳島市長は「阿波おどりが要因の一つであるかもしれない」という認識を示す

8月27日
アメリカ、ジョンズ・ホプキンス大学のまとめによると、これまでに新型コロナウイルスの感染が確認された人が世界全体で6億人超

8月27日
政府、感染症対策の司令塔として設ける新しい組織の名称を「内閣感染症危機管理統括庁」とし、来年度中の創設を目指して調整に入る

8月28日
劇団四季『バケモノの子』（4月30日～2023年3月21日／JR東日本四季劇場［秋］）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、28日の公演中止

8月29日
中村芝翫主演『夏の夜の夢』（9月6日～28日／日生劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日の公演中止を発表

8月30日
早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点主催、日韓国際オンラインシンポジウム「ポストコロナ時代の劇場――未来の劇場のために」を開催。登壇者は、本多愼一郎、平田オリザ等

8月30日
厚生労働省、感染者の重症化予防に加え、事前に投与することで発症を防ぐ効果が期待される、イギリスのアストラゼネカ注射薬の使用を正式に承認

8月30日
厚生労働省、ファイザー製のワクチンについて、5歳から11歳までの子どもの3回目接種で使用することを正式に承認

8月30日
政府、オミクロン株に対応したワクチンの接種について、当初の予定を前倒しし、早ければ9月中に開始する方向で調整

8月31日
インフルエンザワクチンの供給量、新型コロナウイルスとの同時流行が懸念されることなどから過去最大となる見通し

8月31日
国の承認を受けた新型コロナウイルスの抗原検査キットが、薬局や大手通販サイトのホームページで販売を開始

8月31日
WHO（世界保健機関）、22日～28日までの1週間あたりの新型コロナウィルス新規感染者数において、日本が125万8772人で6週連続世界最多

9月1日
国立劇場、コロナ禍で財務状況の悪化により、研修生を支援するためのクラウドファンディングを初めて実施

9月1日
「東京芸術祭 2022」が豊島区池袋エリアで開幕（～12月11日）。舞台芸術の上演や配信、地域を巻き込んだ催しなどから成る「東京芸術祭プログラム」、人材育成と教育普及を掲げた「東京芸術祭ファーム」の2つの柱で構成

9月1日
厚生労働省、新たな感染症が起き、医師や看護師の確保が難しい場合に、特例として歯科医師や臨床検査技師など5つの職種をワクチン接種の担い手として認める方針を決定

9月1日
FDA（アメリカ食品医薬品局）、モデルナやファイザーがそれぞれ開発したオミクロン株「BA.4」と「BA.5」に対応するワクチンについて、追加接種に対する緊急使用を許可

9月1日
CDC（アメリカ疾病対策センター）、モデルナとファイザーなどがそれぞれ開発した、オミクロン株に対応するワクチンについて、追加接種としての使用を正式に推奨を発表

9月2日
劇団四季『バケモノの子』（4月30日～2023年3月21日／JR東日本四季劇場［秋］）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、8月28日に続き、2日の公演中止

9月2日
立教大学で公開シンポジウム「劇場法は何をもたらしたのか：施行10年とコロナ禍の3年」開催。後藤隆基企画、登壇者は高萩宏、宮城聰、米屋尚子、内野儀、内田洋一

9月2日
全国の新型コロナウイルスによる死者数、1日の発表では過去最多となる347人

9月3日
国立劇場で「初代国立劇場さよなら公演」令和4年9月文楽公演（3日～20日）が開幕。第一部の『碁太平記白石噺 逆井村の段』は51年ぶりに上演

9月5日
NPB（日本野球機構）、10月20日に行われるプロ野球のドラフト会議について、3年連続で無観客開催を決定

9月6日
厚生労働省、5歳から11歳の子どものワクチン接種について、接種を受けるよう努めなければならないとする「努力義務」の適用を開始

9月7日
松竹、歌舞伎座の体制を10月から変更し、客席内およびロビーでの黙食可、座布団、ブランケットの貸出再開、劇場スタッフによる入場時の切符もぎり再開を発表

9月7日
中村芝翫主演『夏の夜の夢』（6日～28日／日生劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日に続き8日の公演を中止し、9日13時開演回より開幕

9月7日
政府、新型コロナウイルス感染者の療養期間について、症状がある人は今の原則10日間から7日間に、無症状の人は陰性が確認されることを条件に7日間から5日間に短縮する方針を固める

9月7日
加藤厚生労働大臣、新型コロナウイルスに感染した自宅療養者の行動制限について、無症状者など感染対策を講じていれば、必要最小限の外出を認める外出制限緩和を示す

9月7日
新型コロナウイルスの水際対策が緩和され、すべての入国者に求めてきた陰性証明書の提出が、3回目のワクチン接種を済ませていることを条件に免除

9月8日
国立感染症研究所（NIID）、オミクロン株の一種で、海外でも報告されていないタイプの変異ウイルスが、先月、海外から日本に到着した人で検出されたと発表

9月8日
厚生労働省の専門家会合、新型コロナウイルスの新規感染者数は全国的に高い感染レベルが続いているものの着実に減少していると分析

9月8日
WHO（世界保健機関）、8月29日～9月4日までの1週間あたりの新型コロナウィルス新規感染者数において、日本が116万4787人で7週連続世界最多

9月9日
堂本光一主演ミュージカル『Endless SHOCK』（5日～10月2日／博多座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、9日の公演中止

9月9日
加藤厚生労働大臣、新型コロナウイルスの感染症法上の扱いをインフルエンザと同じ「5類」への引き下げについて、現時点では現実的ではないとし、必要に応じて見直しを検討する考えを示す

9月10日
ミュージカル『モダン・ミリー』（7日～26日／シアタークリエ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、10日～12日公演中止。14日から一部キャストを変更して再開

9月10日
ブロードウェイミュージカル『ビビン』（8月30日～9月19日／東急シアターオーブ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、10日～17日まで公演中止

●9月13日　河野デジタル大臣、新型コロナウイルスの接触確認アプリ「ＣＯＣＯＡ」について、感染者の全数把握が見直されることに伴い機能を停止する方針を示す

●9月13日　ファイザー、オミクロン株「BA.5」に対応する成分が含まれるワクチンについて厚生労働省に承認を求める申請

○9月14日　新型コロナウイルスの感染拡大で、休演が続いていたアメリカ・ブロードウェイミュージカルが再開してから1年。全体の観客の数はコロナ前の水準までは戻っていないものの、再開以後、１０００万人以上が観劇

●9月14日　大阪府、感染状況などを伝える独自の基準「大阪モデル」を、非常事態を示す「赤色」から警戒を示す「黄色」に引き下げ、高齢者施設での面会自粛の要請を解除

●9月14日　ＷＨＯ（世界保健機関）テドロス事務局長、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の現状について「まだ到達していないが、終わりが視野に入ってきた」と述べたうえで、収束に向けて感染拡大防止の取り組みの継続を訴える

●9月14日　ＷＨＯ（世界保健機関）、５日～11日までの１週間あたりの新型コロナウィルス新規感染者数において、日本が53万７１８１人で８週連続世界最多

●9月15日　『ライブ・スペクタクル『NARUTO―ナルト―』～忍界大戦、開戦～』（17日～25日／天王洲銀河劇場）、公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染により、全公演中止

○9月15日　全国から兵庫県の但馬地域にアーティストが集まり、１００演目以上が予定される「豊岡演劇祭２０２２」が２年ぶりに開幕（～25日）

●9月15日　モデルナのバンセルＣＥＯ、日本にワクチンの製造拠点の整備を検討しているとして、今後、日本政府と協議する考えを示す

●9月15日　東京都、約２か月ぶりに最も深刻だったレベルを１段階引き下げ

●9月16日　２０２０年に新型コロナウイルスの影響で終盤の公演が中止になった、吉田鋼太郎演出・出演、阿部寛主演の舞台『ヘンリー八世』彩の国さいたま芸術劇場大ホールで開幕（～25日）

●9月16日　渡辺直美主演ミュージカル『ヘアスプレー』（17日～10月２日／東京建物 Brillia HALL）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日および18日の公演中止。19日から一部キャストを変更して再開

●9月16日　ニューヨーク・ブロードウェイで長年上演されてきたミュージカル「オペラ座の怪人」、新型コロナウイルス流行の影響により２０２３年２月18日に終演を発表。最長35年の歴史に幕

●9月17日　ブロードウェイミュージカル『ビビン』（8月30日～9月19日／東急シアターオーブ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、10日～17日に続き、千穐楽まで公演中止

●9月17日　大阪「岸和田だんじり祭」が、３年ぶりに制限なしで開催

○9月18日　紅ゆずる主演『アンタッチャブル・ビューティー～浪花探偵狂騒曲～』（17日～25日／大阪松竹座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、18日～24日まで公演中止。千穐楽は一部演出を変更し代役にて公演を実施

○9月20日　公益社団法人全国公立文化施設協会「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を９月20日付で改訂。差し入れ・来場者の楽屋エリア立入り禁止、緊急連絡先把握を削除

●9月20日　新型コロナウイルスのオミクロン株に対応したワクチン接種開始。従来のワクチンで２回目までを終えた12歳以上のすべての人が対象

●9月21日　劇団 SHOW & GO FESTIVAL 第26回公演『アチューイ!!―温度計を見たか⁉―』（21日～25日／小劇場楽園）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、全公演中止

○9月22日　一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク、舞台芸術関係者専門の医療センター「Cue」を開設。舞台芸術に精通した専門オペレーターが24時間３６５日、正会員の創作活動を医療面から支援する業界初の取り組み。相談窓口、緊急ＰＣＲ検査などを提供

●9月22日　ＷＨＯ（世界保健機関）、12日～18日までの１週間あたりの新型コロナウィルス新規感染者数において、日本が60万５９１９人で９週連続世界最多

●9月23日　韓国、屋外でのマスク着用の義務を26日で全面的に解除することを決定

●9月24日　タイ、新型コロナウイルスの対策として約２年半にわたって継続してきた非常事態宣言を30日をもって解除すると発表

○9月26日　経済産業省、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けている文化芸術やスポーツの需要喚起として「イベントワクワク割（わくわり）」（愛称は「わくわり」から「イベント割」へ）の実施を発表。期間は10月11日～２０２３年１月31で予算に達しだい終了

●9月26日　新型コロナウイルス感染者の全数把握を簡略化し、詳しい報告の対象を重症化リスクが高い人に限定する運用が全国一律開始

○9月27日　東宝、帝国劇場が入る「帝劇ビル」の閉館と建て替えにより、帝国劇場を２０２５年に一時休館すると発表

●9月28日　２０２０年に新型コロナウイルスの影響によりたびたび延期・中止になった、２０２２／２０２３シーズン演劇『ガラスの動物園』が新国立劇場中劇場にて開幕（～10月２日）

●9月28日　塩野義製薬、重症化リスクのない人も服用できるよう開発を進めている新型コロナウイルスの飲み薬について、最終段階の治験で、発熱などの症状を改善する効果が確認されたと発表

●9月29日　東京都、政府の観光需要の新たな喚起策「全国旅行支援」について、準備に時間がかかるなどとして、期間の初日となる10月11日からは実施しない考えを示す

●9月29日　ＷＨＯ（世界保健機関）、19日～25日までの１週間あたりの新型コロナウィルス新規感染者数において、日本が53万５５０２人で10週連続世界最多

●9月30日　オーストラリア、これまで義務づけていた新型コロナウイルスの陽性者の隔離を原則撤廃すると発表

○10月１日　国立劇場で「初代国立劇場さよなら公演」の歌舞伎公演が開幕（１日～26日）。２０２０年コロナ禍に無観客収録した動画の配信で話題となった『通し狂言 義経千本桜』が約２年半ぶりに上演

○10月１日　２０２０年に新型コロナウイルスの影響で中止になった、鈴木拡樹主演『アルキメデスの大戦』がシアタークリエで開幕（～17日）

○10月３日　彩の国さいたま芸術劇場大規模改修工事に伴い、２０２４年２月29日まで休館へ。改修工事後の利用再開は、２０２４年３月１日からを予定

●10月５日　厚生労働省、オミクロン株「BA.5」に対応するワクチンについて、国内での使用を正式に承認

●10月５日　厚生労働省の子どもを対象にしたワクチンの使用を正式に承認

●10月５日　厚生労働省の専門家会合、インフルエンザと新型コロナウイルスの同時流行が懸念されると指摘

●10月６日　歌舞伎町に日本文化を発信することを目的としたハナミチ東京が来年８月末に竣工され、地下１階に新世代大衆演劇場・歌舞伎町劇場が２０２３年10月にオープン予定

●10月７日　新型コロナウィルスの感染対策に正当な理由なく応じなければ、施設側が宿泊を拒否できるようにすることなどを盛り込んだ旅館業法の改正案が閣議決定

●10月８日　イギリスのロイヤル・シェイクスピア・カンパニーによる舞台『となりのトトロ』がイギリス・ロンドンのバービカン劇場で開幕（～２０２３年１月21）

○10月９日　２０２０年に新型コロナウイルスの影響で全公演中止になった、ミュージカル『エリザベート』が帝国劇場で開幕（～11月27日）

○10月９日　演劇緊急支援プロジェクト、８月18日～９月14日に実施した「舞台芸術に携わる全ての人のコロナ第７波の影響に関するアンケート」の最終結果を公表

○10月11日　経済産業省、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けている文化芸術やスポーツの需要喚起として「イベント割」の運用開始。イベント・エンターテインメントのチケット価格から２割相当分（上限２、０００円）を割り引くもの

●10月11日　新型コロナウイルスの水際対策が大幅緩和。入国者数の上限撤廃や個人の外国人旅行客の入国解禁など、ほぼコロナ禍前の状態に戻る

○10月11日　コロナ禍で大きな影響を受けた観光業界を支援するため、政府の新たな観光需要の喚起策「全国旅行支援」開始

○10月13日　松竹の中間決算が公表され、演劇事業の売上１０１億、損失13億。前年同期比で、売上は30億増、赤字は半分に

○10月13日　ファイザー、オミクロン株「BA.5」対応の５歳から11歳を対象とした子ども用のワクチンについて、厚生労働省に承認を求める申請

10月13日 ● オミクロン株のうち、感染の主流になっている「BA.5」に対応するワクチンの接種が開始

10月14日 ○ 日本ライブハウス協会など3つのライブハウス業界団体、観客の声の出し方など条件付きで会場の収容率を100％容認するガイドラインを新たにまとめ、14日付で改訂

10月14日 ● 富士フイルム富山化学が開発した新型インフルエンザの治療薬「アビガン」、治験の結果、重症化を抑える効果が確認できなかったとして、開発を中止し承認申請の取り下げを発表

10月17日 ○ 小劇場協会、「東京都内の小劇場における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を17日に修正。舞台から客席の距離は「舞台前から2m以上」から「舞台から2m」。靴底消毒の推奨、受付スタッフの手袋・フェイスガード・シールド等の推奨、名簿作成を削除

10月17日 ○ 文化庁「ARTS for the future! 2」、主要キャスト等が新型コロナウイルスに感染したことによる公演中止・2023年以降への延期に対し、計画変更手続きを経ることで、補助対象経費・キャンセル料を交付決定額の範囲内で補助対象経費として取り扱うと発表

10月18日 ○ 宝塚歌劇団、年末開催の『タカラヅカスペシャル』3年連続で開催見送りを発表

10月20日 ● 「新春浅草歌舞伎」が2023年1月2日～24日に浅草公会堂で上演決定。2020年以来3年ぶりに開催

10月20日 ● WHO（世界保健機関）、新型コロナウイルスの現状について「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を当面続ける方針を示す

10月21日 ○ アーツサポート関西「コクヨ文楽支援基金」の助成により、国立文楽劇場の文楽本公演が500円で楽しめる「ワンコイン文楽」がコロナ禍から3年ぶりに復活。対象公演は、11月と2023年1月公演

10月21日 ● 新型コロナウイルスワクチン接種の間隔が「少なくとも5か月」から「少なくとも3か月」に短縮

10月24日 ○ パルコ・プロデュース2022『凍える』（2日～24日／PARCO劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、千穐楽の公演中止

10月24日 ○ ニューヨークのメトロポリタン歌劇場やカーネギーホールなど、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたことなどを受け、マスクの着用義務が撤廃

10月25日 ○ 政府、2022年度の文化勲章を松本白鸚ら6氏に、文化功労者には松任谷由実ら20人を選出

10月26日 ● 東京都内で使える「GoToイート」のプレミアム付き食事券の販売や申し込みが約2年ぶりに再開

10月27日 ● 東京ディズニーシー、新テーマポート「ファンタジースプリングス」について、新型コロナウイルスの影響に伴う入国制限や物流の遅延などにより、開業時期を2023年度から2024年春に延期を発表

10月28日 ○ 松竹、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため禁止してきた、歌舞伎俳優の屋号を呼びかける「大向こう」を、31日に歌舞伎座で開かれる「十三代目市川團十郎白猿」襲名披露記念の特別公演から再開を発表。4階席にアクリル板の間仕切りをした「大向うエリア」を設置し、観客と2メートルの距離を確保した上で、劇場指定の関係者がマスクを着用したまま行う

10月28日 ● 東京都、オミクロン株の新たな変異ウイルス「XBB」が都内で初確認

10月29日 ○ 渡辺直美主演ミュージカル『ヘアスプレー』（23日～11月8日／梅田芸術劇場メインホール）、29日12時開演回において、公演関係者の新型コロナウイルス感染が確認されたため、上演中に急遽公演が中止。29日17時開演回から11月5日まで公演中止に

10月29日 ● WHO（世界保健機関）、オミクロン株の新たな変異ウイルス「BQ.1」「XBB」について、現時点では、これまでのオミクロン株と比べ大きなリスクの変化はないとする最新の知見を公表

10月30日 ○ 関ジャニ∞の安田章大主演の舞台『閃光ばなし』（8日～30日／東京建物 Brillia Hall）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、千穐楽公演中止

10月31日 ○ 滝沢秀明がジャニーズアイランド代表取締役及びグループ会社役員辞任。代表取締役後任は井ノ原快彦

10月31日 ○ 公益社団法人全国公立文化施設協会「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を10月31日付で改訂。非接触確認アプリに関する記述全面削除

11月1日 ○ 昭和27年に創刊以来、能狂言に関する情報を発信してきた月刊紙の「能楽タイムズ」が、2023年2月をもって休刊を発表

11月1日 ○ 祇園東歌舞会、新型コロナウィルスの影響で中止していた、第63回祇園をどり『蘇民将来末弥栄』を3年ぶりに開催

11月1日 ● 韓国政府、日本人などを対象にした査証（ビザ）免除を正式に再開。新型コロナウイルスの陰性を証明する書類なども不要に

11月2日 ○ ケラリーノ・サンドロヴィッチ作・演出のKERA・MAP #010『しびれ雲』（6日～12月4日／本多劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染症のため、初日および7日の公演を中止

11月2日 ○ 政府、2022年秋の褒章受章者を発表。学問や芸術・文化などの功績者に贈られる紫綬褒章には、作家の大沢在昌、劇作家・演出家のマキノノゾミらを選出

11月2日 ○ 新国立劇場、一部の主催公演で「イベント割」の導入を発表。11月10日～2023年1月までの公演を新規購入する場合に適応。割引額は20％（上限2,000円）

11月3日 ○ 劇団四季『アナと雪の女王』（2021年6月24日～／JR東日本四季劇場［春］）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、3日の公演中止

11月4日 ○ 一般社団法人緊急事態舞台芸術ネットワーク、「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン（第六版）」（11月4日改定）を公開。舞台から客席まで2m（最低でも1m）、接触確認アプリは全面削除等

11月4日 ○ 渡辺直美主演ミュージカル『ヘアスプレー』（23日～11月8日／梅田芸術劇場メインホール）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、10月29日～11月5日に続き、6日まで公演中止期間延長

11月4日 ○ ケラリーノ・サンドロヴィッチ作・演出のKERA・MAP #010『しびれ雲』（6日～12月4日／本多劇場）、開幕に向けた公演準備のため、初日および7日に続き、9日～11日まで公演中止期間延長

11月4日 ● 「平成中村座 十一月大歌舞伎」（3日～27日／浅草浅草寺・仮設劇場）、公演関係者の体調不良により、4日・5日の第一部『寿曽我対面』『舞妓の花宴』『魚屋宗五郎』、第二部『唐茄子屋』『乗合船恵方萬歳』公演中止

11月4日 ● 地域の医療提供体制の強化策を盛り込んだ感染症法などの改正案を付則に修正を加えて採決し、賛成多数で可決

11月4日 ● ファイザーなどが、新型コロナウイルスとインフルエンザの両方に効果がある混合ワクチンについて、アメリカで臨床試験を開始したと発表

11月5日 ○ 「平成中村座 十一月大歌舞伎」（3日～27日／浅草浅草寺・仮設劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染が確認されたため、4日・5日に続き、6日の第一部、第二部の公演も中止に

11月5日 ○ TBS＆HORIPRO present 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（TBS赤坂ACTシアター）、公演関係者の体調不良により、5日18時15分開演回中止

11月6日 ○ TBS＆HORIPRO present 舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（TBS赤坂ACTシアター）、6日12時15分開演回より再開するも、公演関係者複数名の体調不良が発生したため、6日18時15分開演回～14日まで再び公演中止。16日12時15分開演回より再開

11月6日 ○ 渡辺直美主演ミュージカル『ヘアスプレー』（23日～11月8日／梅田芸術劇場メインホール）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、10月29日～11月6日に続き、千穐楽まで公演中止

11月7日 ○ 市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿襲名披露 八代目市川新之助初舞台「十一月吉例顔見世大歌舞伎」（7日～28日／歌舞伎座）開幕。市川團十郎の大名跡が9年ぶりに復活

11月8日 ● 東京都医師会の尾崎治夫会長、新型コロナウイルスの感染状況は「第8波に入りかかっていると考えることもできる」という見解を示す

11月9日 ○ 松野官房長官、今後の感染拡大がオミクロン株と同じ程度の感染力と病原性のウイルスによるものであれば、基本的には行動制限を行わない考えを示す

11月9日 ○ 厚生労働省の専門家会合、全国の新規感染者数は増加傾向で、夏の第7波のような感染拡大につながる可能性があると指摘

11月10日 ○ ケラリーノ・サンドロヴィッチ作・演出のKERA・MAP #010『しびれ雲』（6日～12月4日／本多劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日から11日に続き、12日13時開演回まで公演中止期間を延長し、12日18時30分より開幕

11月10日 ● WHO（世界保健機関）、10月31日～11月6日までの1週間あたりの新型コロナウィルス新規感染

11月11日○ 演劇なかま高円寺vol. 5『わが町 高円寺 今金食堂』（12日・13日／座・高円寺2）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日の公演中止

11月13日○ ミュージカル『エリザベート』（10月9日～11月27日／帝国劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、14日・15日の公演中止。17日より再開

11月15日○ ジャニーズ事務所、コンサートのガイドライン緩和で、不織布マスクの着用を前提に声出しを容認する意向を発表

11月15日○ 国土交通省、訪日外国人観光客の受け入れ拡大に向けて、2年前から停止していた国際クルーズ船の受け入れ再開を発表

11月15日● 名古屋工業大学のグループ、新型コロナウイルスの「第8波」について「第7波」のピークより多い可能性があるとするAIの試算を発表

11月17日● 全国知事会、「すでに感染の第8波に入っている」として、ワクチン接種の促進や自宅療養の支援強化などを国に求める緊急提言をまとめる

11月17日○ 厚生労働省とデジタル庁、新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の機能停止版アプリを配信

11月18日● 政府、医療のひっ迫を防ぐため、都道府県が症状のある人に外出の自粛を要請できるなどとした新たな対応方針の運用を決定

11月22日○ ミュージカル『エリザベート』（10月9日～11月27日／帝国劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、23日・24日の公演中止

11月22日● 北海道、新たに1万1394人の新型コロナウイルス感染を確認。過去最多を更新

11月24日○ ミュージカル『エリザベート』（10月9日～11月27日／帝国劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、23日・24日に続き、千穐楽まで公演中止

11月24日○ ミュージカル『天使にラブ・ソングを ～シスター・アクト～』（13日～12月4日／東急シアターオーブ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、25日～27日まで公演中止

11月24日○ KAAT神奈川芸術劇場プロデュース『ライカムで待っとく』（27日～12月14日／KAAT神奈川芸術劇場）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、初日を30日に延期すると発表

11月24日● 塩野義製薬が開発した新型コロナウイルスの飲み薬「ゾコーバ」、厚生労働省に承認を求める申請を行う。国内開発では初

11月25日○ 三谷幸喜作・演出のシス・カンパニー公演『ショウ・マスト・ゴー・オン』（25日～12月27日／世田谷パブリックシアター）、公演出演者の体調不良により、三谷幸喜が代役出演し開幕

11月25日● 中国、新型コロナウイルスの感染者がおよそ3万2000人と2日連続で過去最多を更新し、感染拡大が続く

11月25日○ 斉藤国土交通大臣、観光需要の喚起策「全国旅行支援」について、新型コロナウイルスの感染状況を見極めたうえで年明け以降も継続を示す

11月26日○ 二兎社公演46『歌わせたい男たち』（18日～12月11日／東京芸術劇場シアターイースト）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、26日18時開演回から12月3日まで公演中止

11月26日● 中国政府、新型コロナウイルスの感染者がおよそ3万4000人と3日連続で過去最多を更新し、「ゼロコロナ」政策のもと厳しい行動制限を実施

11月27日○ 劇団四季『アナと雪の女王』（2021年6月24日～／JR東日本四季劇場［春］）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、27日の公演中止

11月28日○ ミュージカル『天使にラブ・ソングを ～シスター・アクト～』（13日～12月4日／東急シアターオーブ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、25日～27日に続き、29日～12月3日まで公演中止期間を延長し、千穐楽公演は実施

11月28日○ 松竹、歌舞伎座で2023年1月以降に上演される公演について、花道横も含め全座席の販売を再開することを発表。4階幕見席は引き続き販売なし

11月28日● 厚生労働省、新型コロナウイルスとインフルエンザの感染の有無を同時に調べることができる抗原検査キットを一般向けに販売解禁へ

11月29日○ 『白石加代子『百物語』アンコール公演 第四弾』（30日／兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により公演中止

11月29日○ 早稲田大学演劇博物館がデジタルアーカイブ学会第4回学会賞実践賞を受賞。コロナ禍でEPAD（緊急舞台芸術アーカイブ＋デジタルシアター化事業）の一環としてJapan Digital Theatre Archives（JDTA）を開設し、演劇デジタル・アーカイブのハブ形成に向けた一連の活動を高く評価

11月29日● 永岡文部科学大臣、大学入学共通テストで前年度に実施した新型コロナウイルスの影響による救済策を、2022年度は行わない考えを示す

11月30日○ 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点主催、日英国際オンラインシンポジウム「演劇と映像配信の未来を考える 英国ナショナル・シアターと松竹の事例から」を開催。登壇者は、窪寺祐司、河合祥一郎、児玉竜一等

11月30日● 中国、「ゼロコロナ」政策に対する大規模な抗議活動で、国内のネット上で抗議活動の写真や動画などが次々に削除され、当局が検閲強化の可能性

12月1日● 厚生労働省、新型コロナイウルスの感染症法上の扱いについて、見直しに向けた議論を本格化する方針を示す

12月1日○ 通信アプリのLINE、オンライン診療から薬の配送までを一貫して行うサービスに乗り出す

12月1日○ 東京都、新型コロナウイルスの専用病床の使用率が増えていることなどから、医療提供体制の警戒レベルを1段引き上げ

12月2日○ 『大阪環状線 天満駅編 うちの家族は日本一やねん！』（11月28日～12月12日／大阪松竹座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、2日～5日まで公演中止。7日より一部配役を変更して再開

12月3日○ 三谷幸喜作・演出のシス・カンパニー公演『ショウ・マスト・ゴー・オン』（11月25日～12月27日／世田谷パブリックシアター）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、3日・4日の公演中止

12月4日○ 映画会社「東映」の直営第1号でもある映画館「渋谷TOEI」が、シネコンや新型コロナウイルスによる運営困難のため閉館。69年の歴史に幕

12月5日○ 三谷幸喜作・演出のシス・カンパニー公演『ショウ・マスト・ゴー・オン』（11月25日～12月27日／世田谷パブリックシアター）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、三谷幸喜が代役出演し6日18時開演回から再開。三谷幸喜のスケジュールにより7日13時開演回のみ中止。13日より当初のキャストで再開

12月5日○ 2020年に新型コロナウイルスの影響で公演中止になった、白井晃演出『ある馬の物語』が、2023年6月・7月に世田谷パブリックシアターほかで上演決定

12月5日● 中国政府、「ゼロコロナ」抗議活動を受け、一部でPCR検査の陰性証明の提示が不要になるなど、各地で感染対策見直す動き

12月6日○ bpm15周年記念公演『beats per minute CHAIN LIFT』（9日～18日／スペース・ゼロ）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、9日～11日まで公演中止

12月7日○ 中国政府、「ゼロコロナ」政策の規制をさらに緩和。全ての感染者を病院や隔離施設に移す措置をやめ、無症状や症状の軽い人は自宅での隔離を認めると発表

12月8日○ 劇団四季『キャッツ』（7月18日～／名古屋四季劇場）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、8日の貸切公演中止

12月8日○ 東京大学の研究グループ、オミクロン株「BQ.1.1」などの新たな変異ウイルスに対して、飲み薬の効果が確認できたとする実験結果を発表

12月8日○ モデルナのワクチン、3回目以降の追加接種ができる対象年齢を18歳以上から12歳以上に引き下げ

12月9日○ bpm15周年記念公演『beats per minute CHAIN LIFT』（9日～18日／スペース・ゼロ）、新たに公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染が確認されたため、9日～11日に続き、13日～14日まで公演中止期間延長

12月12日● 政府分科会の尾身茂会長、新型コロナウイルスに感染

12月13日● 総務大臣の記者会見で、感染対策のため設置されていたアクリル板が2年ぶりに外される

12月13日● 斉藤国土交通大臣、観光需要が集中する年末年始を対象から外していた「全国旅行支援」について、

12月13日 ● 厚生労働省の分科会、ワクチン接種について〝無料接種〟を見直すべきか議論し２０２２年度中をめどに方向性を示す
12月13日 ○ 中国・北京、新型コロナウイルスの感染対策緩和後、発熱外来を受診した人が1週間前の16倍に上り、感染が急速に拡大
12月14日 ● 中国政府、新型コロナウイルスの無症状の感染者数を発表しない方針を示す
12月15日 ● 厚生労働省など、新型コロナウィルス感染者の葬儀について、最後の別れができるよう見直し案をまとめる
12月15日 ○ 東京都、新たに1万７６８７人の新型コロナウイルス感染を確認。前の週の同じ曜日を上回るのは10日連続
12月15日 ● 東京都、新たに1万５４０３人の新型コロナウイルス感染を確認。前の週の同じ曜日を上回るのは20日連続
12月17日 ○ 劇団四季『アナと雪の女王』（２０２１年6月24日～／ＪＲ東日本四季劇場［春］）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、17日の公演中止
12月17日 ○ ミュージカル『エリザベート』（5日～21日／御園座）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、18日から千穐楽まで公演中止
12月21日 ○ 三谷幸喜作・演出のシス・カンパニー公演『ショウ・マスト・ゴー・オン』（11月25日～12月27日／世田谷パブリックシアター）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、急遽21日の公演を中止し、22日・23日の中止も発表
12月21日 ● 全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、20万６９４３人。約4か月ぶりに20万人超
12月22日 ● 東京都、医療提供体制「最も深刻」な警戒レベルに引き上げ
12月23日 ○ 三谷幸喜作・演出のシス・カンパニー公演『ショウ・マスト・ゴー・オン』（11月25日～12月27日／世田谷パブリックシアター）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、21日～23日に続き、24日13時開演回まで公演中止期間を延長し、24日18時開演回より三谷幸喜が代役出演し再開。26日13時30分に追加公演実施を発表
12月23日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備えるための対策会議を開き、ワクチン接種や対策準備を呼びかけ
12月25日 ● 中国政府、毎日発表してきた新型コロナウイルスの感染者数や死者数の情報について、発表を取りやめる方針を示す
12月26日 ○ ツケヤキバ旗揚げ公演『ぬるま湯のあとさき』（21日～27日／下北沢ＯＦＦＯＦＦシアター）公演関係者の新型コロナウイルス感染により、26日および千穐楽の公演中止
12月26日 ○ 劇団四季『バケモノの子』（4月30日～２０２３年3月21日／ＪＲ東日本四季劇場［秋］）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、27日の公演中止
12月26日 ● ２０２０年に新型コロナウイルスの影響で中止となった、小栗旬主演の彩の国シェイクスピア・シリーズ『ジョン王』がBunkamuraシアターコクーンで開幕（～２０２３年1月22日）
12月26日 ● 中国・浙江省、新型コロナウイルスの1日当たりの新規感染者が１００万人を超えていると発表。感染急拡大
12月27日 ○ 松竹、例年1月2日に浅草公会堂正面玄関前にて行っていた初日鏡開きを、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施の見送りを発表
12月27日 ○ 全国の新型コロナウイルスの新規感染者数、20万２８５３人。島根、山口、愛媛、岐阜で過去最多を更新
12月28日 ● 全国の新型コロナウイルスによる死者数、1日の発表では過去最多となる４１５人
12月29日 ● 全国の新型コロナウイルスによる死者数、1日の発表では過去最多となる４２０人。2日連続で過去最多を更新
12月30日 ● 中国での新型コロナウイルス感染急拡大を受け、中国本土から直行便で日本に入国した人などに対し、成田空港で臨時的な水際措置がとられる

## 2023年

1月2日 ● ミュージカル『エリザベート』、公演関係者の体調不良により、2日１２：００開演回梅田芸術劇場メインホール公演中止
1月2日 ○ 彩の国シェイクスピア・シリーズ『ジョン王』、公演関係者の体調不良により、3日Bunkamuraシアターコクーン公演中止
1月3日 ○ 宝塚歌劇星組「浪漫楽劇『ディミトリ～曙光に散る、紫の花～』―並木陽作『斜陽の国のルスダン』より―」「メガファンタジー『JAGUAR BEAT―ジャガービート―』」、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、4日・5日東京宝塚劇場公演中止
1月4日 ● 彩の国シェイクスピア・シリーズ『ジョン王』、公演関係者の体調不良により、4日１３：３０開演回～8日１２：３０開演回Bunkamuraシアターコクーン公演中止
1月5日 ● 福岡県、２０２２年8月22日以来の1万３０００人超となる1万３０７５人の感染を確認
1月5日 ○ 宝塚歌劇宙組「バウ・ドリーミング『夢現（ゆめうつつ）の先に』」、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、6日～10日東京宝塚劇場公演中止
1月5日 ● 宝塚歌劇星組「浪漫楽劇『ディミトリ～曙光に散る、紫の花～』―並木陽作『斜陽の国のルスダン』より―」「メガファンタジー『JAGUAR BEAT―ジャガービート―』」、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、7日～13日東京宝塚劇場公演中止
1月6日 ● 新型コロナウイルスの感染により亡くなった人の葬儀などに関する国のガイドラインについて、厚生労働省と経済産業省はこれまでの制限を緩和する見直しを行い公表。感染対策をとったうえで、最後の別れができるように
1月6日 ● 全国の新型コロナウイルスによる死者数、1日の発表では過去最多の４５６人。大分、茨城など7県で過去最多の感染者を確認
1月7日 ● 劇団四季『ノートルダムの鐘』、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、6日京都劇場公演中止
1月7日 ● アメリカでオミクロン株「XBB.1.5」が急拡大。他の変異ウイルスより感染を広げる力がより強いとみられる
1月9日 ○ 全国の新型コロナウイルスによる死者数、1日の発表では過去最多の４６３人
1月10日 ○ ホリプロステージ『キングアーサー』、公演関係者の体調不良により、12日～15日新国立劇場 中劇場公演中止
1月10日 ● 昨年10月にスタートし、年末年始は対象から外れていた観光需要の喚起策「全国旅行支援」が再開。旅行代金の割引率はこれまでの40％から20％に引き下げられる
1月10日 ○ 宝塚歌劇花組「ミュージカル・ロマン『うたかたの恋』」「タカラヅカ・スペクタキュラー『ENCHANTEMENT（アンシャントマン）―華麗なる香水（パルファン）―』」、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、10日～16日宝塚大劇場公演中止
1月11日 ○ 帝国劇場『JOHNNYS' World Next Stage』、公演関係者の体調不良により、11日１２：３０開演回公演中止
1月11日 ○ CHAiroiPLIN『BALLO～ロミオとジュリエット～』LINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、公演延期が決定
1月11日 ○ 帝国劇場『JOHNNYS' World Next Stage』、演出を変更し12日から再開決定
1月12日 ● 全国の新型コロナウイルスによる死者数、1日の発表では過去最多の４８９人
1月12日 ● ２０２２年12月に全国の警察が扱った遺体のうち、新型コロナウイルスへの感染が確認された人は過去最多の９０１人であると警察庁が発表
1月12日 ○ 帝国劇場『JOHNNYS' World Next Stage』、公演関係者の体調不良により、12日公演中止
1月13日 ● スキージャンプ女子のワールドカップ蔵王大会が開幕。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりに開催
1月13日 ○ ＴＢＳ赤坂ＡＣＴシアターで上演中の『ハリー・ポッターと呪いの子』、東京公演の総観客数が30万人突破

1月13日 ○ 帝国劇場『JOHNNYS' World Next Stage』、14日17：30開演回から公演再開との発表
1月14日 ● 全国の新型コロナウイルスによる死者数、過去最多の503人
1月14日 ● 北京大学、中国の新型コロナウイルス感染者数が人口の6割余りとなる累計9億人と推計
1月14日 ○ 帝国劇場『JOHNNYS' World Next Stage』、公演関係者の体調不良により、14日～16日公演中止
1月15日 ● 新型コロナウイルス国内初確認から3年経過。NHK世論調査によると、依然84％が感染拡大に「不安だ」と回答
1月15日 ○ 宝塚歌劇花組「ミュージカル・ロマン『うたかたの恋』」「タカラヅカ・スペクタキュラー『ENCHANTEMENT（アンシャントマン）―華麗なる香水（パルファン）―』」、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、10日～16日に続き、17日宝塚大劇場公演、新人公演中止
1月16日 ● 新型コロナウイルスの影響による生活費の「特例貸付」の返済が今月以降順次開始
1月16日 ● 東京都昭島市で救急車が居眠り運転で事故。新型コロナウイルス感染拡大により救急搬送が増加している影響か
1月16日 ○ 「舞台『ウマ娘 プリティーダービー』～Sprinters' Story～」、公演関係者の体調不良により、16日・17日品川プリンスホテルステラボール公演中止
1月17日 ● 加藤厚生労働大臣、新型コロナウイルスを「2類相当」から「5類」へ見直すことも含め検討
1月17日 ● 総務省消防庁、今月15日までの1週間に救急患者の受け入れ先がすぐに決まらない「搬送が困難な事例」は前の週から603件増え、4週連続で過去最多となる8161件だったと発表
1月17日 ● 中国の国家統計局、昨年1年間のGDPの伸び率は前年比プラス3・0％と、「ゼロコロナ」政策の影響により2020年以来の低水準だったと発表
1月17日 ○ 帝国劇場『JOHNNYS' World Next Stage』、演出を変更し18日から再開決定
1月18日 ● 日本政府観光局、昨年の外国人観光客は前年の15倍まで増加したものの、新型コロナウイルス感染拡大前の約12％にとどまると発表
1月18日 ○ 「舞台『ウマ娘 プリティーダービー』～Sprinters' Story～」、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、19日～26日品川プリンスホテルステラボール公演中止
1月19日 ● UNWTO（国連世界観光機関）、昨年の世界の旅行者数は前年の約2倍に増加し、新型コロナウイルス拡大前の63％と発表
1月19日 ● 本会議場の登壇議員は衆参両院でマスク着用を不要にすることで与野党が合意
1月20日 ● 厚生労働省と文部科学省、大学生就職内定率が84・4％となり、新型コロナウイルスの影響がおおむね解消されたと発表
1月21日 ● CDC（アメリカ疾病対策センター）、アメリカ国内での新たな新型コロナウイルス感染者の約半数がオミクロン株「XBB.1.5」に感染していると推計
1月22日 ○ 彩の国シェイクスピア・シリーズ『ジョン王』（2022年12月26日～1月22日／Bunkamura シアタークローン）、公演関係者の体調不良により、22日の公演中止
1月23日 ● 政府、CDC（アメリカ疾病対策センター）をモデルに設立を目指す組織の名称を「国立健康危機管理研究機構」と発表、法案提出へ
1月24日 ○ 彩の国シェイクスピア・シリーズ『ジョン王』（26日～29日／御園座）、公演関係者の体調不良により、26日の公演中止
1月26日 ○ 劇団四季『ライオンキング』、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、有明四季劇場22日公演中止、27日から再開
1月27日 ● 政府の対策本部、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを5月8日に今の「2類相当」から「5類」に移行する方針を決定
1月27日 ● NPB（日本野球機構）、早ければ2月下旬のオープン戦から声出し応援を可能に
1月28日 ● 中国政府、27日までの旧正月の春節に合わせた大型連休で国内外の旅行者が昨年より大幅に増加し、感染拡大前の9割近い水準まで回復したと発表
1月28日 ● CDC（アメリカ疾病対策センター）、アメリカ国内で新たな新型コロナウイルス感染者の61.3％がオミクロン株「XBB.1.5」に感染していると推計
1月30日 ● WHO（世界保健機関）、新型コロナウイルス感染拡大を受けて出している「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言について継続すると発表

1月31日 ● サッカーJリーグ、2月11日に行われる今シーズン最初の公式戦「スーパーカップ」から全ての観客席で声出し応援が可能に
1月31日 ● アメリカのバイデン政権、2020年以降続けてきた新型コロナウイルスをめぐる国家非常事態宣言を、2023年5月11日に解除へ
2月2日 ● 東京都、入院患者数が減少していることなどから、医療提供体制の警戒レベルを最も深刻なレベルから1段引き下げ
2月3日 ● 成田山新勝寺、3年ぶりに通常規模の節分の豆まきを開催
2月6日 ● 中国政府、新型コロナウイルスの影響で3年間にわたって制限されてきた中国人の国外への団体旅行を一部解禁
2月7日 ● 政府、感染症による危機に備え、一元的に対策を行うための司令塔として「内閣感染症危機管理統括庁」を設置するとした内閣法などの改正案を決定。2023年秋頃の発足を目指す方針
2月8日 ● 厚生労働省の専門家会合、卒業式などの学校の式典でのマスク着用は行わなくてもよいとする見解をまとめる
2月9日 ● 文部科学省、学校における教育活動では4月から原則としてマスク着用を求めない方向で調整
2月9日 ● 東京都、新型コロナウイルスの現在の警戒レベルを引き下げ、4段階のうち、下から2番目とする方向で最終調整
2月9日 ○ 2020年に上演予定だったマキノノゾミ脚本『巌流島』、10日に明治座で開幕へ
2月10日 ● 政府、来月前半にもマスク着用を緩和し、屋内・屋外を問わず個人の判断に委ねることを決定
2月10日 ● 岸田総理大臣、今年の卒業式において合唱時などを除き、感染対策を講じれば児童・生徒や教職員はマスクを着用しないことを基本とする方針を表明
2月10日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスのワクチンのうち、従来株に対応したモデルナのワクチンは有効期限を迎えたため国内での接種を終了すると発表
2月10日 ○ 万能グローブガラパゴスダイナモス『運動会をやりたくない』、諸般の事情により、9日19時回、10日14時回下北沢駅前劇場公演中止
2月12日 ● 東京都の感染者数は799人で、約8か月ぶりに1000人を下回る
2月14日 ● 東京都、「5類」移行後は無料検査をやめる一方、高齢者用の臨時の医療施設を継続するなど、重症化リスクの高い人に重点を置いて対応していくことを確認
2月14日 ● 2021年4月に開幕するも新型コロナウイルスの影響で中止となっていた中島かずき脚本『サンソン―ルイ16世の首を刎ねた男―』、新キャストで4月上演へ。東京、大阪、長野での公演を予定
2月15日 ● 1月の訪日外国人旅行者数は149万人と、前の月より12万人余り増加
2月17日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスが「5類」に移行するのに合わせて、法令上の名称を「コロナウイルス感染症2019」にする案を検討
2月17日 ● 緊急事態舞台芸術ネットワーク「舞台芸術公演における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」改訂。マスク着用は継続、大声に関する事項を削除。声援を惹起する演出禁止も削除
2月18日 ● ブラジルの「リオのカーニバル」、3年ぶりに通常の日程で開催
2月19日 ● 東京都の感染者数、前の週の同じ曜日を33日ぶりに上回る
2月20日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスのワクチンについて、来年3月まで無料接種を継続する方向で調整
2月20日 ○ 「舞台『魔法使いの約束』祝祭シリーズ Part 1」、公演関係者の体調不良により、21日天王洲銀河劇場公演中止。21日にインフルエンザ感染判明のため24日までの公演中止決定
2月21日 ● 加藤厚生労働大臣、新型コロナウイルスの「5類」移行を受け、アクリル板の設置などマスク以外の対策の見直しも検討
2月22日 ● 厚生労働省分科会、新型コロナウイルスのワクチン接種について、来年3月までの無料接種および重症化リスクの高い高齢者の年2回の接種の方針を了承
2月22日 ● 高野連（日本高校野球連盟）、選抜高校野球大会について、入場制限は行わずマスク着用のうえ声出し応援を認める
2月24日 ○ 『キャッツ』、公演関係者の発熱により、24日名古屋四季劇場公演中止
2月25日 ● 小売業界団体、統一的なマスク着用の推奨をやめ、個人や事業者の判断に委ねる決定

2月27日 ● 雇用調整助成金、新型コロナウイルスによる特例措置を終了し、新年度から通常の運用に戻すことを決定
2月27日 ● 政府、中国を対象にした新型コロナウイルスの水際対策を3月1日から緩和し、入国時検査を一部に限定
2月28日 ● 新型コロナウイルスオミクロン株対応ワクチン、3月上旬から5〜11歳も接種の対象に
2月28日 ● 観光庁によると、２０２２年のホテルなどの宿泊者数は新型コロナウイルス拡大前の7割に回復
3月1日 ● 香港、約3年間継続したマスクの着用義務を全面的に撤廃。新型コロナウイルスの規制が全てなくなる
3月2日 ● 東京都の新型コロナウイルスの入院患者数、約8か月ぶりに１０００人を下回り８６６人に
3月2日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスの「5類」移行後、検査や外来診療の費用を患者の自己負担とする方向で検討
3月3日 ● 政府、長引く新型コロナウイルスの影響による孤独や孤立の問題対策のため、「孤独・孤立対策推進法案」を決定
3月7日 ● アメリカのＣＤＣ（疾病対策センター）をモデルとした「国立健康危機管理研究機構」の創立法案が閣議決定
3月9日 ● 新型コロナウイルスの影響で自粛が求められていた都立公園での飲食を伴う花見が4年ぶりに可能に
3月10日 ● 「全国旅行支援」、大型連休期間中を除き２０２３年度も実施する方針
3月10日 ● 自衛隊による新型コロナウイルスワクチンの大規模接種会場、今月25日で閉鎖へ
3月12日 ○ 小劇場協議会、「東京都内の小劇場における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を廃止
3月13日 ● 新型コロナウイルス対策としてのマスク着用、本日から個人の判断に委ねられる
3月15日 ● 中国政府、観光ビザの申請を再開すると発表
3月17日 ● 文部科学省、4月からの学校教育現場でマスク着用を求めないとする衛生管理マニュアルを通知
3月20日 ○ ２０２２年に新型コロナウイルスにより公演中止となっていたラッパ屋のリーディング公演『ショウは終わった』『七人の墓友』、5月に紀伊國屋ホールで上演決定
3月21日 ● 韓国、日本からの修学旅行生の受け入れを約3年ぶりに再開
3月25日 ● 新型コロナウイルスの影響で運休していた茨城空港の国際線が3年ぶりに再開
3月30日 ● 松野官房長官、新型コロナウイルスのワクチン購入量について客観的に妥当性を検証できる資料作成などの対応をしていく考えを示す
3月31日 ● 新型コロナウイルスの新規感染者数の1週間平均、前週比1.12倍となり、2か月半ぶりに増加
4月1日 ● 学校でのマスク着用が原則不要に
4月2日 ● 総務省消防庁、２０２２年に全国で救急車が出動した件数が初めて７００万件を超えて過去最多だったと発表
4月3日 ● 松野官房長官、中国対象の新型コロナウイルスの水際措置について、5日から緩和し、陰性証明の提出を求めないと発表
4月6日 ○ ミラクル☆ステージ『『サンリオ男子』〜KIRAKIRA KANSAI PARADE #世界クロミ化計画〜』（7日〜16日／品川プリンスホテルクラブeX）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、7日〜13日公演中止
4月7日 ● 加藤厚生労働大臣、新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが「5類」に移行することを受けて、療養期間の考え方を提示する方針を示す
4月10日 ○ 1月31日に営業を終了した東急百貨店本店土地の再開発計画に伴い、Bunkamuraはオーチャードホールを除き２０２３年4月10日から２０２７年度中（時期未定）まで休館
4月11日 ● 隅田川花火大会、新型コロナウイルスの感染法上の位置づけが「5類」に移行することを受けて、7月に4年ぶりに開催されることが決定
4月12日 ● 厚生労働省、「5類」移行後の感染者数把握について「全数把握」から指定した医療機関に週1回報告してもらう「定点把握」に変更へ
4月12日 ● 厚生労働省、「5類」移行後の療養期間について、発症後5日間を目安として示す方針を検討
4月13日 ● 新型コロナウイルスの新規感染者数の7日間平均が２０２３年2月下旬以降初めて１０００人を超える
4月14日 ○ ２０２１年4月に開幕するも新型コロナウイルスの影響で中止となっていた中島かずき脚本『サンソーールイ16世の首を刎ねた男―』（14日〜30日／東京建物Brillia HALLほか）が開幕
4月17日 ● ブロードウェイで最長記録を誇るミュージカル「オペラ座の怪人」が、新型コロナウイルス以降集客数が伸びなかったことにより35年の歴史に幕を下ろす
4月17日 ● 日光市で新型コロナウイルスの影響で中止されていた「弥生祭」が4年ぶりに開催
4月18日 ○ ミュージカル『マチルダ』（3月25日〜5月6日／東急シアターオーブ）、公演関係者の発熱等体調不良により、18日18時、19日18時公演中止。19日13時公演は一部キャストを変更して上演
4月19日 ○ 『おかしな二人』（8日〜26日／シアタークリエ）、公演関係者の体調不良により、19日〜21日の公演中止
4月19日 ○ ミュージカル『マチルダ』（3月25日〜5月6日／東急シアターオーブ）、公演関係者の体調不良により、18日に引き続き19日13時の公演中止
4月21日 ● 衆議院、「5類」に移行する5月8日以降、本会議の質疑の際に全ての議員が出席できるように戻すことを決定
4月21日 ○ 『おかしな二人』（8日〜26日／シアタークリエ）、公演関係者の体調不良により、19日〜21日に引き続き22日〜26日の公演中止
4月25日 ● 中国、入国者へ求める新型コロナウイルスの検査をＰＣＲ検査から自宅で実施できる抗原検査に切り替えると発表
4月27日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけを5月8日に季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行することを正式に決定
4月28日 ● 政府、「5類」移行に伴い、3年余りにわたって設置されていた対策本部の廃止を決定
4月29日 ● 新型コロナウイルスの水際対策として求められてきたワクチン接種の証明書などの提出が不要に
5月1日 ● 新国立劇場、5月8日に「新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」廃止決定
5月2日 ● アメリカ、入国時のワクチン接種証明の提示を5月11日から不要にすると発表
5月5日 ● ＷＨＯ（世界保健機関）、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて出している「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」宣言を終了すると発表
5月7日 ● 「Jリーグ、「5類」移行を受けて感染対策ガイドラインの運用廃止へ
5月7日 ● 劇団四季『美女と野獣』（２０２２年10月23日〜／舞浜アンフィシアター）、公演出演者の新型コロナウイルス感染により、7日の公演中止
5月8日 ● 松野官房長官、8日からの「5類」移行に伴い、パンデミック自体の終了宣言を出す考えはないと説明
5月8日 ● 全国の感染者数について毎日行われてきた厚生労働省の発表、8日からの「5類」移行に伴う「全数把握」の終了に併せて終了
5月8日 ● 新型コロナウイルスのワクチン接種、高齢者などを対象にした追加接種が開始
5月8日 ○ 「5類」移行を受け、学校の出席停止の期間の基準が「発症の翌日から5日間」に短縮
5月8日 ○ ジャニーズグループ、コンサート開催ガイドライン廃止
5月8日 ○ 公文協（公益社団法人全国公立文化施設協会）、「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」廃止
5月9日 ● 衆議院本会議、「5類」移行に伴う制限解除により、約3年ぶりに全議員が出席し質疑実施
5月9日 ● 厚生労働省、「5類」移行に伴い、9日で死亡者と重症者の数の発表を終了
5月10日 ○ 『帰ってきたマイ・ブラザー』（11日〜14日／御園座）、高橋克実の体調不良により、11日〜14日公演はキャストを小林顕作に変更し上演
5月11日 ● 政府分科会の尾身会長や専門家ら約90人、新型コロナウイルスの対応の記録を公表
5月11日 ○ 劇団文化座『母』（5月5日〜14日／俳優座劇場）、公演出演者の体調不良により、11日〜14日の公演中止
5月12日 ● アメリカのバイデン政権、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたとして、11日に国家非常事態宣言を解除

5月13日 ● G7（主要7か国）の保健相会合が長崎市で開幕。新たな感染症対策などを議論
5月14日 ● G7（主要7か国）の保健相会合が閉幕。感染症の流行に備え、ワクチンが行き渡る取り組みを進めていくなどとした共同声明を発表
5月17日 ○ ２０２３年1月から3月までの日本人旅行者の国内消費額、新型コロナウイルス流行前の２０１９年の同じ時期の水準を上回る
5月17日 ○ 現地時間16日に第76回カンヌ国際映画祭開会（27日まで）
5月18日 ● 新型コロナウイルスの影響で中止になった２０２０年の夏の全国高校野球に出場する機会を失った当時3年生の球児たちが、11月に甲子園球場で試合などを行って交流する取り組みを発表
5月19日 ○ 劇団四季『クレイジー・フォー・ユー』（4月25日～ＫＡＡＴ神奈川芸術劇場〈ホール〉）、公演出演者の体調不良により、18日～21日の公演中止
5月20日 ● アメリカの製薬会社モデルナの日本法人、新型コロナウイルスの感染者数を毎日推計して掲載するウェブサイトを開設
5月22日 ● 羽田空港、新型コロナウイルスの影響で閉鎖が続いていた第2ターミナルの国際線が発着する施設を再開することを決定
5月23日 ● 台湾、今後のパンデミックへの備えなどについて議論が行われる予定のＷＨＯ（世界保健機関）の年次総会への参加認められず
5月23日 ○ 『ミュージカル『刀剣乱舞』～花影ゆれる砥水～』（26日～28日／北九州ソレイユホール）、公演関係者の新型コロナウイルス感染により、26日～28日の公演中止
5月28日 ○ 役所広司が『PERFECT DAYS（原題）』の演技で第76回カンヌ国際映画祭の男優賞を受賞
5月28日 ○ 是枝裕和が監督を務め、坂元裕二が脚本を手がけた『怪物』が第76回カンヌ国際映画祭脚本賞受賞
5月31日 ● 観光庁、２０２３年4月の国内宿泊者数は前年同月比41％増加と発表。新型コロナウイルス流行前の92％の水準まで回復
5月31日 ● 参議院本会議にて、今後の感染症に備え、ＣＤＣ（アメリカ疾病対策センター）をモデルにした「国立健康危機管理研究機構」を創設する法律が可決・成立
5月31日 ● 参議院本会議にて、「孤独・孤立対策推進法」が可決・成立。長引く新型コロナウイルスの影響による孤独・孤立問題への対策の強化が目的
5月31日 ○ コロナ禍で開催を控えていた船乗り込みが4年ぶりに復活。博多座「六月博多座大歌舞伎」の出演者が参加
5月31日 ○ 「六月大歌舞伎」から歌舞伎座に一幕見席が復活、指定席エリアが新たに誕生
5月31日 ○ 宝塚歌劇星組『１７８９―バスティーユの恋人たち―』（6月2日～7月2日／宝塚大劇場）、公演関係者の体調不良者で公演準備に遅れが発生し、6月2日の開演時間を13時から15時30分開演に変更
6月1日 ○ 『新橋演舞場シリーズ第9弾!!　東京喜劇熱海五郎一座幕末ドラゴン～クセ強オンナと時をかけない男たち～』（31日～6月25日／新橋演舞場）、公演関係者の体調不良により1日～5日の公演中止
6月2日 ● 東京都の福祉保健局、新型コロナウイルスのＰＣＲ検査を無料で行っていた11事業者が検査数を水増しして、約１８３億円の補助金を不正に申請していたと発表
6月2日 ○ 宝塚歌劇星組『１７８９―バスティーユの恋人たち―』（2日～7月2日／宝塚大劇場）、公演関係者の体調不良により、3日～8日の公演中止
6月3日 ● 文部科学省、試験中のマスク着用不要など、新型コロナウイルス前の形に戻すことを基本とする大学入試の実施要項を公表
6月7日 ○ 宝塚歌劇星組『１７８９―バスティーユの恋人たち―』（2日～7月2日／宝塚大劇場）、公演関係者の体調不良により、3日～8日に続き、9日～15日の公演中止
6月9日 ● 新型コロナウイルスに特化した初めての研究集会が開催。ウイルス学の研究者などおよそ２００人が参加
6月9日 ○ 『エンジェルス・イン・アメリカ』（10日／兵庫県立芸術文化センター　阪急中ホール）、公演関係者の体調不良により、10日の公演中止
6月10日 ○ 宝塚歌劇月組『DEATH TAKES A HOLIDAY』（12日～28日／東急シアターオーブ）、公演関係者の体調不良により、12日～15日の公演中止
6月14日 ● 立憲民主党、新型コロナウイルス感染後の後遺症に関する対策法案を国会に提出
6月14日 ○ 宝塚歌劇星組『１７８９―バスティーユの恋人たち―』（2日～7月2日／宝塚大劇場）、公演再開準備のため3日～15日に続き、16日～18日11時の公演中止。再開準備が整わないため、22日の新人公演中止
6月14日 ○ ２０２５年、俳優座劇場閉館決定
6月15日 ○ 宝塚歌劇月組『DEATH TAKES A HOLIDAY』（12日～28日／東急シアターオーブ）、公演関係者の体調不良により、12日～15日に続き、16日～18日の公演中止
6月16日 ● 厚生労働省の専門家会合、「5類」移行後初の開催。夏に一定の感染拡大可能性があると分析
6月20日 ● 千葉市、新型コロナウイルスの自宅療養で貸し出していたパルスオキシメータの未返却が相次いでいると公表
6月20日 ● 労災の認定基準について、心理的な負荷が大きいとしてリスクを伴う感染症への対応を追加
6月21日 ○ 『パラサイト』（5日～7月2日／THEATER MILANO-Za）、公演関係者の体調不良により、21日～24日の公演中止
6月22日 ○ 『キノの旅Ⅱ』（15日～25日／あうるすぽっと）、公演関係者の体調不良により、22日の公演中止
6月22日 ○ 『帰ってきたマイ・ブラザー』（23日・24日／仙台電力ホール）、公演関係者の体調不良により、23日、24日の公演中止
6月23日 ● 全国のデパートの売り上げ、「5類」移行を受け旅行やビジネス向けの需要が高まり、15か月連続の増加
6月23日 ○ 『キノの旅Ⅱ』（15日～25日／あうるすぽっと）、公演関係者の体調不良により、22日に続き、23日の公演中止
6月23日 ○ ミュージカル『青春-AOHARU-鉄道』（15日～25日／天王洲銀河劇場）、公演関係者の体調不良により、23日の公演中止
6月24日 ○ ミュージカル『青春-AOHARU-鉄道』（15日～25日／天王洲銀河劇場）、25日・26日公演は牧田哲也、西本健太郎の出演を見合わせ、演出変更、アンサンブルを船橋拓幹に出演者変更し上演
6月26日 ● 政府分科会の尾身会長、全国的には感染者数が微増傾向で、第9波が始まっている可能性があると指摘
6月26日 ● 沖縄県、1つの医療機関あたりの平均患者数が全国最多となり医療提供体制がひっ迫しているため、軽症患者を受け入れる医療施設を那覇市内で稼働
6月27日 ○ 『帰ってきたマイ・ブラザー』（29日・30日／ロームシアター京都メインホール）、堤真一の体調不良により、29日、30日公演はキャストを小林顕作に変更し上演
6月30日 ● 財務省、大規模会場での新型コロナウイルスワクチンの集団接種にかかる費用が割高になっているとして、自治体に対して個別接種に切り替えるよう要求
6月30日 ○ 『FACTORY GIRLS』（29日～7月2日／COOL JAPAN PARK OSAKA WWホール）、能條愛未の体調不良により、30日の公演中止。7月1日、2日はキャストを杉山真梨佳に変更し上演
7月1日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスの感染が沖縄県で急拡大していることを受け、医療体制等の状況を把握し対策を検討する方針
7月3日 ○ プロ野球、新型コロナウイルス感染の疑いがあるときに1軍選手の登録を抹消した後、通常の10日を待たずに再登録が可能となる「コロナ特例」を今シーズン限りで終了することを決定
7月3日 ● 成人を迎えた日中の学生の門出を祝う式典が4年ぶりに上海で開催
7月5日 ● 日本医師会、新型コロナウイルスの沖縄での感染状況などを踏まえ、現状は第9波と判断することが妥当と指摘
7月6日 ○ 『Arcana Shadow』（1日～9日／サン・シャイン劇場）、松島勇之介の体調不良により、6日・7日13時の公演中止。7日18時30分～9日はキャストを村田洋二郎に変更し上演
7月6日 ○ 『昼下がりの思春期たちは漂う狼のようだ』（6月29日～7月9日／東京芸術劇場シアターイースト）、公演関係者の体調不良により、6日の公演中止
7月7日 ● 後藤新型コロナウイルス対策担当大臣、患者数が大きく伸びてはいないとして、現時点では「第9波」に当たらないとの認識
7月7日 ● ファイザーとモデルナ、オミクロン株の一種「XBB.1.5」に対応したワクチンについて、それぞれ

7月7日●厚生労働省に承認を申請
厚生労働省、約2か月後に新型コロナウイルスの死者数をとりまとめ、月に1度結果を公表することを決定
7月7日○『昼下がりの思春期たちは漂う狼のようだ』（6月29日～7月9日／東京芸術劇場シアターイースト）、公演関係者の体調不良により、7日～9日の公演中止
7月7日○『SHOW BOY』（1日～21日／シアタークリエ）、公演関係者の体調不良により、7日～9日の公演中止
7月8日●中国の春秋航空、新千歳と上海を結ぶ便を約3年4か月ぶりに運航再開
7月8日●舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』（2022年7月～／TBS赤坂ACTシアター）、公演関係者の体調不良により、8日～10日の公演中止
7月9日○『SHOW BOY』（1日～21日／シアタークリエ）、公演関係者の体調不良により、7日～9日に続き、10日～11日の公演中止
7月11日●京都大学ら、新型コロナウイルスの流行による生活の変化について、5歳の子供は平均で4ヶ月あまり発達が遅かったと分析
7月14日●国連、世界各地で飢えに苦しむ人に関して、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から回復しつつあるものの、以前最大7億8300万人いると推定
7月16日●政府分科会の尾身会長、沖縄のような状況がほかの地域にも広がっていくことは十分に考えられるとして、全国的な感染の増加傾向は当面続くとの見解を示す
7月21日●人間国宝に宝生欣哉、五街道雲助、金剛永謹、茂山七五三、吉田玉男、中村歌六ら。日本舞踊が国の重要無形遺産に指定
7月23日○兵庫県立ピッコロ劇団第76回公演『やわらかい服を着て』（21日～25日／ピッコロシアター大ホール）、公演関係者の体調不良により、23日11時の公演中止
7月23日●兵庫県立ピッコロ劇団第76回公演『やわらかい服を着て』（21日～25日／ピッコロシアター大ホール）、検査結果陰性のため、23日16時公演から再開
7月25日●新型コロナワクチン後遺症患者の会、新型コロナウイルスワクチン接種後の健康被害について、国や自治体に実態の把握と迅速な救済を要求
7月25日●厚生労働省、新型コロナウイルスの入院患者や重症者数について、9月下旬から「定点把握」を始めることを決定
7月25日●北朝鮮、新型コロナウイルス流行後初の中国代表団の訪朝を発表
7月26日●日本医師会の釜萢常任理事、新型コロナウイルスのワクチン接種について、高齢者や基礎疾患のある人以外に積極的に接種を呼びかける必要はないとの認識を示す
7月27日●厚生労働省、新たな感染症の検査薬やワクチンなどの開発を推進するため、8月から研究者や企業を対象に新型コロナウイルスなどの検体情報の公開を決定
7月27日○国立文楽劇場「夏休み文楽特別公演」（7月22日～8月13日／国立文学劇場）、吉田文司の体調不良により、キャストを吉田文哉に変更して上演
7月28日●感染症対策を一元的に担う司令塔となる政府の新たな組織「内閣感染症危機管理統括庁」が9月1日に発足することが決定
7月28日○国立文楽劇場「夏休み文楽特別公演」（7月22日～8月13日／国立文学劇場）、吉田清五郎の体調不良により、キャストを吉田玉翔に変更して上演
7月30日○国立文楽劇場「夏休み文楽特別公演」（7月22日～8月13日／国立文学劇場）、桐竹紋吉の体調不良により、キャストを吉田玉誉に変更して上演
7月31日●厚生労働省、第一三共が開発した新型コロナウイルスのワクチンを国内製薬会社として初めて承認
7月31日○国立文楽劇場「夏休み文楽特別公演」（7月22日～8月13日／国立文学劇場）、竹澤團七、竹本津國太夫、鶴澤友之助、吉田簑一郎の体調不良により、キャストを竹澤團吾、野澤錦吾、鶴澤燕二郎、吉田簑紫郎に変更して上演
8月1日●厚生労働省、新型コロナウイルスのワクチンについて、来年度から一部自己負担となる「定期接種」に変更するか本格的に検討を始める方針
8月1日○国立文楽劇場「夏休み文楽特別公演」（7月22日～8月13日／国立文学劇場）、公演出演者の体調不良により、2日～5日の公演中止
8月1日○劇団四季『ジョン万次郎の夢』（7月31日～8月1日／上野学園ホール）、公演出演者の体調不良により、1日の公演中止
8月2日●全国知事会会長の平井知事、後藤新型コロナウイルス対策担当大臣と面会し、流行を客観的に判断できる基準を設けることなどを要求
8月9日●近畿日本ツーリストの高浦社長、新型コロナウイルス関連事業の過大請求問題を受け辞任を発表
8月9日●劇団四季『エルコスの祈り』（5日～9月2日／自由劇場）、公演出演者の体調不良により、9日、10日の公演中止
8月10日●厚生労働省、新型コロナウイルス感染拡大時の「注意喚起の目安」となる4指標を作成
8月10日●中国政府、中国人の日本への団体旅行を約3年半ぶりに再開
8月11日●劇団四季『エルコスの祈り』（5日～9月2日／自由劇場）、公演出演者の体調不良により、9日、10日に続き、11日の公演中止
8月13日○『ビートルジュース』（4日～27日／新橋演舞場）、公演関係者の体調不良により、14日～16日の公演中止
8月15日●宝塚歌劇星組『1789―バスティーユの恋人たち―』（7月22日～8月27日／東京宝塚劇場）、公演関係者の体調不良により、15日～17日の公演中止
8月17日●日本生産性本部、テレワークの状況について、2020年5月から半分程度減少し15・5％であると発表
8月17日○宝塚歌劇星組『1789―バスティーユの恋人たち―』（7月22日～8月27日／東京宝塚劇場）、公演関係者の体調不良により、15日～17日に続き、18日の公演中止
8月17日○『ビートルジュース』（4日～27日／新橋演舞場）、公演関係者の体調不良により、18日より当面の間配役を変更して上演
8月18日●兵庫県、新型コロナウイルス感染の入所者対応でうつ病を発症した女性に労災を認定
8月20日●成田空港、「5類」移行後初めてのお盆休みの出国者は昨年の3・6倍になると発表
8月21日●観光庁の高橋長官、年内にもひと月あたりの訪日旅行数がコロナ前の水準に回復する見解を表明
8月22日●北朝鮮、新型コロナウイルス感染対策を理由として停止していた国際線を約3年半ぶりに運航
8月25日●政府の「新型インフルエンザ等対策推進会議」の議長を務め、新型コロナウイルス感染対策の推進にあたってきた尾身茂氏が会議体制の見直しに伴い退任する見通し
8月25日●政府、来月発足する感染症対策を一元的に担う司令塔となる新たな組織「内閣感染症危機管理統括庁」の担当大臣に、後藤新型コロナウイルス対策担当大臣を充てることを発表
8月25日●成田空港の国際線を利用者がコロナ禍前の76％まで回復。このうち、日本人の利用者はコロナ禍前の5割程度だったのに対し、外国人の利用者はほぼ同水準まで回復
8月25日○a new musical『ヴァクラント』（19日～31日／明治座）、公演関係者複数名の体調不良により、25日～28日の公演中止
8月27日●北朝鮮、新型コロナウイルスの感染状況改善を受け、海外に滞在する国民の帰国の許可を発表
8月29日●a new musical『ヴァクラント』（19日～31日／明治座）、平岡祐太、玉置成実の体調不良により、30日・31日のキャストを当銀大輔、杉山真梨佳変更して上演
8月30日○厚生労働省、患者の受け入れに備えて病床を確保した医療機関に支払ってきた補助金について、今後一定の感染拡大まで支給しない方向で検討
8月30日○a new musical『ヴァクラント』（19日～31日／明治座）、31日のキャストを当初の配役に戻して上演
9月1日●国立がん研究センター、おととしの日本人の死亡率が10年ぶりに増加したと発表。新型コロナウイルスの流行が影響している可能性があると示唆
9月1日●令和4年度の医療費、2年連続で過去最高を更新。オミクロン株の流行で新型コロナウイルスの患者数が増えたことが主な要因
9月1日●感染症対策を一元的に担う司令塔となる「内閣感染症危機管理統括庁」が発足
9月4日●加藤厚生労働大臣、全国知事会から高額な治療薬の費用などに対する国の公費負担の継続を求める提言を受理

9月4日●後藤感染症危機管理担当大臣、新型インフルエンザなどの流行に備えた政府の行動計画を来年の夏ごろに改訂する方向で検討

9月7日●新型コロナウイルスのワクチン接種、２０２４年度からは高齢者など重症化リスクの高い人を対象に、年1回で調整

9月7日○東京夜光『fragment』（8日～18日／吉祥寺シアター）、公演関係者複数名の体調不良により、8日～10日の公演中止

9月8日○新型コロナウイルスのワクチン接種、全額公費の特例について、２０２３年度末での終了が決定

9月8日○厚生労働省、新型コロナウイルスの「空床補償」補助金について、2年間に５００億円以上を全国の病院に過大に支払っていたと発表

9月11日○文学座『アナトミー・オブ・ア・スーサイド　―死と生をめぐる重奏曲―』（11日～29日／文学座アトリエ）、公演関係者の体調不良により、11日～13日の公演中止

9月12日○東京都医師会の尾崎会長、新型コロナウイルスの患者数の増加傾向が続いていることを踏まえ、「第9波に入っている」として感染症対策の実施を呼びかけ

9月14日○文学座『アナトミー・オブ・ア・スーサイド　―死と生をめぐる重奏曲―』（11日～29日／文学座アトリエ）、公演関係者の体調不良により、11日～13日に続き、15日～20日の公演中止

9月15日○会計検査院、新型コロナウイルス感染対策として計上された国の予算のうち、国会の承認を得ずに使い道を決められる予備費に8兆２０００億円余りが支出されていたことを公表

9月15日○13日、二代目市川猿翁死去。83歳

9月16日○東京夜光『fragment』（8日～18日／吉祥寺シアター）、中山麻聖の体調不良により、16日～18日公演はキャストを川名幸宏に変更して上演

9月19日○『ロミオとジュリエット』（13日～24日／有楽町よみうりホール）、公演関係者の体調不良により、19日、20日の公演中止

9月19日○歌舞伎座新開場十周年「秀山祭九月大歌舞伎」（2日～25日／歌舞伎座）、松本幸四郎の体調不良により、昼の部二部『土蜘』のキャストを尾上菊之助に、夜の部三部『一本刀土俵入』のキャストを中村勘九郎に変更して上演

9月21日○『ロミオとジュリエット』（13日～24日／有楽町よみうりホール）、矢部昌暉の体調不良により、21日以降キャストを田中亨に変更して上演

9月22日○岸田総理大臣、新たなパンデミックが発生した際に途上国が速やかに対策を取れるよう、資金を貸し付ける新たな円借款制度を創設する考え

9月23日●新型コロナウイルスの後遺症の症状が重く長期化した女性に初の傷病補償年金の支給が決定

9月23日●歌舞伎座新開場十周年「秀山祭九月大歌舞伎」（2日～26日／歌舞伎座）、24日より松本幸四郎復帰

9月23日○ミュージカル『アナスタシア』（12日～10月7日／東急シアターオーブ）、葵わかなの体調不良により、23日・24日はキャストを木下晴香に変更して上演

9月26日○日本透析委員会、重症化率の高い人工透析を受けている患者について、「5類」移行以降も感染した際の致死率が約2％と高い状態と発表

9月26日○ミュージカル『アナスタシア』（12日～10月7日／東急シアターオーブ）、田代万里生の体調不良により、26日～30日はキャストを堂珍嘉邦に変更して上演

9月28日○ミュージカル『アナスタシア』（12日～10月7日／東急シアターオーブ）、木下晴香の体調不良により、28日～10月1日はキャストを葵わかなに変更して上演

10月1日○ミュージカル『生きる』（9月29日～10月1日／梅田芸術劇場メインホール）、村井良太の体調不良により、1日のキャストを齋藤信吾に変更して上演

10月3日○ノーベル生理学・医学賞、新型コロナウイルスの「mRNAワクチン」の開発で大きな貢献をしたカリコ氏・ワイスマン氏が選出

10月4日○劇団☆新感線　いのうえ歌舞伎『天號星』（9月14日～10月21日／THEATER MILANO-Za）、公演関係者の体調不良により、4日～9日の公演中止

10月5日●東京高等裁判所、新型コロナウイルスの給付金制度で性風俗業が対象外とされたことは憲法に違反しないと判事

10月6日●日本小児科学会、すべての小児にワクチン接種を推奨する考えを提示

10月10日●武見厚生労働大臣、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備え、早めのワクチン接種を呼びかけ

10月11日●プロ野球観客数、「声出し応援」が解禁され昨シーズンと比べ２００万人増加。コロナ禍前の水準まで回復

10月12日○『ミュージカル「忍たま乱太郎」第13弾再演　ようこそ！忍たま文化祭！』（9月29日～10月15日／東京ドームシティ　シアターGロッソ）、武井ダマセノ瑠珂の体調不良のため、12日はキャストを東條桜典に変更して上演

10月13日○国際空港のターミナルや旅客機から出された下水を分析することで、海外から流入する感染症を予測する研究が関西空港で開始

10月14日○『ミュージカル「忍たま乱太郎」第13弾再演　ようこそ！忍たま文化祭！』（9月29日～10月15日／東京ドームシティ　シアターGロッソ）、武井ダマセノ瑠珂の体調不良のため、15日はキャストを東條桜典に変更して上演

10月15日●新型コロナウイルスの後遺症は血液中物質に特定の変化がみられる、とアメリカの研究チームが発表

10月15日○宝塚歌劇月組『フリューゲル―君がくれた翼―』『万華鏡百景色』（10月14日～11月19日／東京宝塚劇場）、公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染、インフルエンザ感染により、15日～17日の公演中止

10月17日○宝塚歌劇月組『フリューゲル―君がくれた翼―』『万華鏡百景色』（10月14日～11月19日／東京宝塚劇場）、18日から公演再開決定

10月18日○宝塚歌劇月組『フリューゲル―君がくれた翼―』『万華鏡百景色』（10月14日～11月19日／東京宝塚劇場）、公演関係者複数名の新型コロナウイルス感染、インフルエンザ感染により、18日以降キャストを変更して上演

10月19日●厚生労働省、一部の自治体や医療機関で予約が取りづらくなっていることなどから、新たに１０００万回分のワクチンを追加購入

10月21日●感染対策のための交付金で購入されたマスクや消毒液などの90品目のうち半分以上が使われていないことが判明

10月23日○「錦秋十月大歌舞伎」（2日～25日／歌舞伎座）、坂東巳之助の体調不良により、昼の部一部『天竺徳兵衛韓噺』のキャストを尾上中村種之助に、夜の部一部『双蝶々曲輪日記』のキャストを坂東新悟、中村虎之介に変更して上演

10月24日●「バーチャル渋谷」にてハロウィーン開催へ。感染症・トラブル対策のため

10月27日●渋谷区、条例に基づき渋谷駅周辺の路上飲酒を制限し、トラブルへの警戒を強化

10月29日○国立劇場閉場式

11月4日○横浜市立大学の研究グループ、新型コロナウイルスの後遺症の一つで記憶障害などが起きる「ブレインフォグ」の発症の仕組み解明の臨床研究を開始

11月7日○武見厚生労働大臣、感染症が流行しやすい冬を前に咳止めなどの医薬品の増産を要請

11月7日○「ゼロゼロ融資」など新型コロナウイルスに対応した特別貸付、およそ６９７億円が回収不能と判明

11月10日●新型コロナウイルスの1医療機関あたりの平均患者数が「5類」移行後最少に

11月11日○『ジャンヌ・ダルク』（28日～12月17日／東京建物Brillia Hall）、荒木飛羽が体調不良により降板、代役として島村龍乃介

11月13日○「平成中村座小倉城公演」（1日～26日／平成中村座）、公演関係者複数名の体調不良により、13日夜の部の公演中止。14日以降中村歌之助、中村鶴松から昼の部一部『義経千本桜　渡海屋 大物浦』のキャストを中村かなめ、中村いてうに、夜の部『小笠原諸礼忠孝 通し狂言小笠原騒動』のキャストを中村七之助、坂東新悟、中村虎之介、片岡松十郎に変更して上演

11月14日○「平成中村座小倉城公演」（1日～26日／平成中村座）、中村鶴松の体調不良により、15日以降は昼の部一部『義経千本桜　渡海屋 大物浦』のキャストを中村かなめに、夜の部『小笠原諸礼忠孝 通し狂言小笠原騒動』のキャストを坂東新悟、片岡松十郎に変更して上演

11月15日○舞台『OUT OF ORDER』（16日～19日／兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール）、トリンドル

11月15日 ● 玲奈の体調不良により、16日以降キャストを平井珠生に変更して上演
厚生労働省、特別養護老人ホームなどの入所者の体調急変に備え、夜間・休日に診療や相談ができる「協力医療機関」を施設ごとに定めることを義務化する方針
11月15日 ● 公正取引委員会、新型コロナウイルス患者の移送業務の入札にて旅行大手など5社が談合々独占禁止法に違反した疑いがあるとして、立ち入り検査を実施
11月15日 ● 日本感染症学会、妊婦には使用できない新型コロナウイルスの治療薬が妊娠に気づく前に処方されるケースが相次いでいるとして、注意を呼びかける声明を発表
11月15日 ● 10月の訪日外国人、月別で新型コロナウイルス感染拡大前を上回る。２０２０年以降、感染拡大前の２０１９年の同じ月を上回るのは初めて
11月17日 ○ 「平成中村座小倉城公演」（1日～26日／平成中村座）、17日より中村鶴松復帰
11月17日 ● 厚生労働省、第一三共が開発した新型コロナウイルスのワクチンの承認後に１４０万回分購入することで会社と同意
11月18日 ○ 舞台『OUT OF ORDER』（16日～19日／兵庫県立芸術文化センター 阪急 中ホール）、18日よりトリンドル玲奈復帰
11月20日 ○ 『月とシネマ』（6日～28日／ＰＡＲＣＯ劇場）、奥田一平の体調不良により、当分の間キャストを池田倫太郎に変更して上演
11月20日 ● 財政制度等審議会、診療報酬について、現役世代の負担を軽減するため医療従事者の人件費などにあたる部分を引き下げるよう要請
11月22日 ● 厚生労働省、来年度から新型コロナウイルスのワクチン接種について、接種を受ける人に原則費用の一部負担を求めることを決定
11月25日 ○ 劇団四季『クレイジーフォー・ユー』（25日／フェニックス・プラザ）、公演関係者の体調不良により公演中止
11月27日 ● 金融庁、「ゼロゼロ融資」の返済が本格化する中、金融機関に対し取引先への支援の軸先を資金繰りから事業再生に移行するよう要請
11月28日 ○ 『ジャンヌ・ダルク』（28日～12月17日／東京建物 Brillia Hall）、野坂弘、粟野史浩の体調不良により、28日～12月1日公演はキャストを田口太智、渡邊りように変更して上演
11月28日 ● 第一三共が開発した新型コロナウイルスワクチン、使用が了承される。国産のワクチンが実際に接種で使えるようになるのは初めて
12月1日 ○ 『ジャンヌ・ダルク』（28日～12月17日／東京建物 Brillia Hall）、野坂弘、粟野史浩の体調不良により、2日・3日公演はキャストを田口太智、渡邊りように変更して上演
12月1日 ● 新型コロナウイルスの1週間あたりの1つの医療機関の平均患者数、約3か月ぶりに増加
12月3日 ● 京都大学、新型コロナウイルスのワクチン接種の効果によって感染者数や死者数が大幅に減少した可能性があるとする試算結果を発表
12月4日 ○ 『ジャンヌ・ダルク』（28日～12月17日／東京建物 Brillia Hall）、深水元基の体調不良により4日～8日公演はキャストをワタナベケイスケに変更して上演
12月7日 ○ こまつ座『連鎖街のひとびと』（11日～12月3日／紀伊国屋サザンシアター TAKASHIMAYA）、公演関係者の体調不良により、29日・30日の公演中止
12月8日 ● 新型コロナウイルスの後遺症に悩む患者らの会「全国コロナ後遺症患者と家族の会」発足。厚生労働省に支援の強化などを要望
12月8日 ● 去年1年間の刑法犯の認知件数、20年ぶりに増加。法務省、新型コロナウイルスによる行動制限が緩和されたことが背景にあると分析
12月12日 ● 年末年始の新幹線の予約状況、新型コロナウイルス感染拡大前と比べ10％増加
12月13日 ● 初の国産新型コロナウイルスワクチンの接種が開始
12月15日 ● 地方制度調査会、新型コロナウイルス対応の課題を踏まえ、国民の安全に重大な影響を及ぼす時は、法律がなくても国が自治体に必要な支持を行うべきとする答申を提出へ
12月21日 ● ＷＨＯ（世界保健機関）、新型コロナウイルスワクチンの公平な分配を目指す国際的な枠組み「ＣＯＶＡＸファシリティ」を年内に終了すると発表
12月21日 ● 岸田総理大臣、国民の安全に重大な影響を及ぼす感染症などが発生した場合には、国が自治体に必要な指示を行えるように地方自治法の改正を検討
12月22日 ● 小中学生の体力調査、男子は新型コロナウイルス感染拡大以降初めて合計点が前年度を上回る
12月22日 ● 厚生労働省、新型コロナウイルスワクチンの接種費用の自己負担額を最大で７０００円程度にする方針
12月25日 ● 新型コロナウイルスの従来株に対応したアメリカのノババックスのワクチン、有効期限を迎えたため国内での接種終了
12月26日 ● 政府、コロナ禍における緊急対策会議を含む17の関係閣僚会議について、役割を終えたなどとして廃止することを決定
12月28日 ● 山口県光市の診療所、インフルエンザのワクチン接種のために訪れた4人に誤って新型コロナウイルスのワクチンを接種していたことが判明
12月28日 ● 新型コロナウイルス変異ウイルスである「JN.1」、検出急増

早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点　主催事業報告集
「新型コロナウイルスと演劇・ミュージアム・社会」

2024年3月31日

編　集／鳩飼 未緒、長谷川 理絵（早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点）
発　行／文部科学省「共同利用・共同研究拠点」
早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点
拠点代表　児玉 竜一

早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点
〒169-8050　東京都新宿区西早稲田1-6-1
早稲田大学早稲田キャンパス6号館
TEL：03-5286-1829　URL：https://prj-kyodo-enpaku.w.waseda.jp

印　刷／株式会社ワードオン

主　催／早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点
共　催／立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

978-4-948758-30-8

enpaku

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館